

斐伊川放水路建設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書 X

三田谷 III 遺跡

2000年3月

建設省出雲工事事務所
島根県教育委員会

斐伊川放水路建設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書 X

三田谷Ⅲ遺跡

2000年3月

建設省出雲工事事務所
島根県教育委員会

序

建設省出雲工事事務所では、斐伊川・神戸川流域の抜本的な治水対策として斐伊川放水路事業を推進しています。

事業の実施に際しては、埋蔵文化財の保護にも十分留意しつつ関係機関と協議しながら進めていますが、避けることのできない埋蔵文化財については、事業者の負担によって必要な調査を実施し、記録保存を行っています。

当事務所では放水路の早期完成を目指し、平成3年度から島根県教育委員会のご協力のもとに調査を行っています。今回調査箇所からは古墳時代後期の横穴式石室2基、また縄文時代以降の遺物が発見されました。

建設省出雲工事事務所といたしましては、今後も同教育委員会と調整を図りつつ、貴重な埋蔵文化財の記録保存のため調査を円滑に進めてまいりたいと考えており、本報告書が、埋蔵文化財に対するより一層の关心とご理解を得るための資料としてお役立ていただければ幸いに思います。

最後に今回の発掘調査及び本書の編集にあたり、ご指導ご協力いただいた島根県教育委員会並びに関係各位に対し、心から厚くお礼申し上げます。

平成12年3月

建設省中国地方建設局出雲工事事務所

所長 五道仁実

序

島根県教育委員会は、建設省中国地方建設局の委託を受け、平成3年度以来、斐伊川放水路建設予定地内で遺跡の発掘調査を行っています。本書は平成10年度に発掘調査を実施した遺跡のうち、三田谷Ⅲ遺跡について、その調査結果をまとめたものです。

斐伊川・神戸川の二大河川が流れる出雲市周辺地域は、島根県内でも有数の遺跡集中地域であり、数多くの歴史的文化遺産の残っているところです。今回は、斐伊川放水路開削部のうち、上塙治町内の調査を行いました。この調査により、6世紀後半の横穴式石室を発見するなど大きな成果を上げることができました。いずれも、この地域の歴史を解明する上で貴重な資料となるものです。

本書が地域の埋蔵文化財に対する理解や歴史学習に活用されることを期待いたします。

なお、発掘調査及び本書の刊行にあたりましては地元の皆様、建設省中国地方建設局出雲工事事務所をはじめ、関係者の皆様から多くの御協力を得ましたことに対して心から御礼申し上げます。

平成12年3月

島根県教育委員会

教育長 山崎悠雄

例　　言

1. 本書は建設省中国地方建設局の委託を受けて、島根県教育委員会が平成10年度に実施した、斐伊川放水路建設予定地内三田谷Ⅲ遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査組織は次の通りである。

調査主体　島根県教育委員会

○平成10年度 [1999]

事務局 勝部 昭（文化財課課長）、穴道正年（埋蔵文化財調査センター長）、島地徳郎（課長補佐）、秋山 実（課長補佐）、松本岩雄（課長補佐）、川崎 崇（企画調整係主事）、山本悦子（島根県教育文化財団嘱託）

調査員 内田律雄（調査第2係主幹）、伊藤 智（埋蔵文化財調査センター主事）、持田和男（文化財保護主事）、石原隆文（臨時職員）

○平成11年度 [2000]

事務局 穴道正年（埋蔵文化財調査センター所長）、秋山 実（総務課課長）、松本岩雄（調査課課長）、今岡 宏（総務係係長）、渡邊紀子（主任主事）、川崎 崇（主事）、山本悦子（島根県教育文化財団嘱託）

調査員 伊藤 智（埋蔵文化財調査センター主事）

3. 発掘作業（発掘作業員雇用、測量発注ほか）については、島根県教育委員会から中国建設弘済会へ委託して実施した。

社団法人 中国建設弘済会島根支部

布村幹夫（現場事務所長）、原 博明、中村弘巳、小村敏行、高橋憲生、岡山篤史、板倉次郎（以上技術員）、板倉律子、渡部美智子（以上事務員）

発掘作業員

青木俊幸、荒薗重子、荒薗 実、飯塚春枝、飯塚美代子、石川美奈子、板垣芳子、奥井惣一、奥井久子、加藤敏男、板垣幸子、塩野啓子、高橋イキコ、高橋加代子、富田トシ子、富室 和、成柏律子、日野定雄、三成銀一郎、山田朝野、吉田末子、吉田延子、吉田清夫

4. 発掘調査にあたっては、以下の方にご指導していただいた。（敬称略）

渡部貞幸（島根大学法文学部教授）

5. 遺物の実測・整理などは主として調査員が行い、松本岩雄、柳浦俊一、岡本友紀、門脇卓子、佐々木孝子、難波夏枝、阿部春枝、糸賀五月、加藤麻子、須山啓子、田村尚子、原 昭枝の協力を得た。

6. 遺物の写真撮影は調査員で行った。

7. 掘岡中の方位は、第1図については国土調査法による第3座標系の軸方位で、その他については磁北方位を示している。

8. 本書で使用した遺跡記号は以下の通りである。

S I (堅穴住居跡) S X 0 1 (三田谷4号墳) S X 0 2 (三田谷5号墳)

9. 出土遺物及び、実測図、写真は島根県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 位置と環境	2
第3章 遺跡の概要	4
第4章 2区の調査	5
(1) 横穴式石室	5
(2) 壴穴住居	20
(3) 2区出土遺物	22
第5章 1区の調査	25
(1) 繩文土器	27
(2) 弥生土器	48
(3) 土器	49
(4) 石器	53

挿 図 目 次

第1図 調査対象位置図	1
第2図 周辺の後期古墳	2
第3図 調査区位置図	4
第4図 二田谷Ⅲ遺跡2区調査前測量図	6
第5図 三田谷4号墳填丘測量図	7
第6図 一田谷Ⅲ遺跡2区調査終了後測量図	8
第7図 二田谷4号墳実測図	9
第8図 三田谷4号墳上層図	10
第9図 一田谷4号墳石室尖測図1	11
第10図 二田谷4号墳石室尖測図2	12
第11図 三山谷4号墳遺物出土状況1	13
第12図 二田谷4号墳遺物出土状況2	14
第13図 三田谷4号墳石室内遺物出土状況	15
第14図 一田谷4号墳石室内床石下遺物出土状況	16
第15図 二田谷4号墳調査終了後尖測図	17
第16図 三田谷5号墳上層図	18
第17図 一田谷5号墳石室尖測図	19
第18図 二田谷4号墳及びS I O 1尖測図	20
第19図 S I O 1遺物出土状況	21
第20図 S I O 1尖測図及び土層図	22
第21図 2区出土遺物実測図1	23
第22図 2区出土遺物実測図2	24
第23図 1区調査範囲図	25
第24図 1区南壁土層図	26
第25図 1区包含層出土遺物実測図1	31
第26図 1区包含層出土遺物実測図2	32
第27図 1区包含層出土遺物尖測図3	33

第28図	1区包含層出土遺物実測図4	34
第29図	1区包含層出土遺物実測図5	35
第30図	1区包含層出土遺物実測図6	36
第31図	1区包含層出土遺物実測図7	37
第32図	1区包含層出土遺物実測図8	38
第33図	1区包含層出土遺物実測図9	39
第34図	1区包含層出土遺物実測図10	40
第35図	1区包含層出土遺物実測図11	41
第36図	1区包含層出土遺物実測図12	42
第37図	1区包含層出土遺物実測図13	43
第38図	1区包含層出土遺物実測図14	44
第39図	1区包含層出土遺物実測図15	45
第40図	1区包含層出土遺物実測図16	46
第41図	1区包含層出土遺物実測図17	47
第42図	1区包含層出土遺物実測図18	50
第43図	1区包含層出土遺物実測図19	51
第44図	1区包含層出土遺物実測図20	52
第45図	1区包含層出土遺物実測図21	53
第46図	1区包含層出土遺物実測図22	54
第47図	1区包含層出土遺物実測図23	55
第48図	二田谷Ⅲ遺跡出土石器実測図1	56

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

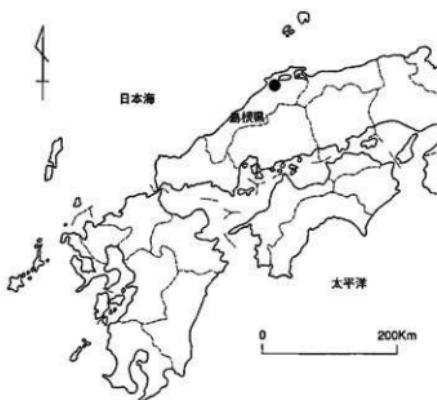
斐伊川放水路事業は斐伊川の計画高水流量の一部を中流左岸の出雲市人津町来原付近から新たに放水路を開削して分流し、出雲市上塩冶町半分付近において神戸川に合流させるものである。また、それにより神戸川下流は、神戸川の自己流量と斐伊川からの分流量を合わせて、計画高水流量の斐伊川放水路として必要な掘削・築堤工事を行おうとする事業である。その規模は、開削部4.1km、拡幅部9.0kmで、全長13.1kmにも及ぶ。この計画は、斐伊川の流水の一部を早く、しかも安全に日本海に流すことを目的としたもので、島根県が昭和44年に基本構想を発表、同50年に基本計画を策定し、建設省が同51年に確定したものである。ルートの最終決定は54年のことであった。

こうした事業計画の推移・決定のなか、島根県教育委員会は昭和50年度に島根県企画部の依頼を受けて、分流地域の分布調査を実施し、その結果を昭和51年3月に『斐伊川放水路建設予定地域埋蔵文化財分布調査報告書』としてまとめ提出した。また、昭和53・54年度には、建設省出雲工事事務所から委託を受けて、上塩冶を中心とする出雲市全域と簸川郡大社町に所在する遺跡を対象しながら一部発掘調査を含んで分布調査を行い、この結果をもとに、昭和55年3月に『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書』を刊行した。

その後、事業地の用地買収が進む一方で、平成元年度より建設省出雲工事事務所、島根県斐伊川・神戸川治水対策課及び島根県教育局文化課の三者で協議が進められ、平成3年1月には文化課が再度分布調査を実施した。そして、同年度末には同事務所と文化課との間で協議文書が交わされ、事前に予定地内にある埋蔵文化財を発掘調査することが決定し、平成3年4月より発掘調査事業がスタートすることとなった。

第2節 調査の経過

三田谷Ⅲ遺跡の発掘調査は平成10年4月13日から開始し、同年12月25日に現地においての調査をほぼ完了した。期間の前半は谷部（1区）の調査を中心にを行い、農作業用道路の付け替え工事終了後の8月下旬から斜面裾部（2区）の調査に入った。調査面積は3,353m²であった。

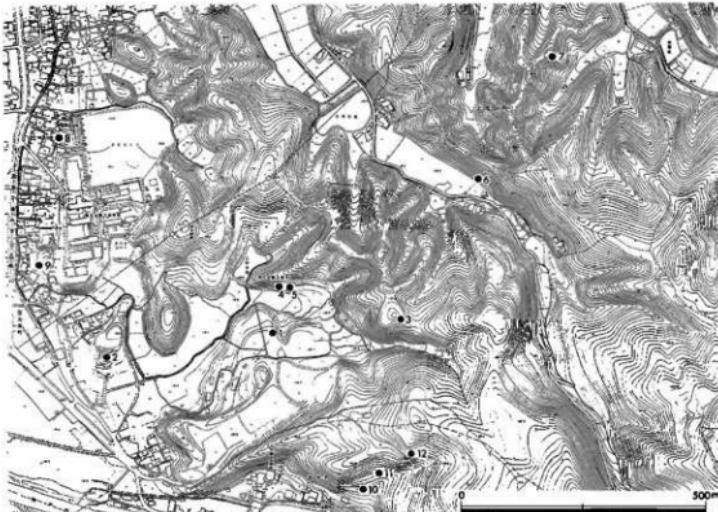


第1図 調査対象位置図

第2章 位置と環境

三田谷Ⅲ遺跡は出雲市上塙治町に所在し、出雲平野の南側丘陵に位置する。この丘陵は南から北に向かって伸びており、出雲平野に丘陵の尖端がやや突き出た状態になっている。また丘陵の東西を斐伊川、神戸川が流れしており、出雲を代表する2大河川が最も接近する場所でもある。この地は古墳時代後期の出雲西部を代表する墳墓が存在する。出雲市今市町の大念寺古墳は全長91mを測る県内最大級の前方後円墳である。全長12.8mの横穴式石室を有し、奥室には長さ3.3m、幅1.7m、高さ1.9mを測る家形石棺が置かれている。大念寺古墳は、当時の出雲平野を統轄するような強固な政治力・経済力を有した首長の墓であったと考えられる。大念寺古墳に続く首長墓であったと考えられる上塙治築山古墳は大念寺古墳の南南西1.6kmに位置する。墳丘は後世かなり削り取られているが本来は直径40数mの円墳と推定される。全長14.6mの横穴式石室を有し、奥室に長さ2.8m、幅1.4m、高さ1.7mまた長さ2.1m、幅1.4m、高さ1.4mを測る2個の石棺が置かれている。上塙治築山古墳の南600mの位置にこれに続く首長墓であったと考えられる地蔵山古墳が存在する。後世かなり削り取られており、墳形、墳丘規模は定かではない。全長9.0mの横穴式石室を有し、奥室に長さ2.4m、幅0.8m、高さ1.4mの石棺と、長さ2.4m、幅1.3m、高さ0.5mの石床が置かれている。地蔵山古墳以降は首長墓クラスの大型古墳はこの地区ではなくなり、代わって凝灰岩に横穴墓が多数築造されるようになる。また地蔵山古墳の南270mの位置に復元全長40mを測る前方後円墳の半分古墳が存在する。詳細は不明であるが、石室形態により大念寺古墳と同時期の古墳と考えられている。

近年の発掘調査で三田谷及びその周辺で横穴式石室が幾つか調査されている。三田谷の丘陵斜面



第2図 周辺の後期古墳

または据部に今川の調査を含めて5基の石室が確認されており、時期が不明のものもあるが、石室形態などから上塙冶築山古墳と同時期頃構築されたと考えられる。また三田谷から北東に丘陵を越えた谷に大井谷1号墳が確認されている。地蔵山古墳に続く時期、つまり塙冶地区で横穴墓が盛行していた時期に構築された可能性がある。大井谷1号墳から北東300mには狐廻谷古墳が確認されているが、墳丘及び石室の多くは失われていた。

また三田谷の南に位置する神戸川に面した丘陵斜面には光明寺古墳群が存在し、横穴式石室を持つ古墳があることが知られている。

周辺の後期古墳一覧表

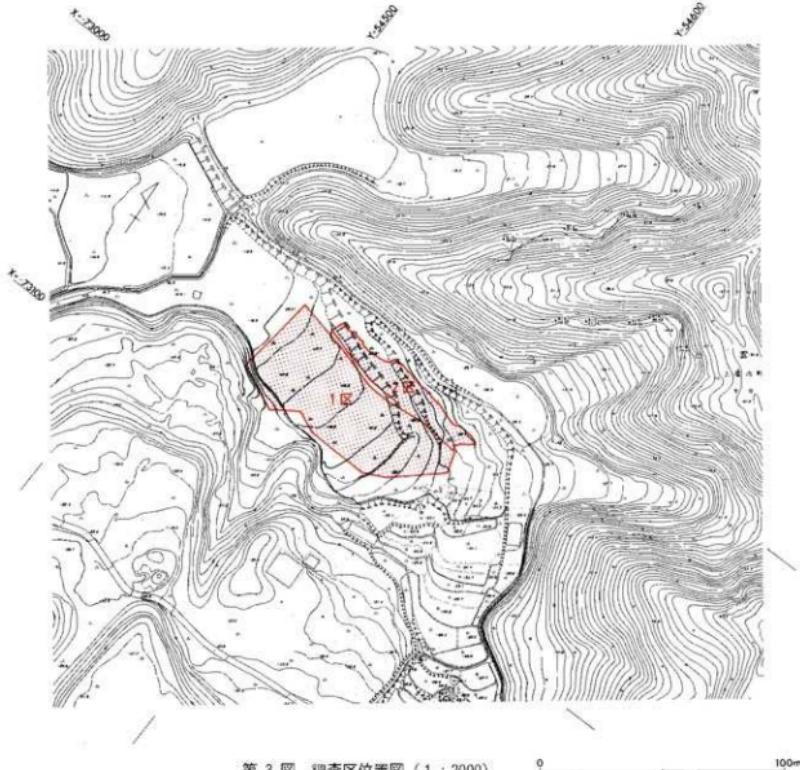
遺跡名		遺跡名
1	三田谷1号墳	7 狐廻谷古墳
2	三田谷2号墳	8 地蔵山古墳
3	三田谷3号墳	9 半分古墳
4	三田谷4号墳	10 光明寺1号墳
5	三田谷5号墳	11 光明寺2号墳
6	大井谷1号墳	12 光明寺3号墓

第3章 遺跡の概要

三山谷Ⅲ遺跡は出雲市上塩冶町に所在し、神戸川右岸の標高17～23mの三山谷のいちばん奥に立地する遺跡である。三山谷は、出雲平野に向かって南から北に突き出た丘陵の北西端で東の斐伊川と西の神戸川に挟まれた場所に位置している。遺跡は南側の谷部（1区）と北側の丘陵裾部（2区）からなっている。遺跡の範囲内は近年まで耕作地として利用されていた。

1区は、谷のいちばん深い部分にあたり造構は確認できなかったが繩文時代前期末から古墳時代前期にかけての遺物包含層を確認した。2区は丘陵の裾の部分にあたり、古墳時代中期の堅穴住居1棟、古墳時代後期の横穴式石室2基、古墳時代前期から近世にかけての遺物を確認した。

横穴式石室は西から二山谷4号墳、5号墳とした。2基とも凝灰岩の切石をもちいているが、後世の攪乱により2基とも完全な形をとどめてはいなかった。4号墳石室東の墳丘下に堅穴住居を確認したが、丘陵斜面に立地しており斜面下方（南側）は流出していた。また5号墳の墳丘東から子持壺が出土したが、5号墳に伴うかどうかは確認できなかった。



第3図 調査区位置図 (1:2000)

0 100m

第4章 2 区の調査

2区は谷をつくる北側斜面の裾の部分にあたり、北西から南東にのびる細長い地形で最近まで斜面を削って耕作地として利用されていた。調査の結果、横穴式石室2基、古墳時代中期の堅穴住居1棟を確認した。横穴式石室については、近年の三田谷における発掘調査によりすでに3基の横穴式石室が確認されており、今回調査した2基については西から三田谷4号墳、三田谷5号墳とした。また堅穴住居は、三田谷4号墳石室東側の盛土の下から検出された。その他遺構に伴わない遺物として、須恵器、土師器、子持壺などを確認した。

(1) 横穴式石室

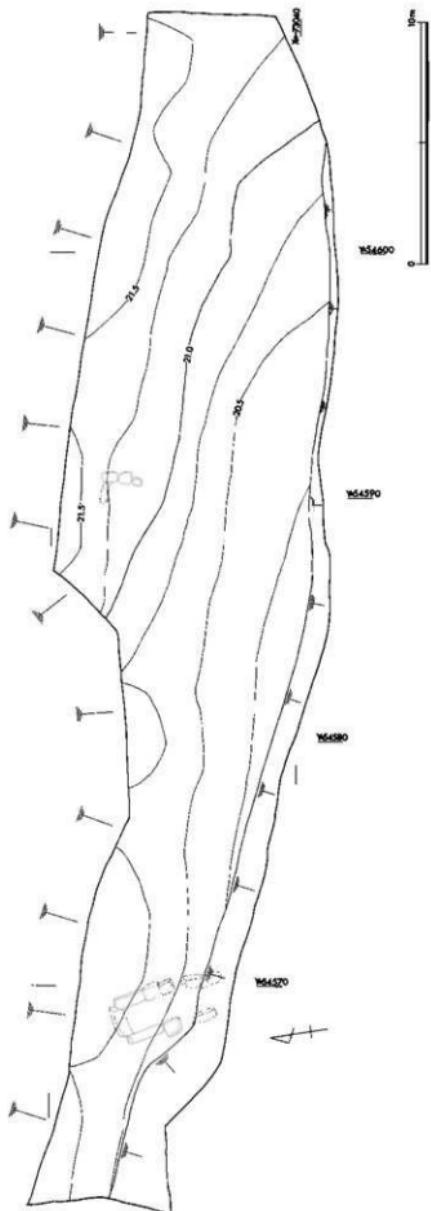
三田谷4号墳

立地 三田谷4号墳は三田谷の一番奥まった部分の斜面裾に位置する。北側は丘陵斜面、南は谷の最深部で、谷を挟んだ南側の丘陵部には三田谷1号墳が位置していた。石室は標高19m付近に構築されている。

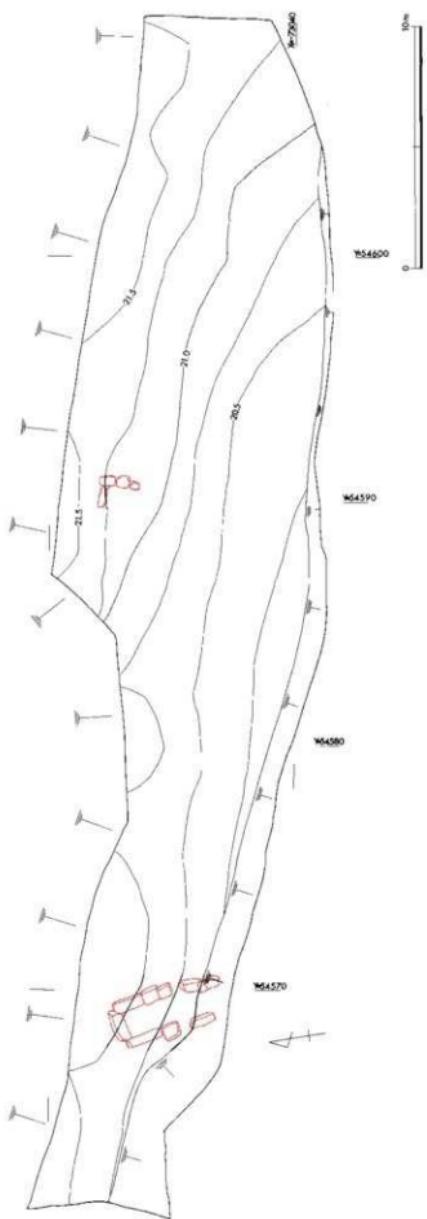
墳丘 (第5図) 前述したとおり石室周辺は最近まで耕作地として利用されており、全体的に擾乱をうけている。また石室の位置はちょうど加工段と加工段の間の斜面に位置しており、墳丘の両半分及び南北部分は流出してなくなっている。さらに北側については調査できなかったので、墳丘の確認は、石室の東側と西側の一部にとどまった。墳形、墳丘規模は判断できない。

墳丘構築状況 (第7、8図) 石室構築前の旧表土は石室西側で確認できた(第27層)が、他からは確認できなかった。東から西に、また北から南に緩やかに下る旧地形の高い部分、つまり石室東及び北側を削り出し平坦面をつくって石室を構築している。平坦面は、現状で南北4.7m、東西2.8mの大きさで、平面隅丸方形をなしている。平坦面に石室を構成する凝灰岩の切石を1段置いた後、拳大から直径50cmを超える裏込め石を置いて上(第25層)を盛っている。さらに黒色粘質土と黄褐色粘質土(第9~24層)を交互に敷き詰めて裏込めをしている。側壁及び奥壁が1段しか残っておらず、また擾乱をうけているため正確には分からぬが、その上を赤褐色粘質土(第8層/第20図-第4、5層)で墳丘を成形していたと考えられる。なお第1層から第7層は後世の擾乱及び耕作上である。

石室 (第9、10、11、15図) 石室は主軸をS-14°-Eにとり、ほぼ東南に開口する。現状で奥壁1枚、右側壁は奥壁から5枚、右側壁は3枚残し犬升石は残っていない。石材は全て凝灰岩の切石である。奥壁から4枚目の右側壁は現状で斜めに切った状態で2段になっているが、本来は1枚の石材で、切り組み積み加工した後に割れたと考えられる。よって奥壁、両側壁は1段のみ残存する。また奥壁から3枚目と4枚目の右側壁部分と、2枚目と3枚目の左側壁部分が現状でそれぞれ30cm、40cmあいている。本来この位置に袖石が挟まれていた可能性がある。4枚目と5枚目の右側壁は正面から見て内側(内側)に傾いているが、これは後世の擾乱による。現状で玄室の規模は長さ2.4m、幅1.2m、高さ1.0m、羨道の規模は長さ1.7m、幅1.2m、高さ0.7m、石室全体の長さは4.4mを測る。玄室内には凝灰岩の切石による床石2枚(本来は1枚の右)と有縁石床2枚がほぼ原位置に近い状態で残されている。床石は縦90cm横40cm高さ10cmのほぼ平面長方形に近い形で、奥



第4図 三田谷Ⅲ遺跡2区調査前測量図 (1:200)



第4図 三田谷Ⅲ遺跡2区調査前測量図 (1:200)



第5図 三田谷4号墳墳丘測量図 (1:200)

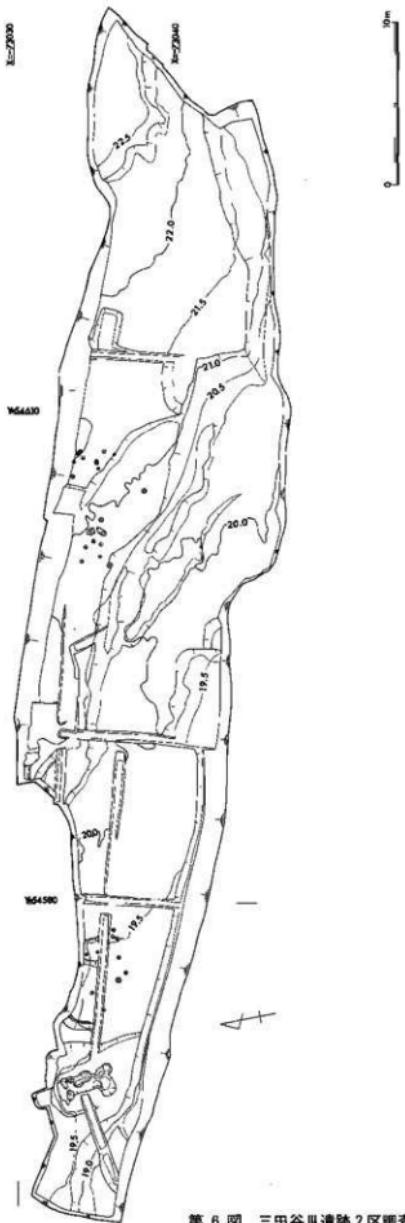
壁と右側壁に接している。有縁石床は本来は玄室の左側壁に接する状態で3枚ないしは4枚の切石で、縁は平面逆L字状に設置されていたと考えられるが、現状では奥壁側の1枚と玄門側の1枚をとどめているのみである。大きさは長さ2.0m、幅58~68cm、仕切を含めた高さ15cm、仕切の高さ3cm、仕切の幅7~10cmを測る。現状で残っている石材は上面がかなり壊れており、本来の構造を推し量るのは困難であるが、奥壁から2枚目の右側壁上面に切り組み積みの痕跡がみられることから玄室については奥壁は1段、両側壁は2段以上の構造だったと考える。羨道についても奥壁から4枚目の右側壁上面に切り組み積みの痕跡があり、2段以上の壁体構造だったことが分かる。また左右の側壁によって奥壁を挟む構造になっている。石材は前述した平坦面に基底石探し穴を設げずにそのまま置かれている。また玄室の外側には石材に寄り添うように裏込め石が置かれている。羨道部外側は擾乱がはげしく、裏込め石は少ししか確認できなかった。

遺物出土状況 (第11、12、13、14図) 古墳は斜面に構築されており、さらに後世の擾乱もあって多くの遺物は流出していると思われる。石室東の墳丘と地山の境界近くでまとまって須恵器が出土している。須恵器がまとまって出土していることと、緩やかに窪んだ地形が地山において北から南に伸びていることから、本来この部分に古墳の周溝がめぐっていた可能性が考えられる。ただ第11、12図に示す須恵器は耕作土直下の墳丘流石（第20図第1層直下、第3層上面）から出土しており、周溝に、または墳丘上、墳丘中に置かれていたかは判断できない。石室内についても床石及び石床の下まで擾乱をうけている。第13図に示す遺物は第4~6層中から出土し、第14図に示す遺物は第7層から出土した。

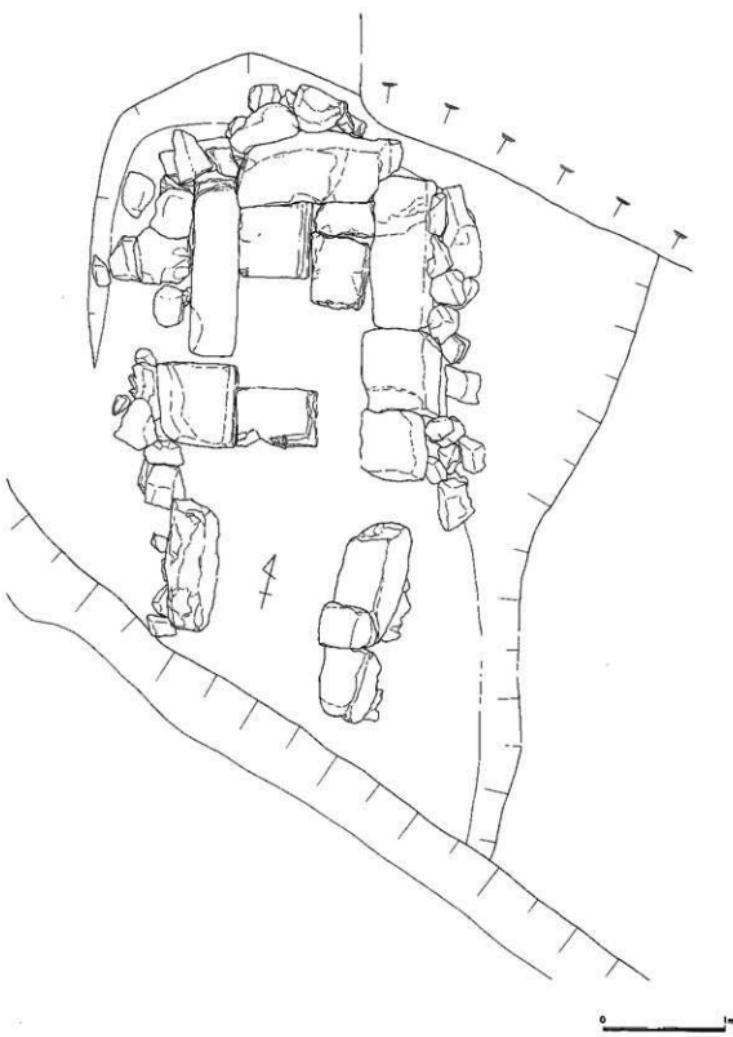
遺物 (第11、12、13、14図) 遺物は須恵器、金属器が出土している。墳丘からは須恵器壺蓋3個、壺身1個、高杯7個、はそう2個、甕片多数が出土している。石室から、須恵器は壺蓋6個、高杯1個、壺1個、低脚壺1個、金属器は鉄製大刀1振り、金環1個が出土している。

須恵器 11-1の壺蓋は大井部にヘラケズリしているが11-2の壺蓋はヘラ切りの後ナデている。また11-6の高杯は脚部に長さ2cm、幅2mmの2条のヘラ記号がある。また12-4と12-5の高杯についても同様のヘラ記号がみられる。石室内出土須恵器では壺蓋が多く、12-7の壺蓋は天井部ヘラケズリしており、12-4、12-5の壺蓋は、擬宝珠のつまみがある。

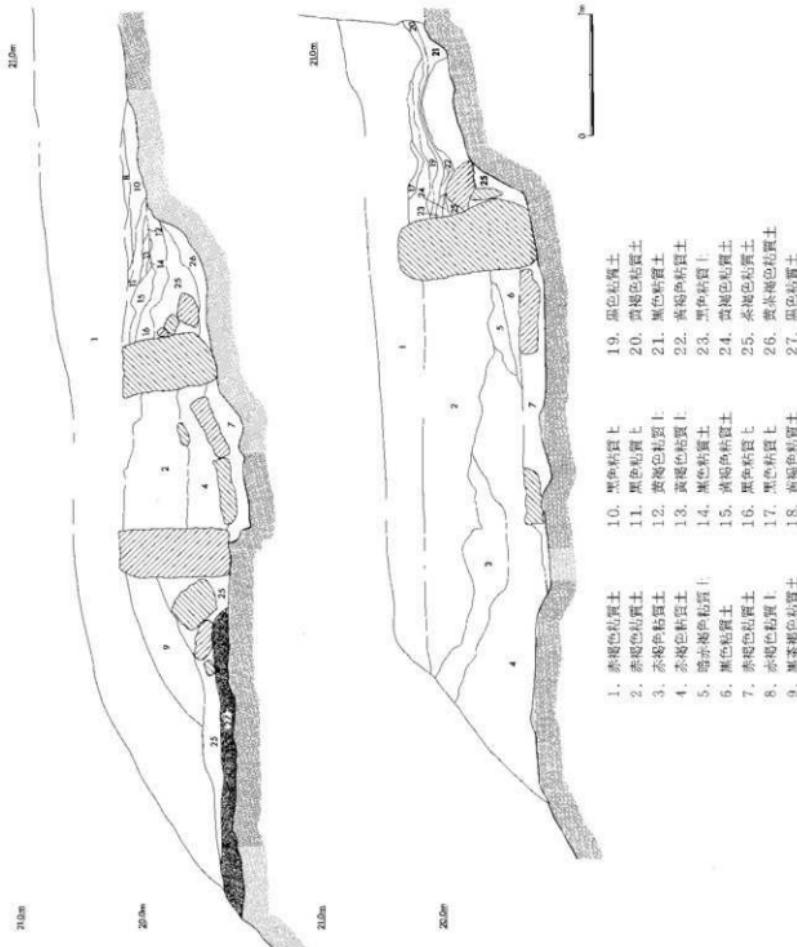
金属器 13-1は金貼り耳環で芯は中空であるが、地金の材質は不明である。14-2は大刀の刃から茎にかけての一部分で外装や目釘孔はない。



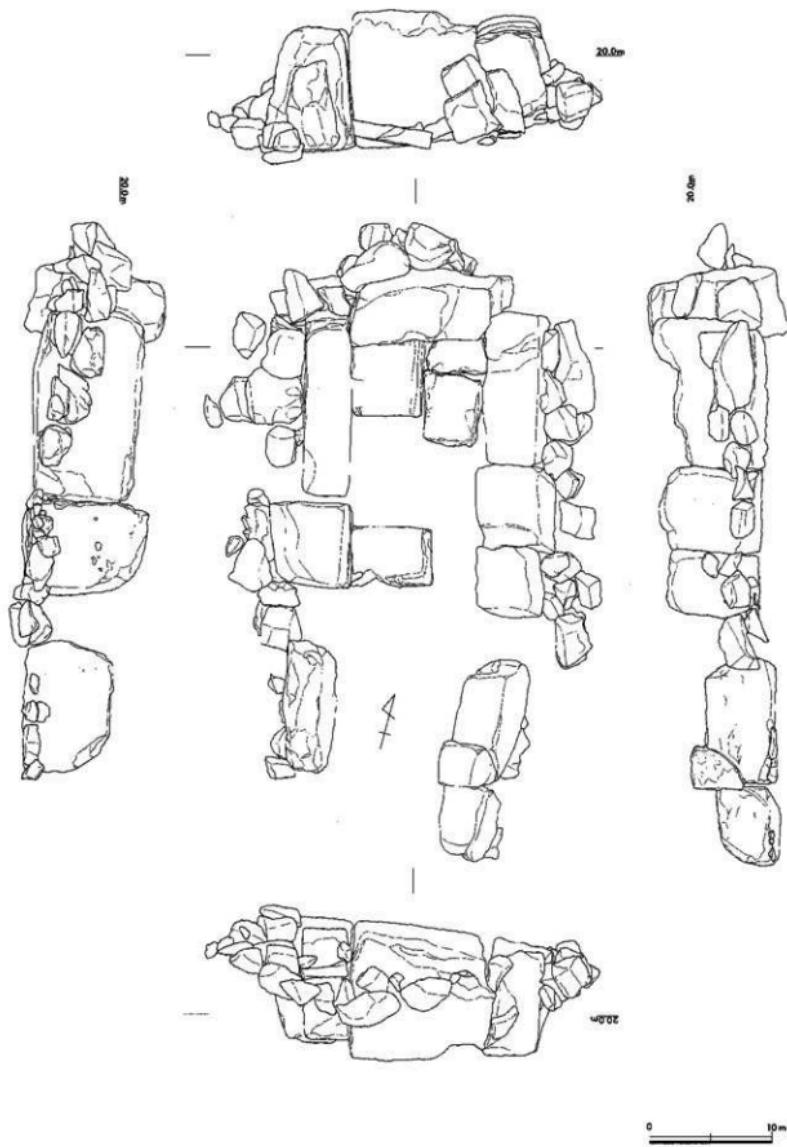
第6図 三田谷川流域2区調査終了後測量図 (1:300)



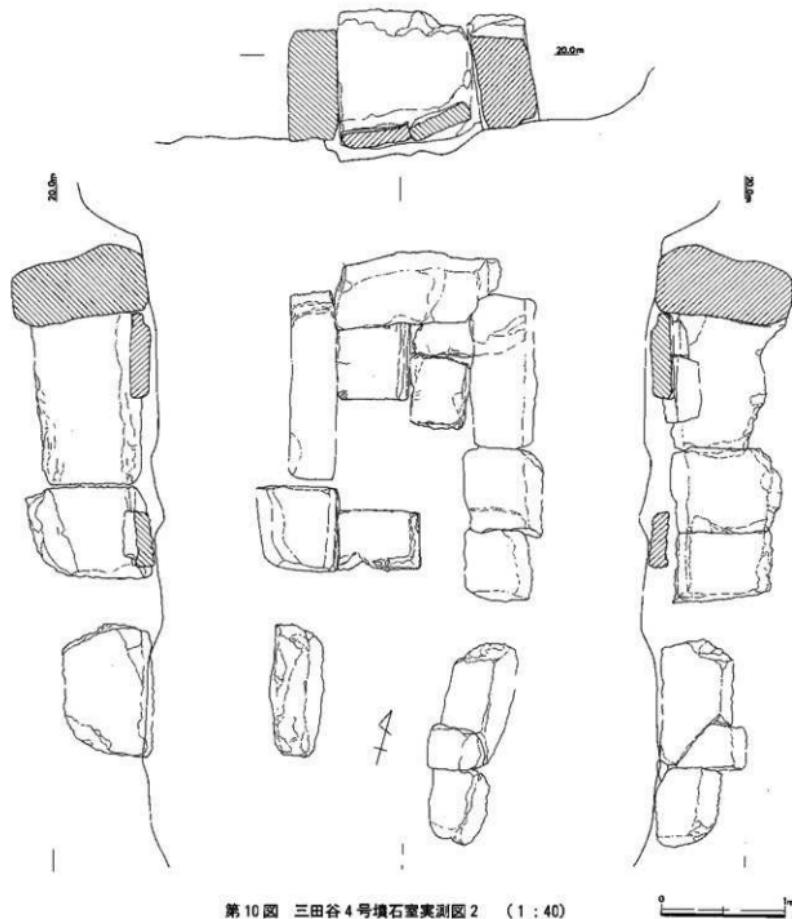
第7図 三田谷4号墳実測図 (1:40)



第8図 川田谷4号墳土層図 (1:40)



第9図 三田谷4号墳石室実測図1 (1:40)



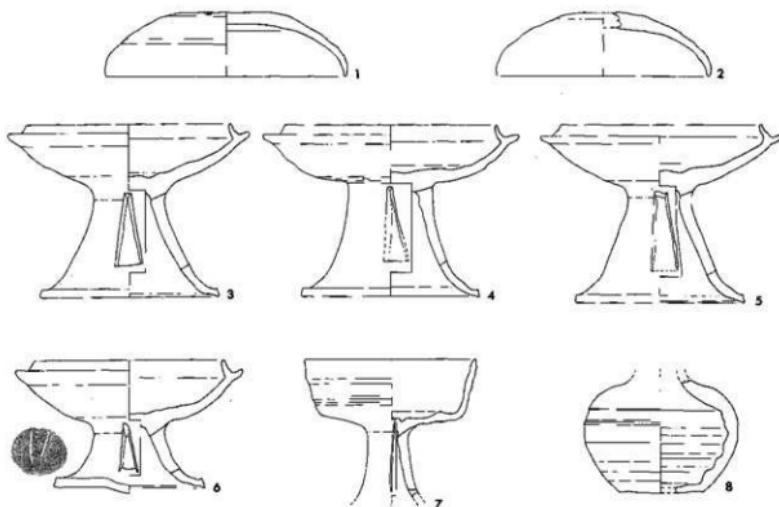
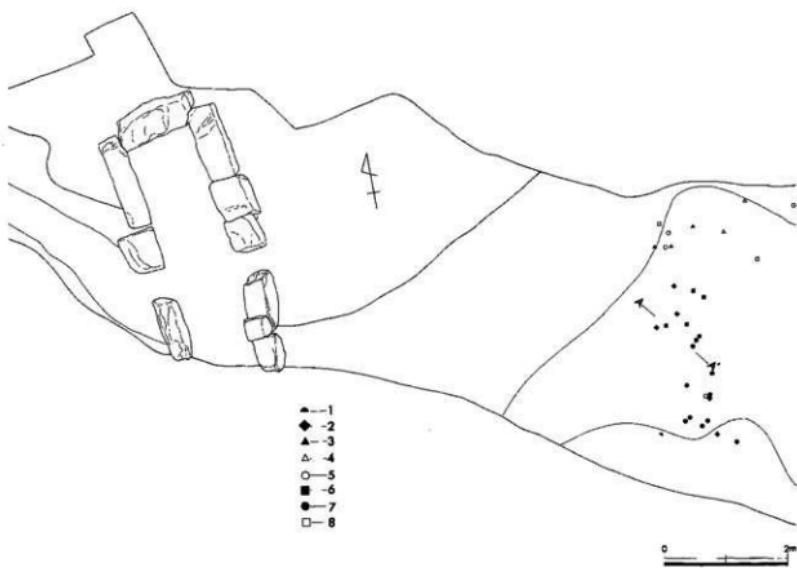
第10図 三田谷4号墳石室実測図2 (1:40)

三田谷5号墳

立地 三田谷4号墳のほぼ直東20mの斜面裾部、標高21m付近に構築されている。

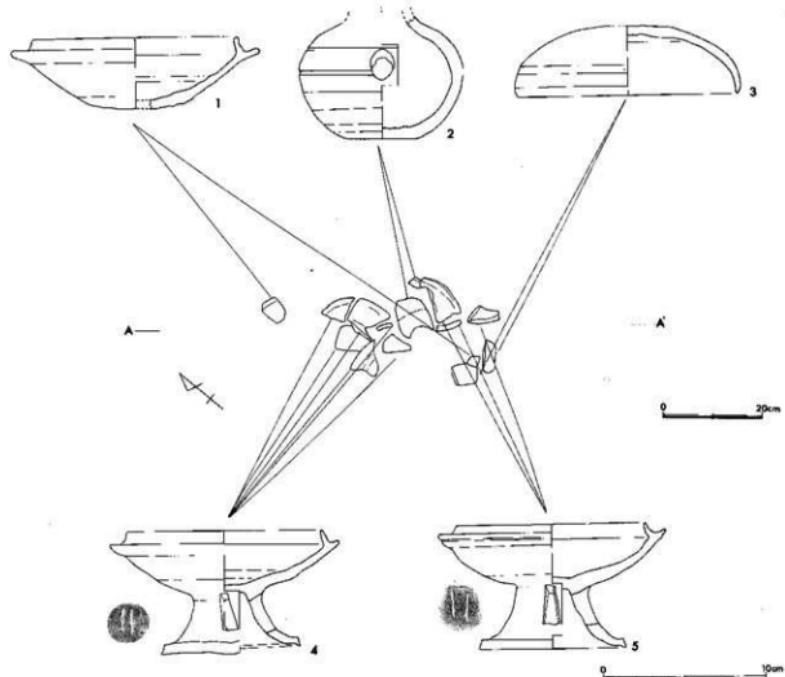
墳丘 一田谷4号墳同様に墳丘南半分は流出及び後世の擾乱により確認できず、北側については調査区外であり、石室東側の土層でわずかに確認したにとどまった。

墳丘構築状況(第16図) 古墳構築前の地山は石室東と西で確認できた。(第1、2層) 石室を構成する石材を運搬、整形したためか、凝灰岩片が確認できる。(第3層) 石材を置き、裏込めをし、墳丘の成形をしている。(第4~10層) 右側壁から西側については、墳丘崩壊時以後の擾乱である。(第14~16層)



0 10cm

第11図 三田谷4号墳遺物出土状況1 (遺構 1:80/遺物 1:3)

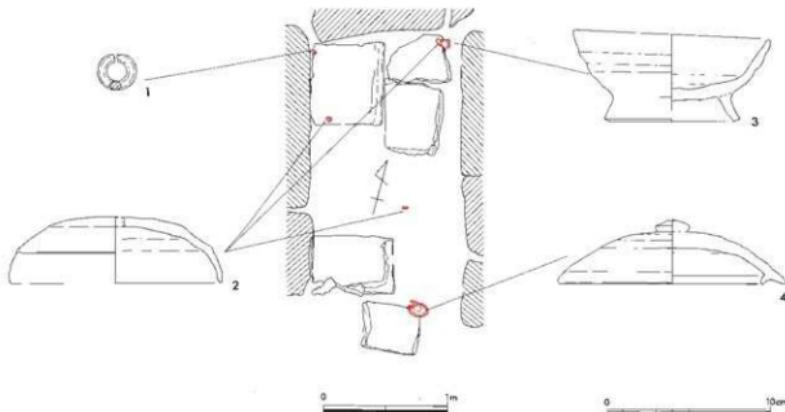


第12図 三田谷4号墳遺物出土状況2 (遺構 1:10/遺物 1:3)

石室（第17図） 石室は主軸をS-11.5°-Wに主軸をとり、ほぼ真南に開口する。現状で右側壁3枚と床石の一部が残るのみで、他の石材については壊されている。また一部の石材は動かされ積み直して溝状の施設の壁体として再利用されていた。石材は全て凝灰岩の切石である。石室部分は地山まで攪乱をうけており、石室構造及び石室構築過程は判断できない。

遺物出土状況 後世の攪乱がひどく原位置をとどめている遺物は確認できなかった。ただ石室周辺の凝灰岩片の多くみられる層（第14層）から須恵器及び耳環が出土している。また石室東の埴丘直上の流山上から了持壺が出土しているが、この古墳と直接関係しているかは確認できなかった。

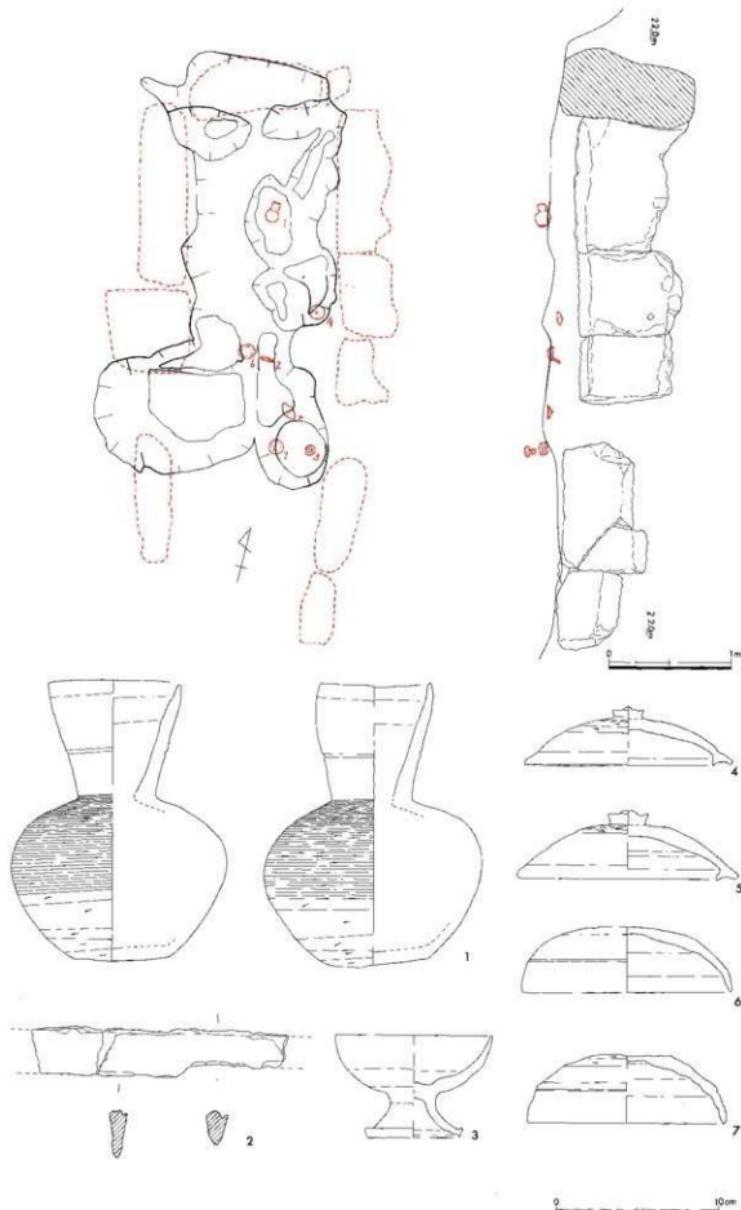
まとめ 一田谷4号墳、二田谷5号墳は、共に凝灰岩の切石を使った横穴式石室である。山雲市周辺（旧国出雲西部）の横穴式石室の構造による編年が研究されており、西尾・角田編年によると横穴式石室は大きく3期に分かれる。玄室を構成する各壁に注目すると、1期は石室の各壁は割石・自然石で構成され、奥壁は円石を利用して天井石との隙間に1~2段の石材を補っている。2期は玄室の奥壁に切石の1枚石、側壁は切り組み積みの手法をもちいて構成し、天井石には自然石を利用している。3期は玄室の各壁・天井を切石の1枚石で構成している。さらに2期は側壁の構成法により2a類と2b類に細分される。2a類は玄室側壁を切り組み積みの手法を駆使しながら4



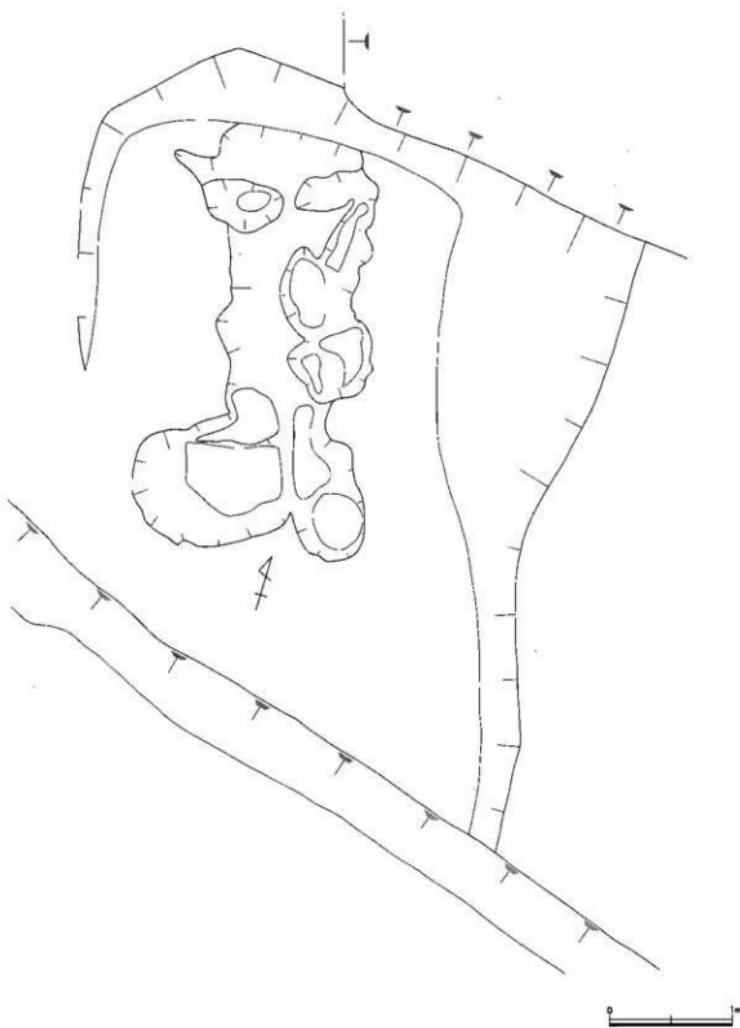
第13図 三田谷4号墳石室内遺物出土状況（遺構 1:40／遺物 1:3）

～5段積みにし羨道を切石で構成するもの、2b類は大形の切石を部分的に切り組み積みを取り入れながら2～4段に積み上げ羨道を割石で構成するものに分けることができる。三田谷4号墳は奥壁が1枚で側壁が現状では1段であるが、切り組み積みの痕跡があり2段以上で構成されていたと思われる。奥壁の高さから側壁を5段以上積んでいたとは考えられないので、2b類に分類できると思われる。2b類は側壁に挟まれた両袖式が多いが、三田谷4号墳の場合は前述したとおり奥壁から手前に向けて2mの位置に袖石が挟まれて玄門があったと推測できるが、現状では残っておらずまた攢乱もひどく抜き取り痕も確認できなかった。また凝灰岩の切石を使った、組み合わせ式による有縁石床が玄室西側に設置してあった。出雲市周辺で類例を挙げると、古墳では出雲市古志地区の放れ山古墳に2～3枚の切石からなる3基、また馬木地区の小坂古墳には左右の切石からなる床石に段差をつけることにより床石を表している1基がある。横穴墓では上塙治横穴墓群第22支群2号穴の玄室の左右に凝灰岩切石で構成されたそれぞれ4枚、2枚の2基、第32支群8号穴の玄室右に切石による4枚の1基がある。また切石による床石を敷いている古墳は、古志地区の大槻古墳、馬木地区的光明寺2号墳、小坂古墳、塙治地区の一田谷3号墳が挙げられる。また今回の発掘調査で古墳に伴う須恵器が出土した。大谷晃二氏による出雲地域の須恵器の編年によると环蓋の分類ではA4～A7型に分類され、出雲4～5期にあたり、畿内との平行関係ではTK43～TK217にある。

三田谷5号墳は、石室を構成する石材がほとんど残っておらず石室構築時の構造を知るのは不可能である。右側壁と考えられる3枚の切石は全長40～70cmで、4号墳で使われている石材よりも小さい。また床石の一部も残っていた。石室付近の攢乱土から出土した須恵器で時期が分かるものは、長脚無蓋高環（第21図-3）があげられ出雲5期にあたる。



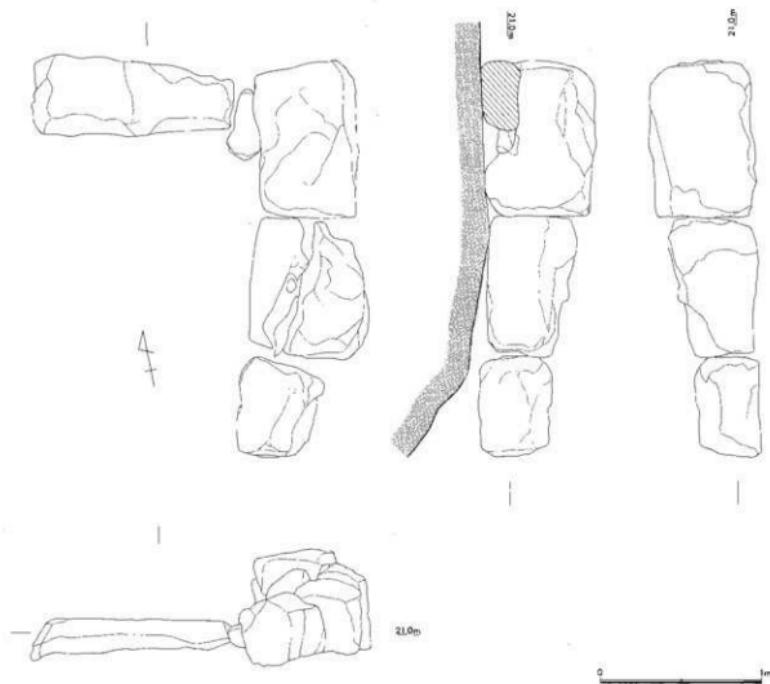
第14図 三田谷4号墳石室内床石下遺物出土状況 (遺構 1:80/遺物 1:3)



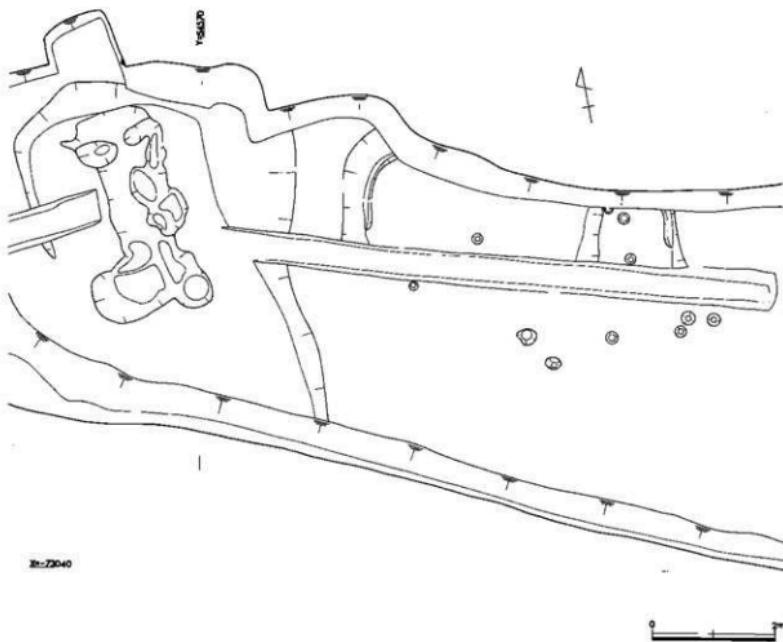
第15図 三田谷4号墳調査終了後実測図 (1:40)



第16圖 三田谷5号墳土層図 (1 : 40)



第17図 三田谷5号墳石室実測図 (1:20)

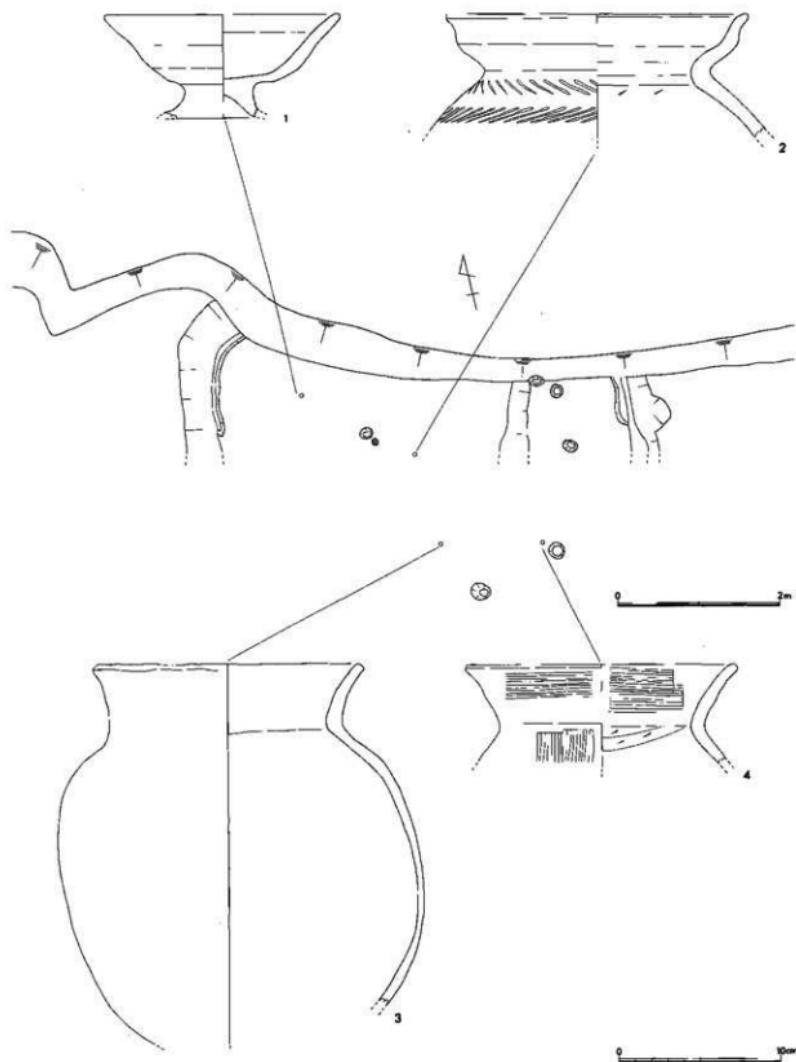


第18図 三田谷4号墳及びS101実測図 (1:80)

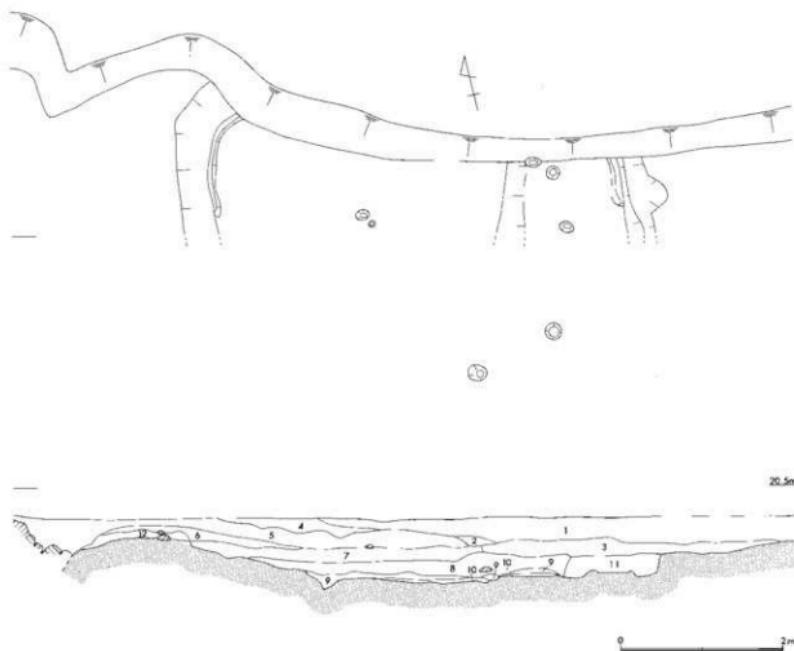
(2) 積穴住居

S101 (第18、20図) 三田谷4号墳の東6m、斜面裾に位置する。三田谷4号墳の盛土下で検出した。斜面に位置しているため谷側(南側)部分は流出し、山側(北側)部分は調査区外となるので一部分しか検出できなかった。東西両壁に壁体溝があり、また貼り床も確認した。ピットはいくつかあったが、主柱穴の確認はできなかった。耕作土(第1層)下は、三田谷4号墳埴丘流上(第2、3層)、埴丘盛土(第4~7層)、S101流入土(第8、11層)、貼り床(第9、10層)、旧表土(第12層)である。住居は少なくとも一度建て替えられた可能性があり、その痕跡は8層と11層の境界に置いて確認できる。

S101出土遺物 (第19図) 遺物は上師器の低脚壺1個、壺3個が出土している。19-1は低脚壺で丸みをおびた壺部と低い脚部を有するもので、口縁部はやや外反している。19-2は壺で口縁部中程で「く」の字に屈曲している。全体的にやや厚手で頸部に綾杉文をめぐらしている。19-3は全体的にやや薄手で口縁端部に平坦面を持っている。19-4は壺で口縁部中程でわずかに屈曲している。1は松山智弘氏の編年でI~Ⅲ期、2~4はⅢ期にあたると考えられる。



第19図 S101遺物出土状況 (遺構 1:60/遺物 1:3)

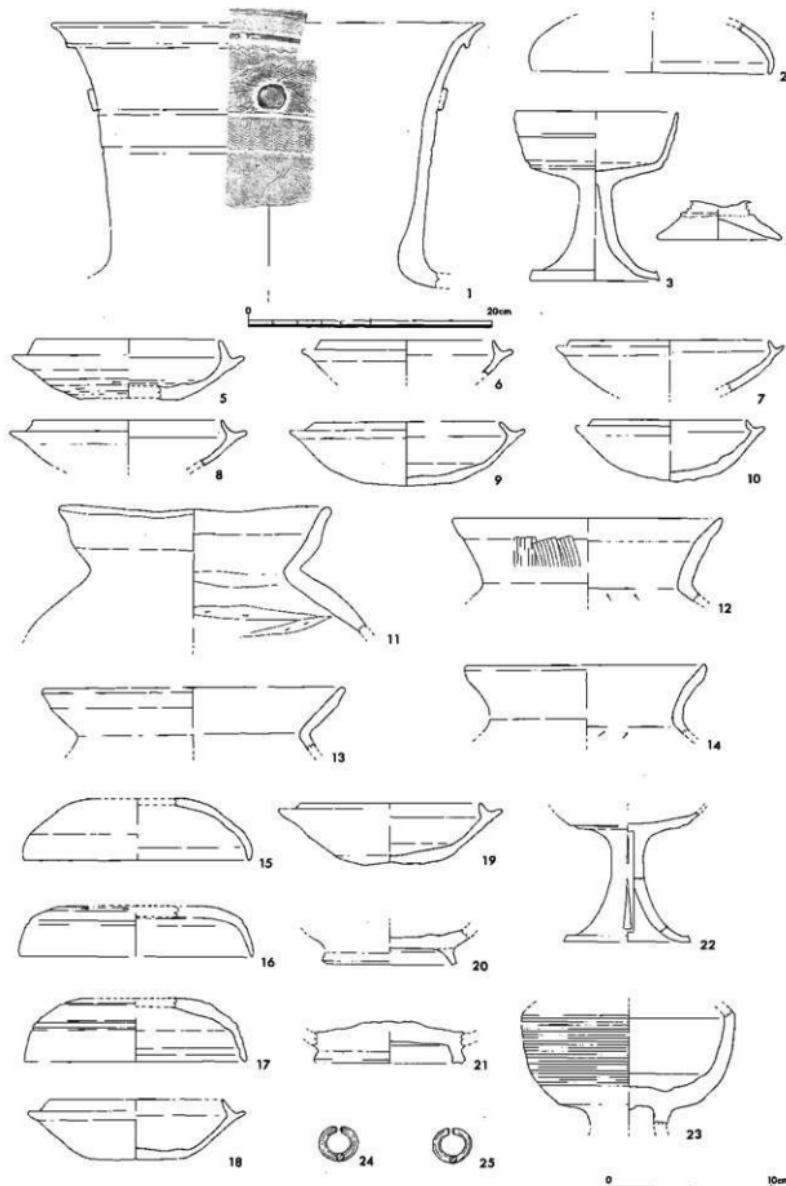


- | | |
|------------|-------------|
| 1. 暗茶褐色粘質土 | 7. 黒褐色粘質土 |
| 2. 赤褐色粘質土 | 8. 黒色粘質土 |
| 3. 淡茶褐色粘質土 | 9. 暗青灰色粘質土 |
| 4. 赤褐色粘質土 | 10. 暗青灰色粘質土 |
| 5. 赤褐色粘質土 | 11. 青灰色粘質土 |
| 6. 黄褐色粘質土 | 12. 黒色粘質土 |

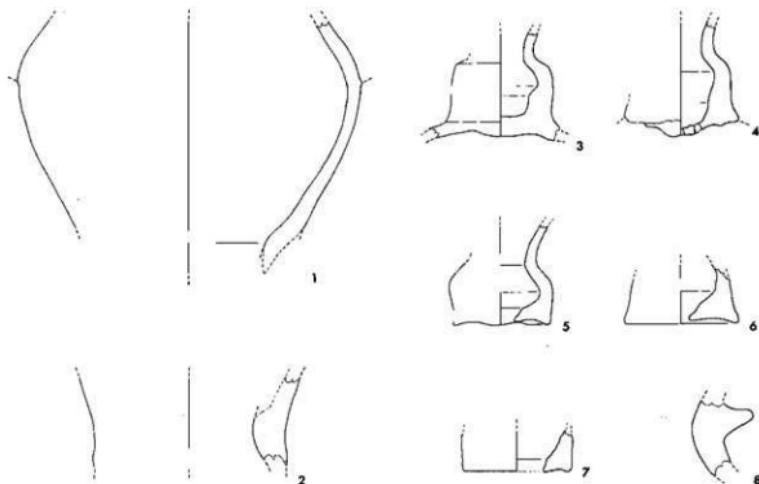
第20図 S101実測図及び土層図 (1:60)

(3) 2区出土遺物 (第21、22図)

21-1～10、15～23は須恵器、21-11～14は土師器、21-24、25は金属器である。1は壺の口縁部で外面上方に浮文を持っている。2は壺蓋である。3は高环で脚部に三方から線刻状の透かしを持っている。4は器種不明である。5～10は壺身で、5は底部にヘラケズリしており、10は5～9より一回り小さい。1、9は三田谷5号墳丘上の流土(第16図-第11層)から、2、4、6、8は三田谷4号墳丘流土(第20図-第3層)から、3、5、7、10は5号墳石室付近の擾乱土(第16図-第14層)からそれぞれ出土している。11～14は壺で、11は厚手で口縁部中程でやや「く」の字に屈曲する。12は単純口縁でやや外反している。13は口縁中程にわずかに稜を持ち、直線的に伸びている。14も口縁端部より少し下がった位置に小さい稜を持っている。11～14はS101流入土



第21図 2区出土遺物実測図1 (1、1 : 4 / 2~23、1 : 3)



第22図 2区出土遺物実測図2 (1 : 3)



(第20図—第8層)から出土している。11、12は松山Ⅲ期、13はⅡ期、14はⅢ～Ⅳ期にあたると考えられる。15～17は壺蓋、18、19は壺身である。20～21は高台付壺である。22は高壺で脚部に三方から2段の透かしを持っている。23は脚の付いた壺で脚部にカキ目が施されている。15は大谷編年で5期、16、17は4期にあたると考えられる。15～23は耕作上から出土している。24、25は銅芯の耳環である。24は三田谷4号墳流入土中から、25は一田谷5号墳石室付近の攢乱土(第16図—第14層)から出土している。

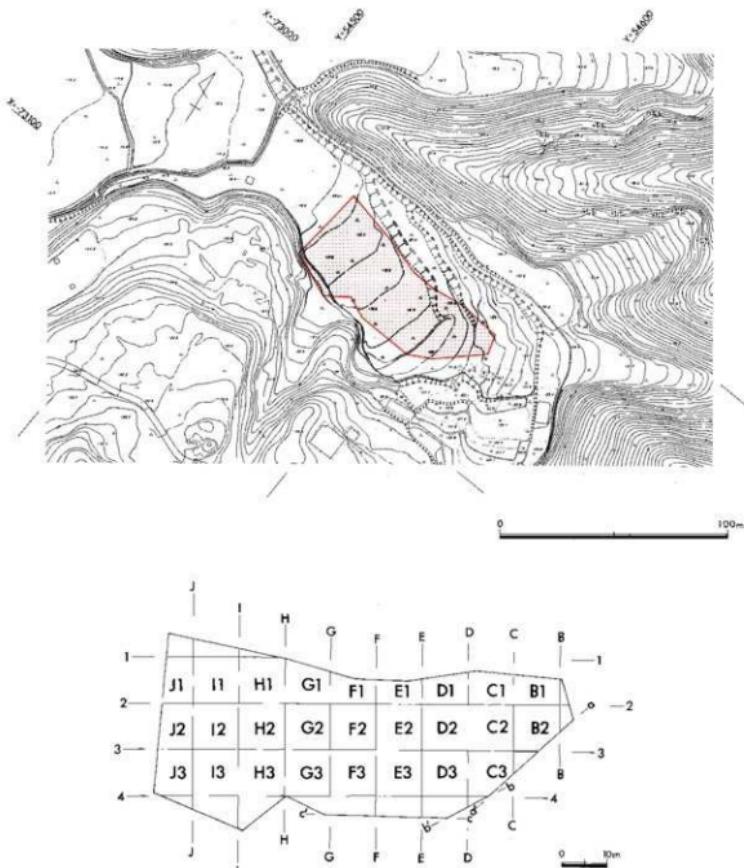
22—1～8は須恵器の子持壺である。1は親壺の脚部である。2は親壺と脚部の接合部分で1と同じ個体と思われる。3～7は子壺である。3、4は親壺脚部と子壺底部が接合したままの状態で出土しており、4の子壺底部は穿孔しているが、3の底部は穿孔していない。5～7は親壺脚部から子壺底部が剥脱したものである。丁壺底部は穿孔しているが親壺脚部が穿孔してあったかどうかは不明である。8は親壺と脚部の接合部分と思われる。子持壺はすべて焼成が悪く淡褐色を呈している。

参考文献

- 島根県教育委員会 「上塩冶横穴墓群」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV」1998
- 島根県教育委員会 「三田谷II遺跡・上沢I遺跡」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書I」1994
- 島根県教育委員会 「上塩冶横穴墓群20・21支群」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書II」1995
- 島根県教育委員会 「出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書」 1980
- 大谷晃二 「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根県考古学会誌』11 1994
- 松山智弘 「出雲における古墳時代前半期の土器の様相—大束式の再検討—」『島根県考古学会誌』8 1991
- 角田徳幸・西尾克巳 「出雲西部における後期古墳文化の検討」『松江考古』7 1989

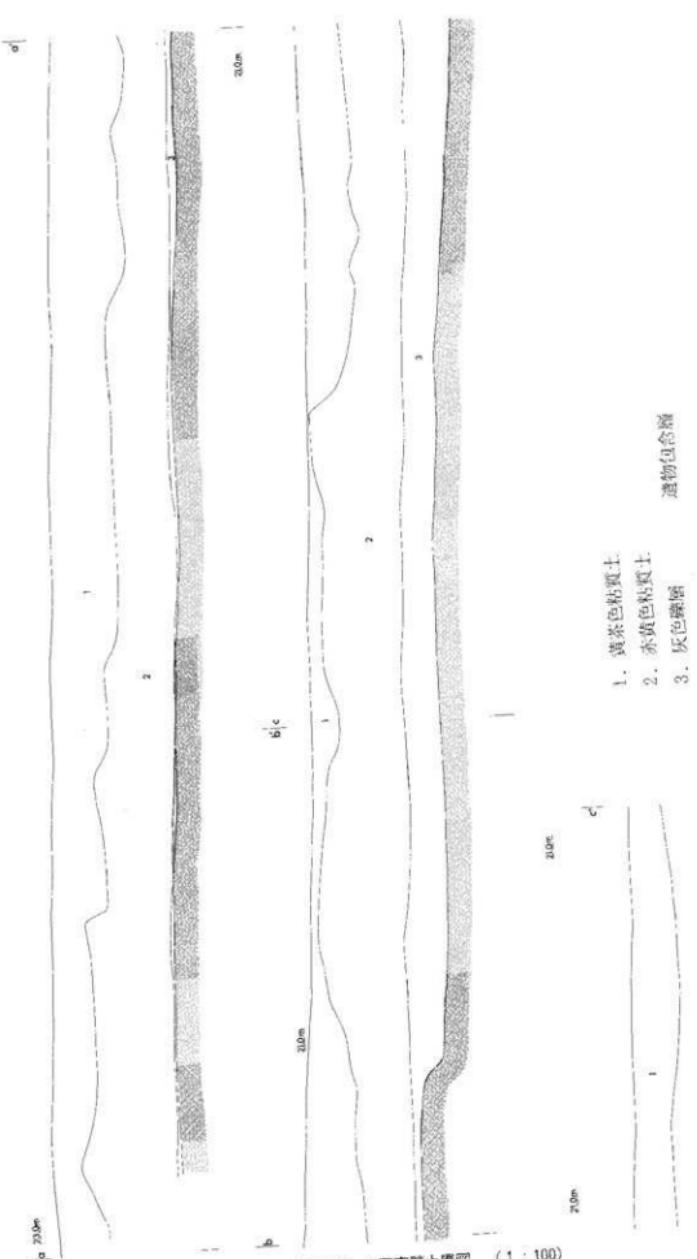
第5章 1区の調査

1区は前述したとおり、谷の中央部（最深部）に位置しており近年まで耕作地として利用されていた。第24図に示すとおり調査区は3層からなっており、上の2層は2mにおよぶ耕作土で、その下は拳大から直径50cmを超える石から構成された灰色礫層である。この灰色礫層が遺物包含層ですぐ下は岩盤である。調査区は谷奥から谷の入口に向かってつまり東から西へ傾いており、各層もそれにあわせて傾いているが、遺物包含層の第3層は谷奥から谷の入口にむかって厚く堆積している。出土する遺物は様々で縄文時代前期末から古墳時代前期の遺物を確認している。



第23図 1区調査範囲図 (1:2000, 1:1000)

22.5m



第24図 1区南壁土壠図 (1:100)

(1) 繩文土器 (第25図～第41図)

25-1は深鉢の胴部で縄文を地文として、貼り付け突帯の上に刻み目を施している。2、3、8～23は縄文を施している。3は頸部をナデ、沈線を1条めぐらした後、口縁部と体部に縄文を施している。9は口縁部外面及び口縁端部上面に縄文を施している。11は口縁端部を外へ屈曲させて縁をつくっている。18は水平に沈線が1条入っている。20は逆「く」の字状に沈線が入っている。23は縄文を施した後に中央部をナデしている。4～7は沈線文が施されている。4は縦に3条沈線を施し、その間に丸い竹管状の道具で刺穴している。5は縄文を施した後、沈線を2本施している。1は前期末の大歳山式、2～23は中期の里木式に併行すると考えられる。

26-1は頸部がくびれ波状口縁を持つ深鉢である。口縁部から頸部にかけて磨り消し縄文を施している。2はキャリバー状の波状口縁を持つ深鉢である。口縁部の外側から端部そして内部にかけて縄文を施している。縄文を施した後、口縁部外側に沈線文を施している。3～6、8～12、17、18は磨り消し縄文を施している。3、5は口縁端部にも縄文を施している。7は沈線を施した後、縄文を施している。13は沈線文を施している。14は2条の沈線を施している。15は波状口縁を持つ深鉢の口縁部で、縄文を施した後2条の沈線を加えている。16は全縄文となっているが上部に沈線が入っており、磨り消し縄文の可能性がある。19、20は沈線文を施している。1～20は後期初頭の中津I、II式に併行すると考えられる。

27-1～7は深鉢で、1は波状口縁を持つ深鉢で磨り消し縄文を施している。2は口縁部内面を肥厚させ、口縁部外側と上面に沈線を1条ずつ施している。3、4、6はJ字文を施している。4、5、6は磨り消し縄文と思われる。8～13は浅鉢で8～10、12は磨り消し縄文が施されている。9は口縁部内面を肥厚させている。11は2条の沈線を施している。12はやや厚手で、沈線も太い。13は黒色を呈しておりJ字なミガキが入っている。14～19は1条もしくは2条の沈線文主体であり、17は凹縄文である。20～24は深鉢である。20～22は同一個体と思われ、沈線文主体で口縁部を肥厚させ、口縁部上面も沈線文、刺突文を施している。23は口縁部外面が肥厚し、口縁部上面に2条の沈線を施している。24は口縁部外面に突帯を貼り付けている。25、26は浅鉢で、25は口縁部を肥厚させ口縁上面に幅広の沈線を入れ、上面内側の突出部に縄文を施している。26は縦に2条の沈線を施している。1～19は後期初頭の福出II式に、20～26は後期前葉の布勢式に併行すると考えられる。

28-1～4は深鉢で、1～3は口縁部を肥厚させ、渦巻状の文様を施している。1は口縁部外面にヘラ状工具で1条ずつ渦巻状の文様を施している。2は口縁部外面に縄文を施しヘラ状工具で渦巻状の文様を施している。3はヘラ状工具で1条ずつ渦巻状の文様を施し、中央部は刺突している。4は緩い波状口縁を持ち、口縁部外側には2条の沈線、口縁内側の薄くなつたところに粘土を補填している。5は浅鉢で胴部の一一番突出した部分に刻み目(刺突文)を施している。6～9は深鉢で、6は口縁部と胴部に磨り消し縄文主体の文様を施し、口縁部と胴部の文様がつながっている部分は、口縁部から頸部を越えて胴部に橋梁状に粘土を貼り付けて施文している。胴部には、J字文、横に広がつた三角文を施している。7は口縁部内面を肥厚させ、口縁部上面に沈線を施している。8は口縁部を肥厚させ、口縁部上面に2条の沈線を施している。9は口縁部内面を肥厚させ、口縁部上面に1条の沈線、口縁部外面に1条の沈線、口縁部外面の沈線下に刻み目(刺突文)を施している。

10、12～19は深鉢で、10は口縁部が大きく外反し、口縁端部に、刺突文を施している。12、13は羽状繩文を施している。14は外面に帯文を貼り付け、刻み口（刺突文）を施し2条以上の沈線を加えている。15は外面に繩文を施し、沈線文を加えさらに沈線内を刺突している。16は胴部に渦巻文を施している。17は胴部に沈線文を施している。18は胴部に渦巻文を施している。19はやや外反する口縁を持ち口縁端部外面に繩文を施している。11は浅鉢で口縁部は内傾しており、口縁部外面に繩文を施し3条以上の沈線を加えている。1～5は後期前葉の沖雲A式に、6～9は後期前葉の鐘ヶ崎式に、10～19は後期前葉の彦崎K I式にそれぞれ併行すると考えられる。

29～1～8は浅鉢で、1は外傾する口縁を持ち、口縁端部外面に繩文を施し、外面ともに「寧なミガキを入れて黒色を早す。」口縁部内面に上方からの刺突文があり、刺突内は赤色の顔料が残っている。2はやや内湾する口縁を持ち、口縁部内面に1条の沈線を施している。3～6はすべて口縁端部外面に繩文を施している。3はやや外傾する口縁を持ち、口縁部上面にも繩文を施している。4は外反する口縁を持ち、口縁部内面に沈線を施し、沈線で押んだ部分に繩文を施している。また沈線内を刺突している。5はやや内湾する口縁を持ち、口縁部内面にも繩文を施している。6は外傾する口縁を持ち、口縁部外面に1条の沈線を施し、沈線から上方のみ繩文を施している。7は外傾する口縁を持ち口縁部外面に擬繩文を施している。8は胴部の一一番張った部分で、外側は沈線文を施しており内面はミガキが入っている。9～13、20は深鉢で、9～11は胴部で外側に沈線文を施している。12は口縁部の外面に沈線文、刺突文を施している。13は胴部で繩文と沈線を施している。20はキャリバー状の波状口縁を持ち、口縁部に3条、胴部に5条の結節繩文を施している。14～19は浅鉢で、14は緩く張った体部で、3条の沈線を施している。15は逆「く」の字状に突出した部分で、沈線文を施している。16は体部の一一番張った部分で、1条沈線が入り、その下に貝殻刺突文を施している。17、18は体部の一部で、磨り消し繩文を施している。19は逆「く」の字状になつた口縁部分で、口縁部外面に3条の沈線を施している。1～8は後期前葉の彦崎K I式に併行すると考えられる。9～20は後期前葉の布勢式または沖雲A式または彦崎K I式に併行すると考えられる。

30～1～7は深鉢で、1はキャリバー状の口縁を持つと考えられる。2は波状口縁を持ち口縁部外面に繩文を施している。3は外面に擬繩文による磨り消し繩文を施し、沈線内を刺突している。注1土器の肩部と思われる。4は外傾する口縁を持ち口縁部外面及び内面に繩文を施している。5は口縁部、6、7は胴部でそれぞれ沈線文主体で、7は繩文を施している。8～14は凹線文主体の深鉢で、口縁部外面に1条ないしは2条の凹線文を施している。8は直線的に立ち上がる口縁を持っている。9はやや内傾する口縁を持っている。10は内湾する口縁を持っている。11は外傾する口縁を持ち口縁部内面に沈線を1条施している。12は外傾する口縁を持ち、外面には凹線文を施しておらず、口縁部内面に1条の沈線を施している。13は直線的に立ち上がり端部でやや外傾する口縁を持っている。14はやや外傾する口縁を持っている。15～22は凹線文主体の浅鉢で、15はやや外傾する口縁を持っている。口縁部外面に5条の凹線文を施し、口縁部外面に扁状压痕を付け、その後ナデている。16は内傾する逆「く」の字状の口縁を持ち、口縁部外面には2条の凹線文、内面には1条の沈線を施している。17はやや内傾する、緩い波状口縁をもち、口縁部外面は2条の凹線文、内面は1条の沈線を施している。18は2条の凹線文と扁状压痕を施している。19はやや内傾する口縁を持ち、口縁部外面に2条の凹線文を施している。20は2条の凹線文を施している。21はやや内傾

する口縁を持ち、口縁部外面に3条の凹線文を施している。22はやや外傾する口縁を持ち、口縁部に2条の凹線文を施している。23、24は外面に沈線を施している浅鉢である。1～7は後期中葉の彦崎K II式に、8～24は宮窓式に併行すると考えられる。

31～1は深鉢で内傾する口縁を持ち、口縁部と肩部に2条の沈線を持っている。2～13は浅鉢で、2は内湾する口縁を持っている。3は逆「く」の字状の口縁を持っている。4、5はやや内湾する口縁を持っている。6は外側に沈線を施している。7は内側に粘土の継ぎ目の跡が残っている。8はやや外反する口縁を持ち、口縁端部内側に段を付けている。9、10はやや外傾する口縁を持っている。11はやや外傾する口縁を持ち、口縁端部内面に沈線を1条施し、沈線より上に刻み目（刺突文）を施している。12はやや外傾する口縁を持ち、口縁部外面に1条の沈線を施している。13は端部で「く」の字状に外側へ屈曲する口縁部を持っている。14～19は浅鉢で、14はやや内傾する口縁を持っている。口縁端部を肥厚させ、外面に1条の沈線を施し、口縁部を穿孔している。黒色を呈し、きれいなミガキが入っている。15、16は逆「く」の字状に大きく屈曲し、端部はやや外反する口縁を持っている。口縁端部外面に1条の沈線を施している。17は逆「く」の字状に緩く屈曲する口縁を持っている。18は大きく外湾する口縁を持っている。19はやや内傾する口縁部を持ち、口縁部や下方に連続しない突帯を付けている。20は深鉢で、胴部の屈曲する部分に凹形の突起を貼り付けている。1～13は後期に、14～20は晩期に分類されると考えられる。

32 1～6は深鉢で、口縁部内面に突帯を貼り付けている。7～10は浅鉢で口縁部内面に突帯を付けている。11、12は深鉢で、11は口縁端部内側に段を付けた薄くしている。12は口縁部を調整するとき粘土を内側に返しており、そのとき口縁端部内側に沈線状の溝ができる。13は浅鉢で、口縁端部を平らに調整するとき、粘土を内側に返しており、そのとき溝ができる。1～13の土器は後期に分類されると考えられる。

33～1～9は粗製の深鉢で、1は平底をしている。3は口縁部から胴部にかけて張っている。5は口縁端部が外湾している。1、8、9の口縁端部は平らに調整されている。

34～1～4は粗製の深鉢である。2は口縁部を穿孔し、貫通させている。

35～1～20は粗製の深鉢で、1、3～20は2枚貝条痕文を施している。

36～1～12は粗製の深鉢である。

37～1～14は粗製の深鉢の胴部で、2枚貝条痕文を施している。8は外側から穿孔されているが、貫通はしていない。

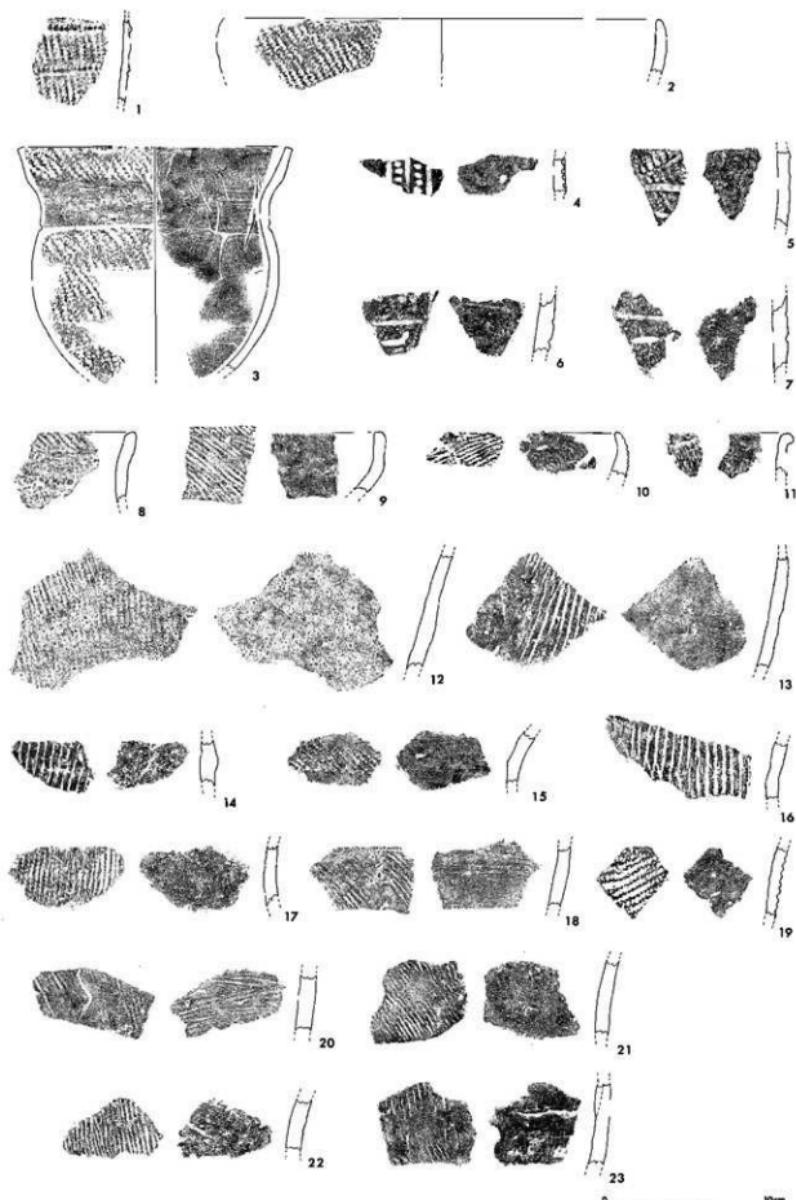
38～1～6は粗製の深鉢の胴部で、2～5は巻き貝条痕文を施している。7～19は縦文上器の底部である。7～9は低い上げ底状になっており、接地面が広く、面で接している。7は接地面に棒状工具による圧痕が付いている。8は上げ底部分に2枚貝条痕文を施している。10～12は低い上げ底状になっており接地面が狭く線で接している。13はわずかに上げ底状になっている。14、15は低い高台状になっている。高台部は後から付けられている。16、17はわずかに上げ底状になっている。18、19は半底状になっており、18は底と立ち上がる部分がはっきりと区別できるが、19は緩く曖昧になっている。

39～1～3は口縁部内面に刺突文を施している深鉢である。1は外反する口縁を持ち、口縁部外面を半截竹管で刺突している。外側は2枚貝条痕文を施している。2は外反する口縁を持ち、口縁部内面を竹管状の工具で刺突している。刺突部の外面はやや盛り上がっている。また口縁端部外面

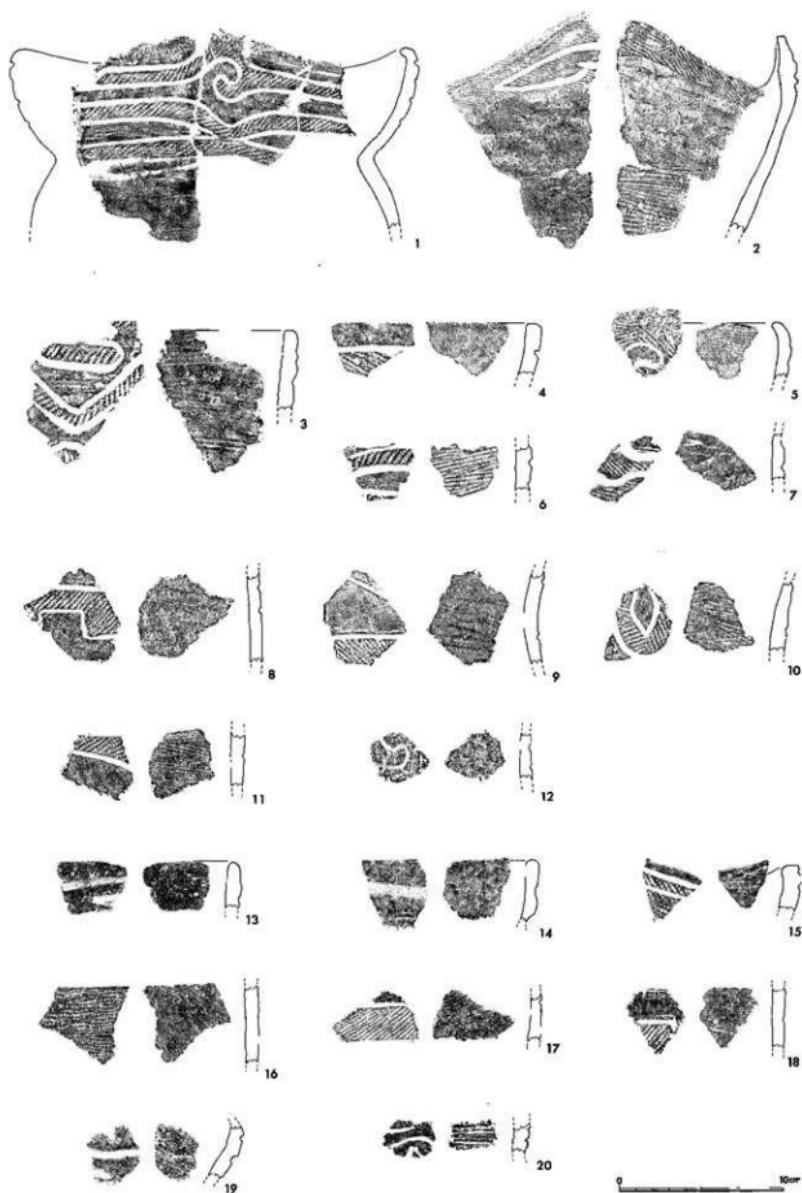
に刻み目（刺突文）を施している。3はやや外反する口縁を持ち、口縁端部内面に竹管状の工具による刺突文を施している。4～13は深鉢で、口縁端部に刻み目を施している。4は外反する口縁を持ち、外側からみて斜め右上方からヘラ状工具で口縁端部に刻み目を施している。5はやや外反する口縁を持ち、まず口縁端部外面から刺突を加え、その後ヘラ状工具で上方から口縁端部に刻み目を施している。6は厚手で、やや内湾する口縁を持ち、外側からみて斜め右上方からヘラ状工具で口縁端部に刻み目を施している。7、8は外傾する口縁を持ち、ヘラ状工具で外側からみて斜め左上方から口縁端部に刻み目を施している。9は薄手で、外反する口縁を持ち、棒状工具によって斜め右上方から口縁端部に刻み目を施している。10は直線的に立ち上がる口縁を持ち、ヘラ状工具により上方から口縁端部に刻み目を施している。11は外反する口縁を持ち、棒状工具によって上方から口縁端部に刻み目を施している。12、13は直線的に立ち上がる口縁を持ち、ヘラ状工具により上方から口縁端部に刻み目を施している。14～22は口縁部外面に刻み目と貼り付け突帯を持つ深鉢である。14、17～19、21はヘラ状工具により口縁端部と貼り付け突帯に刻み目を施している。15、16、20、22は棒状工具により口縁端部と貼り付け突帯に刻み目を施している。22は薄手で、2枚貝条痕文を施している。1～13は晩期の谷尻式に併行すると考えられる。

40～1～16は、口縁部外面に貼り付け突帯を持つ深鉢である。1～8、15、16は突帯に刻み目を持ち、9～14は刻み目を持っていない。またすべて口縁端部には刻み目を持っていない。4、5、6、10～16は口縁端部と接するような状態で突帯が付いている。17～19は胴部に突帯が貼り付けられ、刻み目を施している。

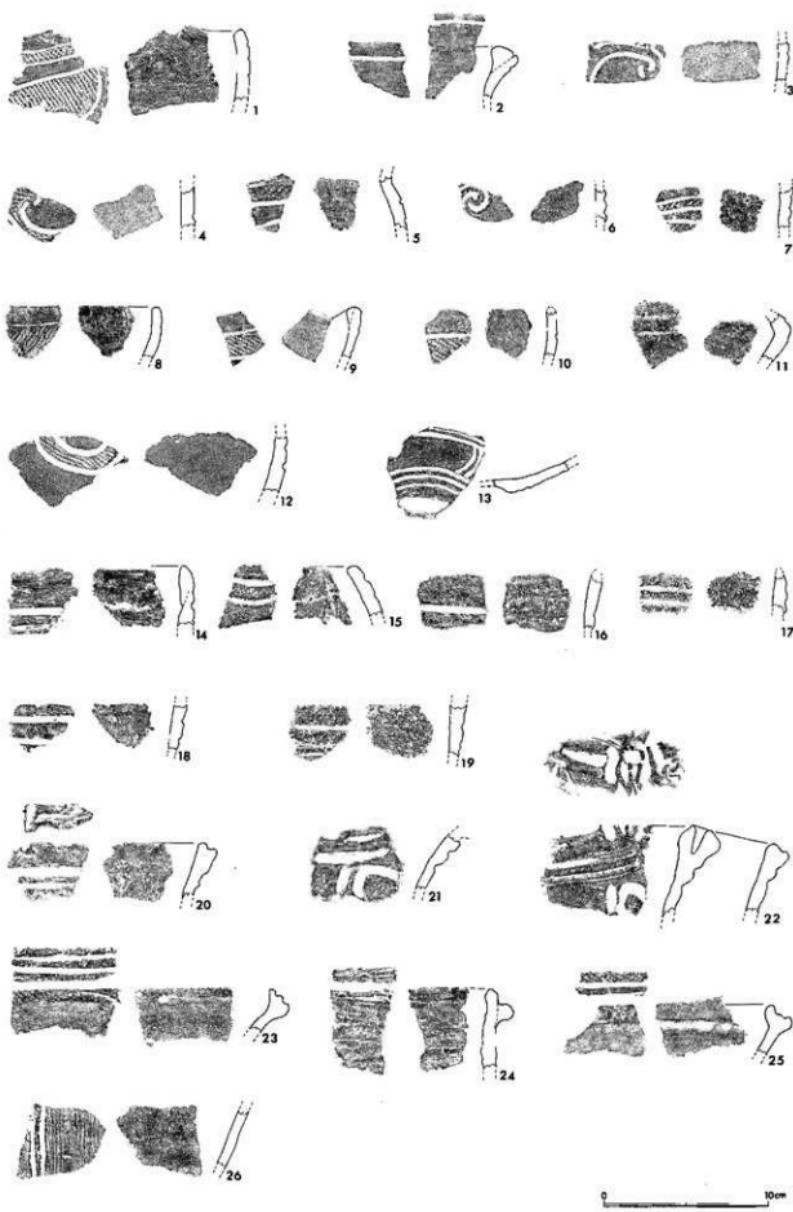
41～1は深鉢の口縁部で、外面に沈線で楕円が表現されている。内外面ともに2枚貝条痕文が施されている。2は深鉢の口縁部で、大きく内湾している。口縁端部はL字形に屈曲し肥厚している。3は深鉢の口縁で、口縁端部が「く」の字形に内側に緩く屈曲している。波状口縁で口縁端部外面に繩文を施している。4は深鉢の胴部で上方には刻み目の突帯が付いており、沈線文と繩文を施している。5は波状口縁を持つ深鉢で、口縁部を肥厚させており、また突帯を貼り付けている。6は深鉢で、やや内湾する波状口縁を持っている。7は深鉢の口縁で、穿孔し直径7mmの穴を貫通させている。8は深鉢で内傾する口縁を持っている。口縁部が肥厚し、口縁部上面に沈線文が施されている。9は深鉢でやや外傾する口縁を持っている。口縁部内外面を肥厚させて、外面の突帯状に肥厚させた部分の下方に繩文を施している。10は深鉢でやや内湾する口縁を持っている。口縁部外面に突帯を貼り付け、突帯の上方に棒状工具で真横から刺突をしている。その後ヘラ状工具で突帯に刻み目（刺突文）を施している。11は深鉢でやや外反する口縁を持ち、口縁部外面に沈線文を1条施している。12は深鉢でやや内湾する波状口縁を持ち、口縁端部にヘラ状工具で刻み目（刺突文）を施している。13は深鉢の胴部で、突帯を貼り付けその下方に繩文を施している。14は深鉢の胴部で、粘土を貼り付けて段をつくっている。段になった部分に下方から指頭圧痕をついている。15は深鉢の胴部で、粘土の継ぎ目で段をつくっている。段の部分に上方から圧痕をつけている。内外面ともに2枚貝条痕文を施している。16は深鉢の胴部で、連続しない粘土を貼り付け工具等で圧痕をつけている。17は深鉢の胴部で沈線を2条施している。18は繩文を施している。19は深鉢で、外面に刺突文を施している。20は深鉢で外側に沈線を1条施している。1～20は時期は不明である。



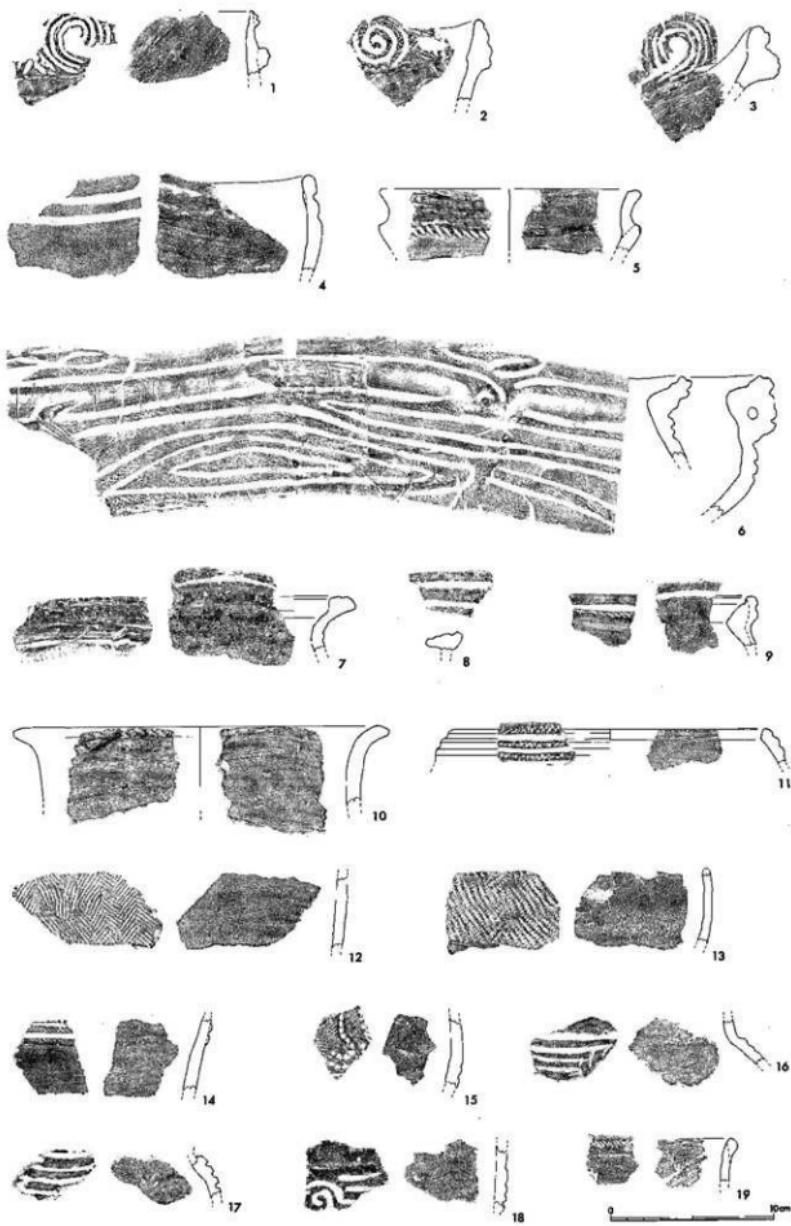
第25図 1区包含層出土遺物実測図1 (1 : 3)



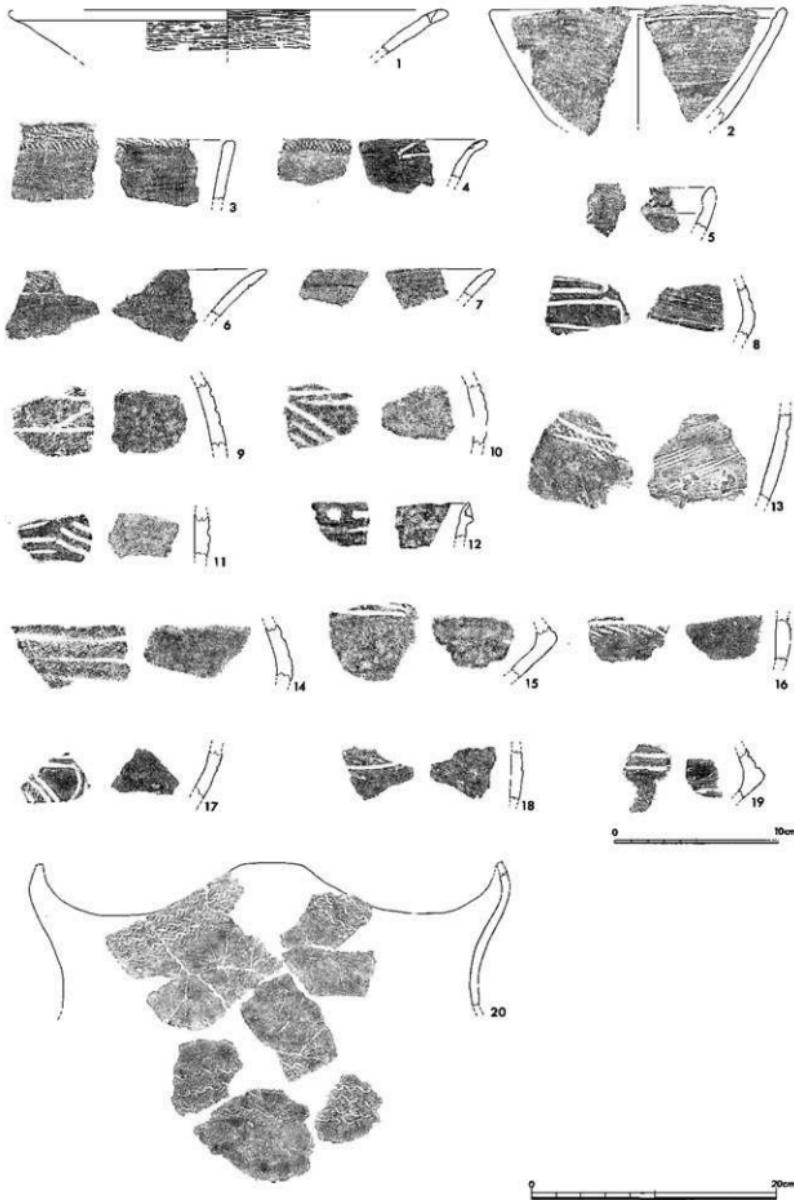
第26図 1区包含層出土遺物実測図2 (1 : 3)



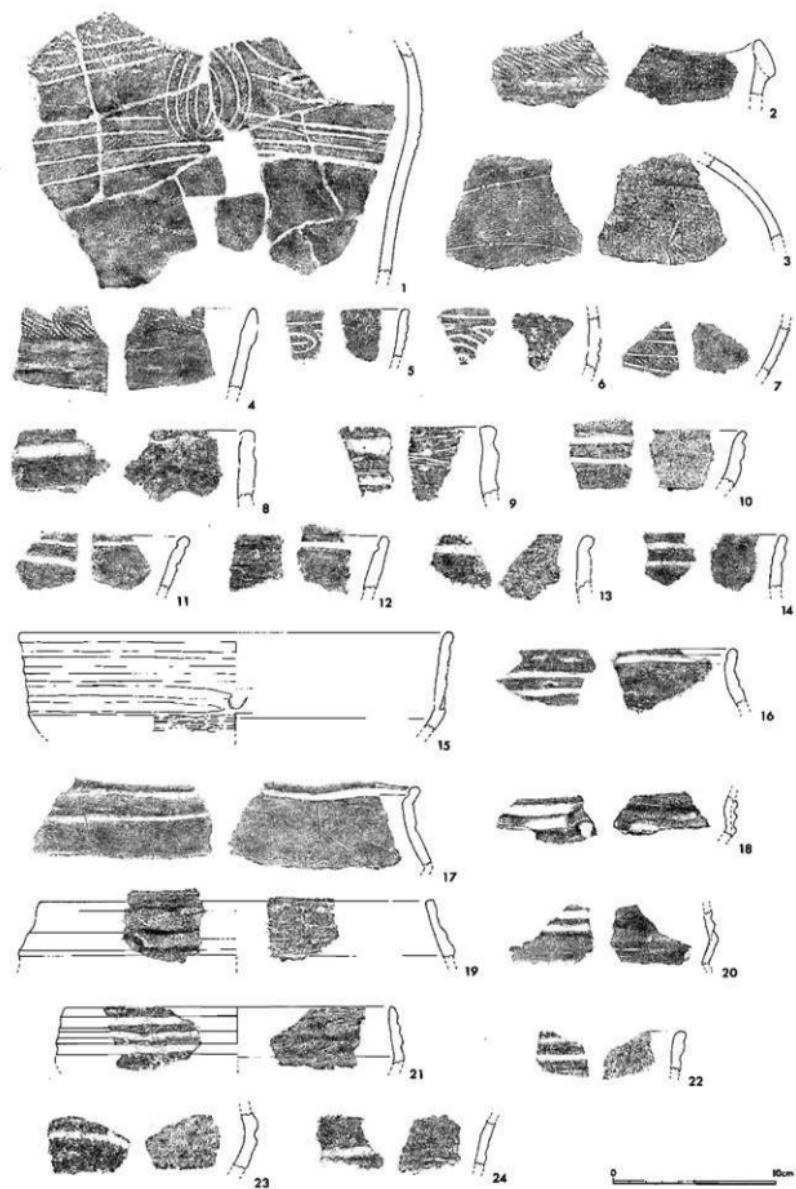
第27図 1区包含層出土遺物実測図3 (1:3)



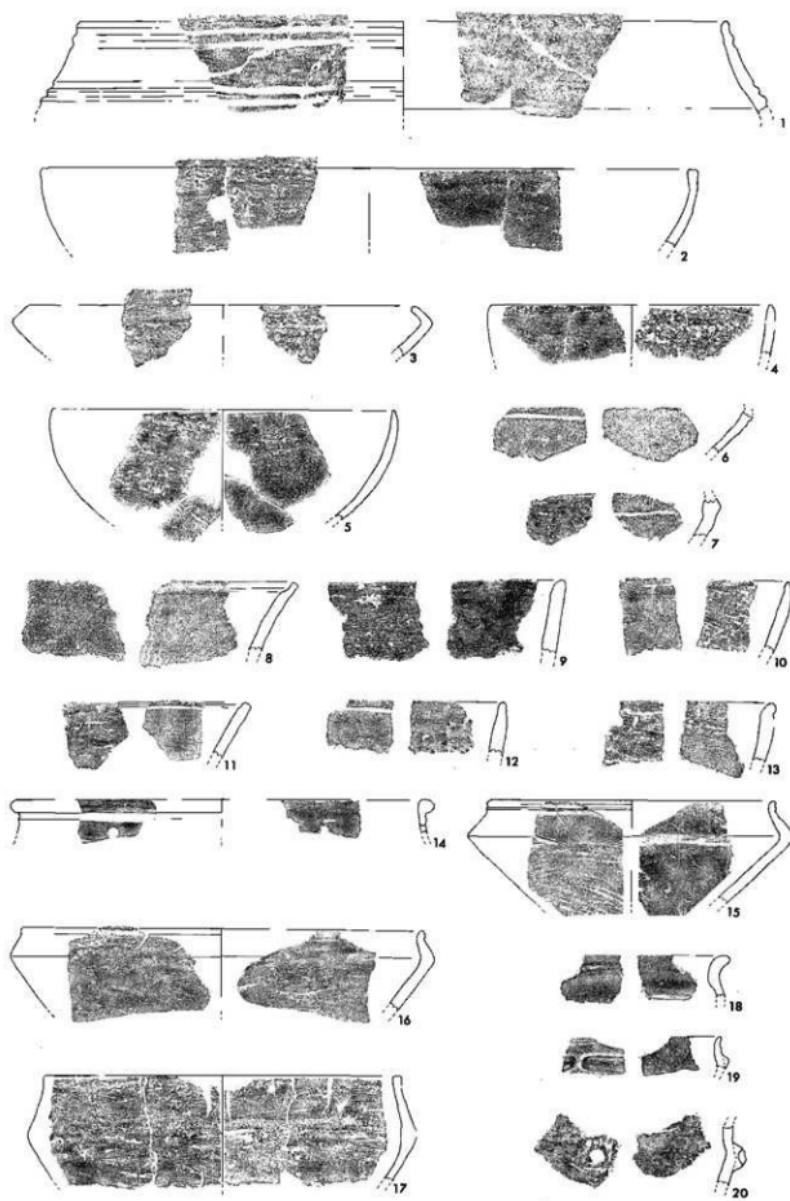
第28図 1区包含層出土遺物実測図4 (1 : 3)



第29圖 1區包含層出土遺物實測圖5 (1~19、1:3/20、1:4)

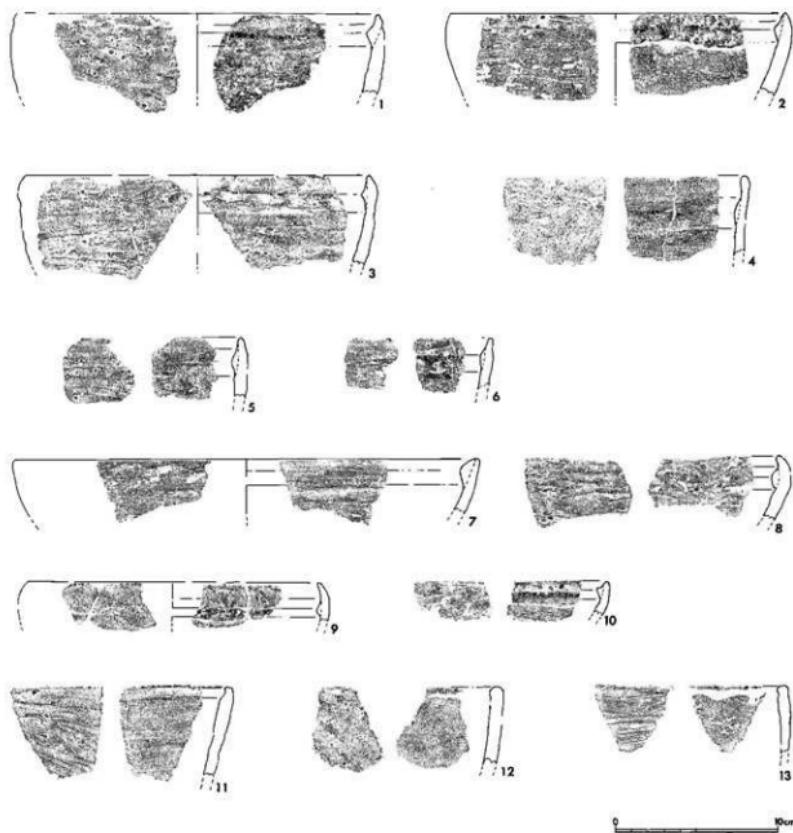


第30圖 1區包含層出土遺物實測圖 6 (1 : 3)

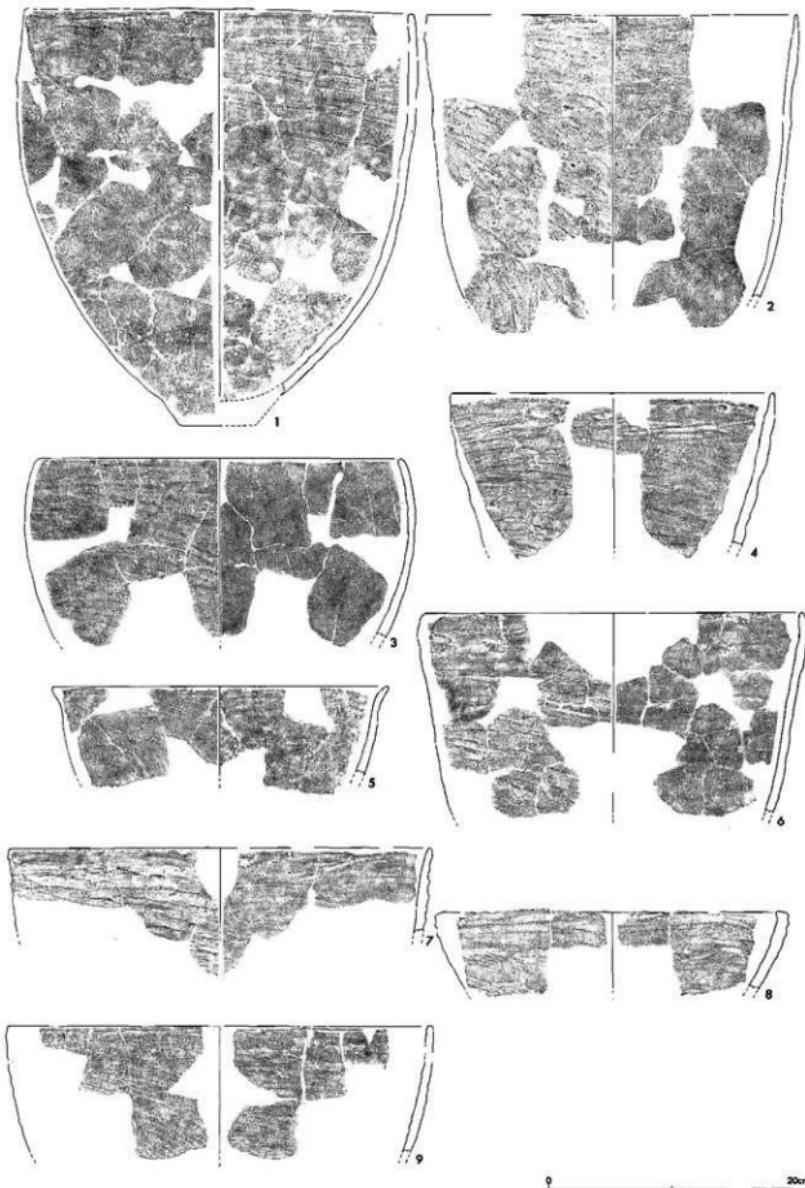


第31図 1区包含層出土遺物実測図7 (1 : 3)

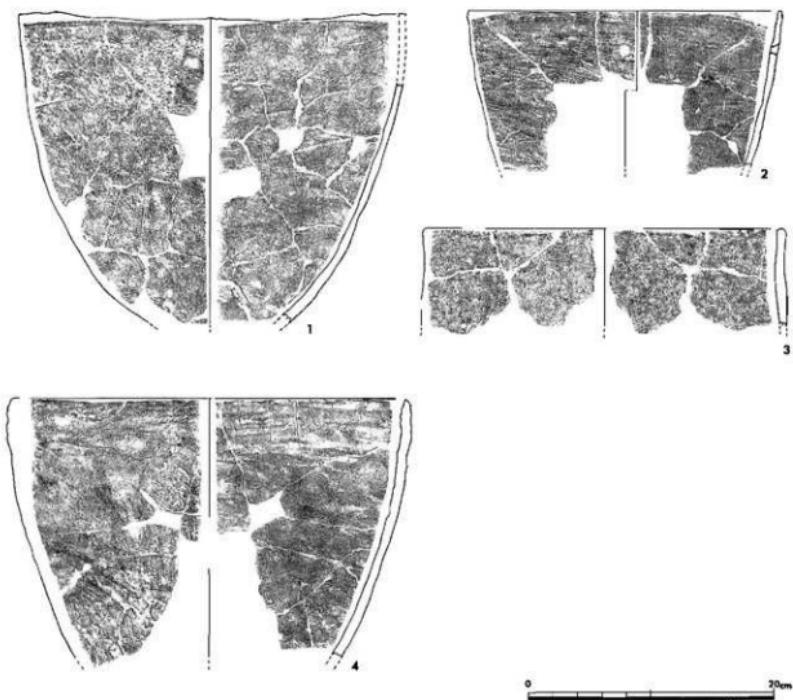
— 37 —



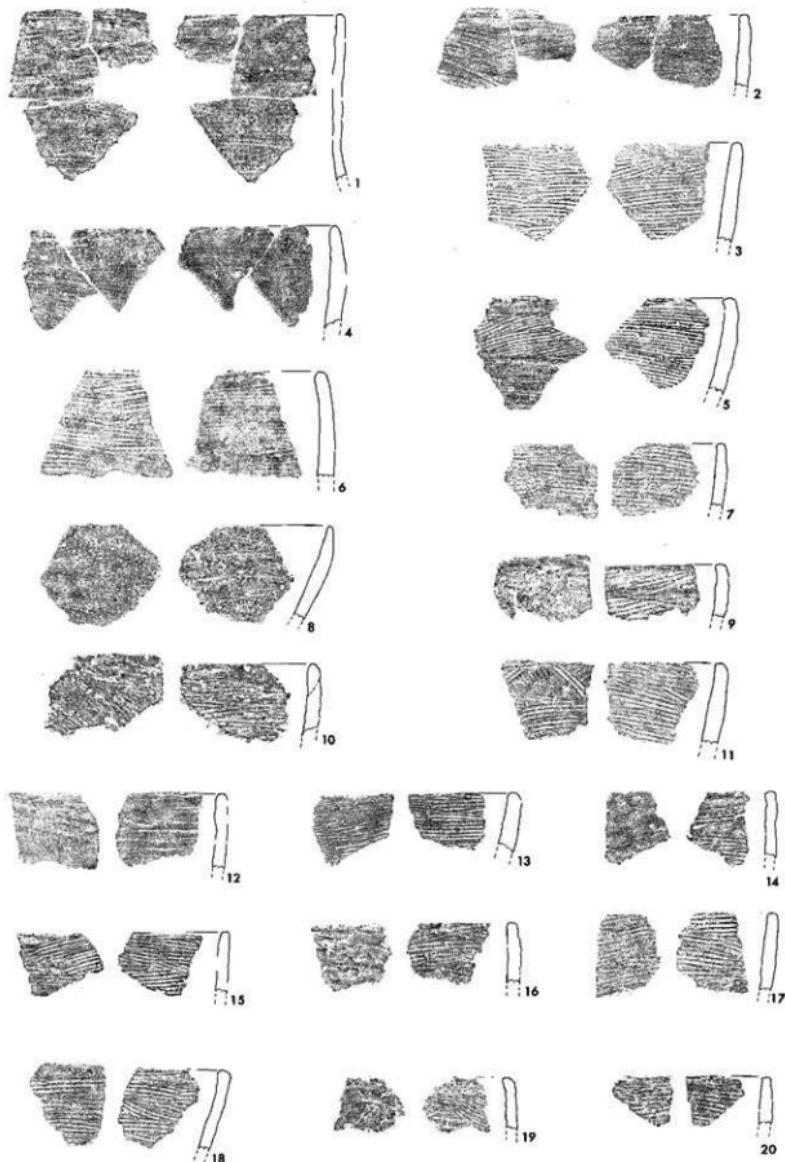
第32図 1区包含層出土遺物実測図8 (1:3)



第33図 1区包含層出土遺物実測図9 (1:4)

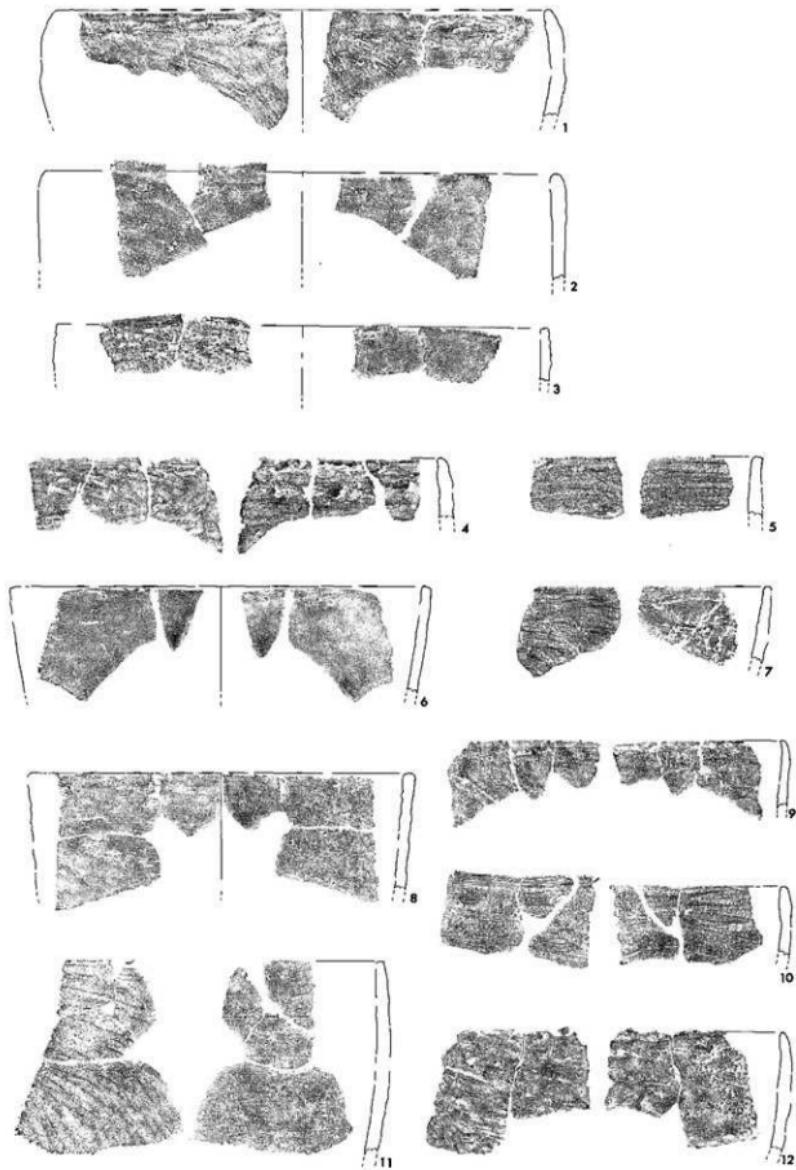


第34図 1区包含層出土遺物実測図10 (1 : 4)

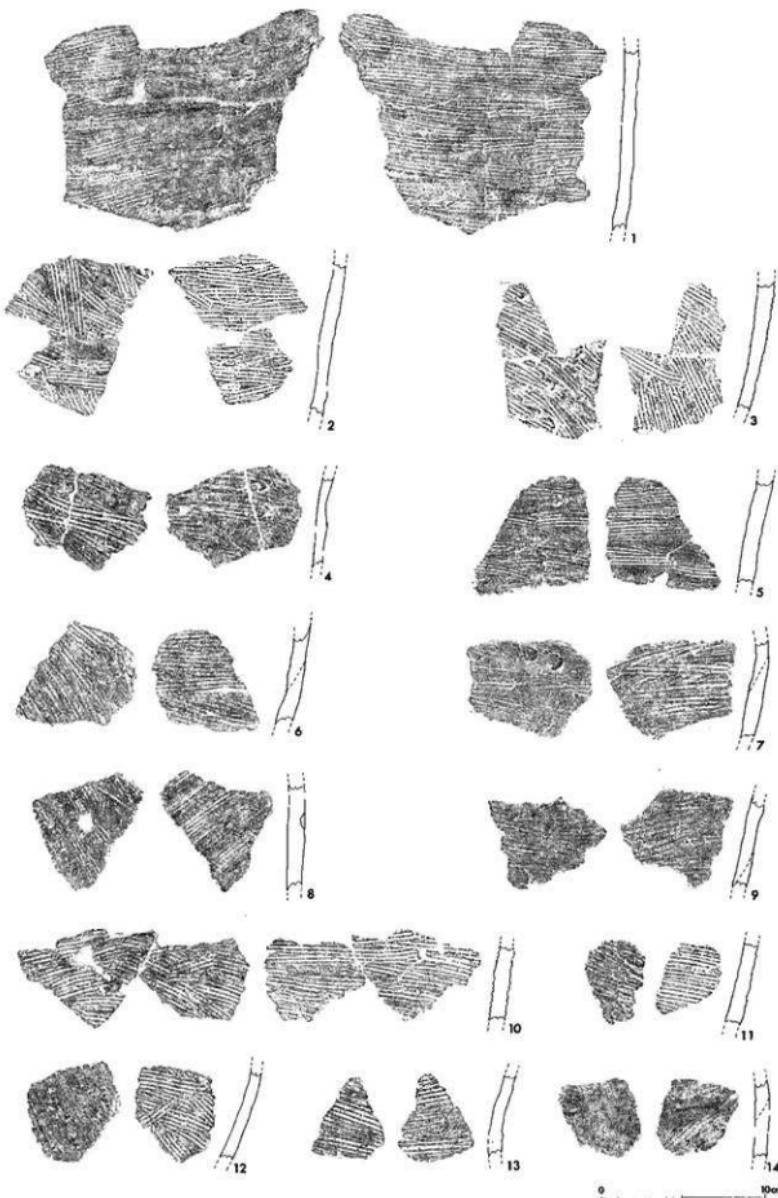


第35圖 1區包含層出土遺物實測圖11 (1 : 3)

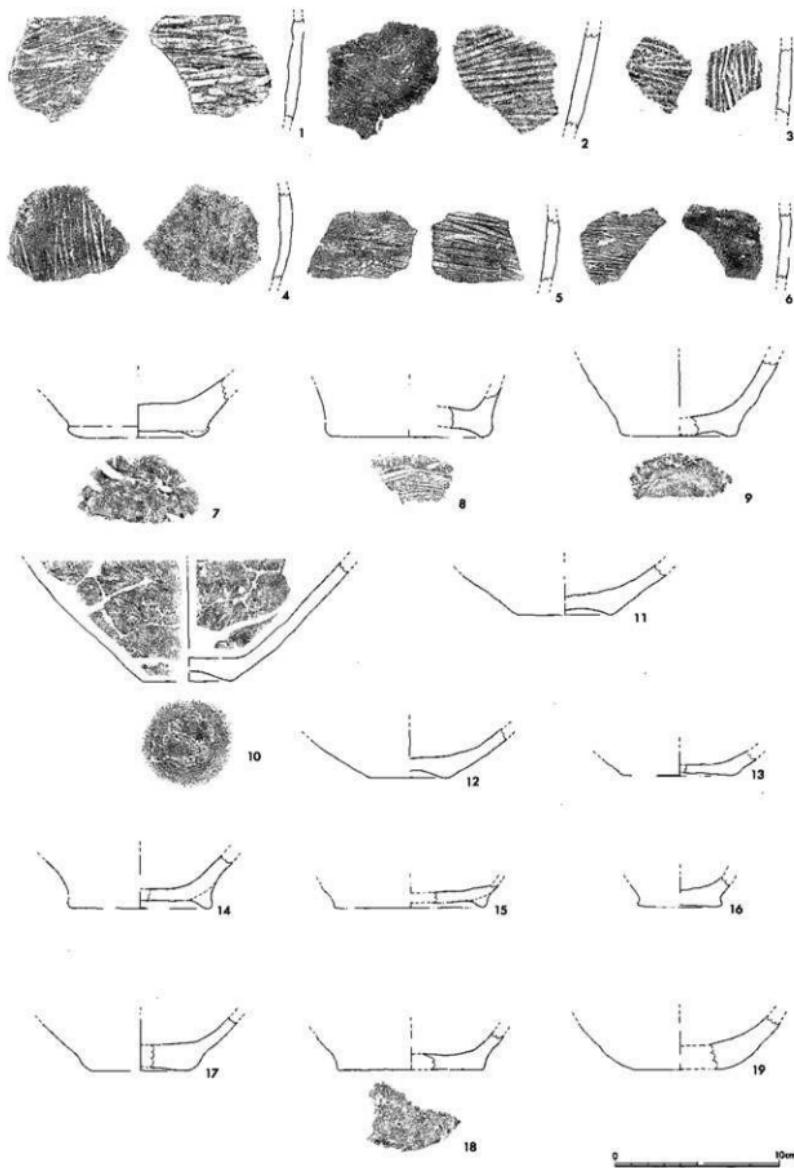
0 10cm



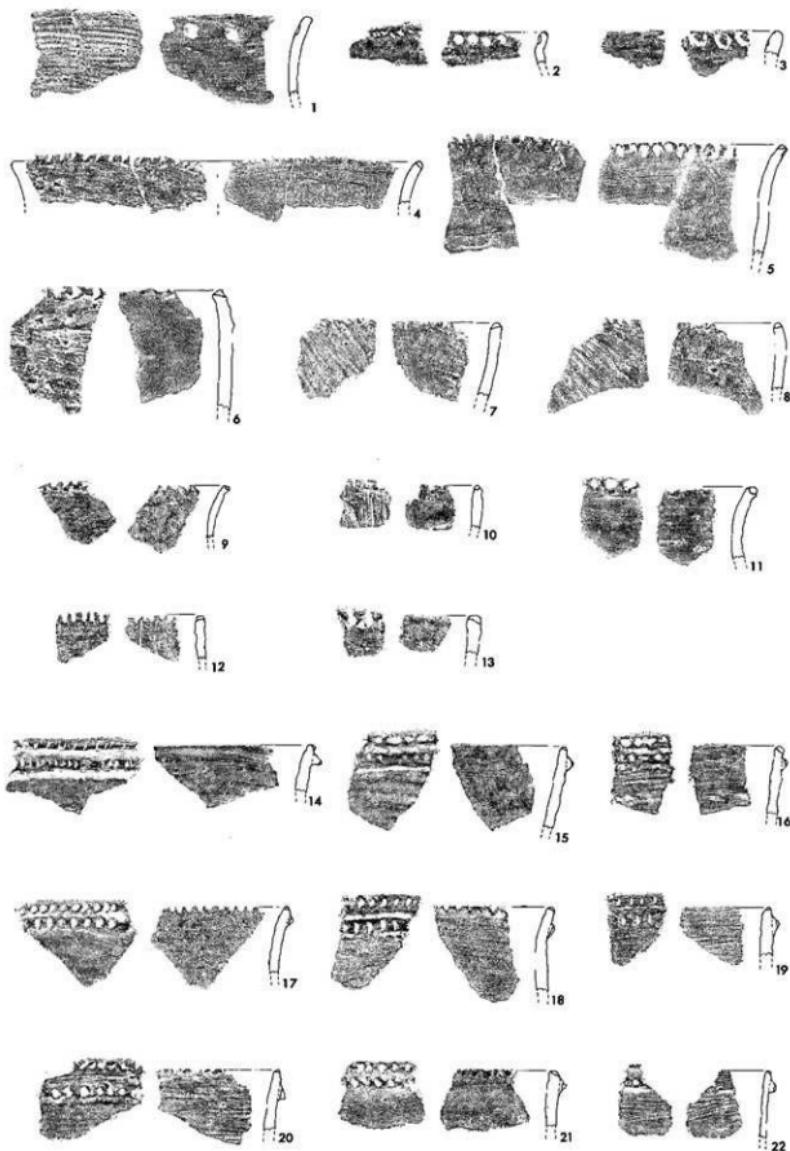
第36図 1区包含層出土遺物実測図12 (1:3)



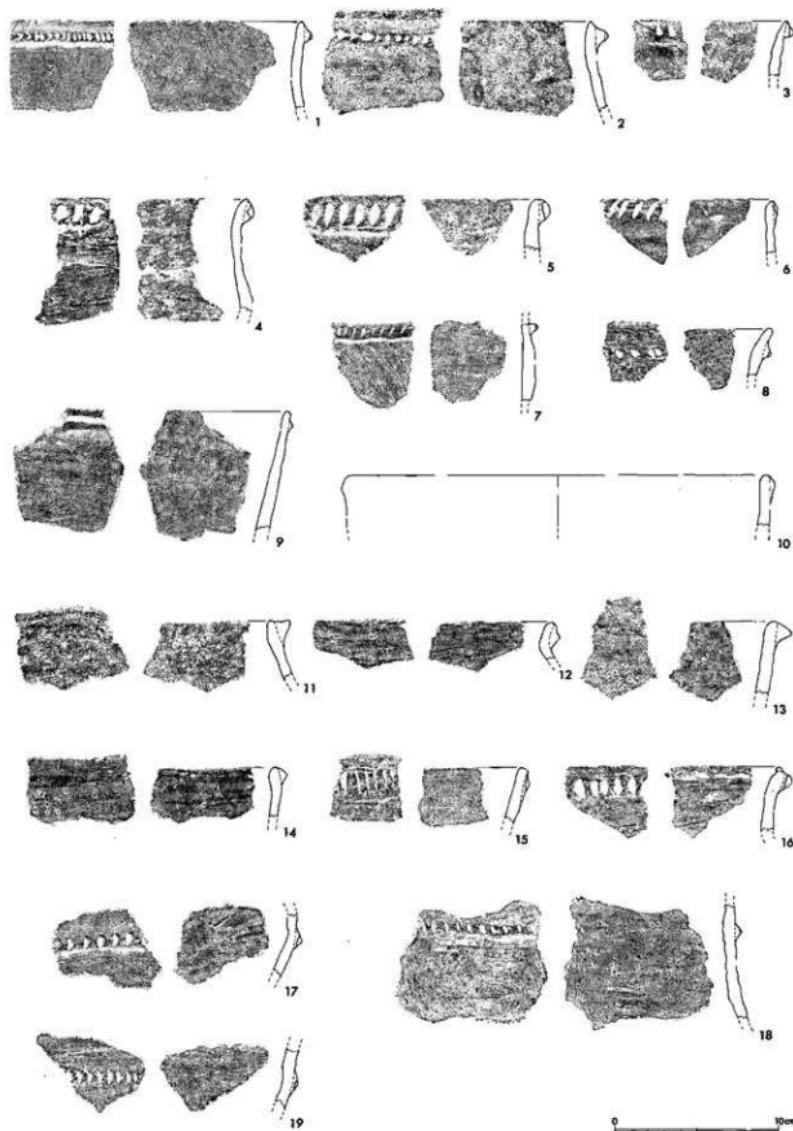
第37図 1区包含層出土遺物実測図13 (1 : 3)



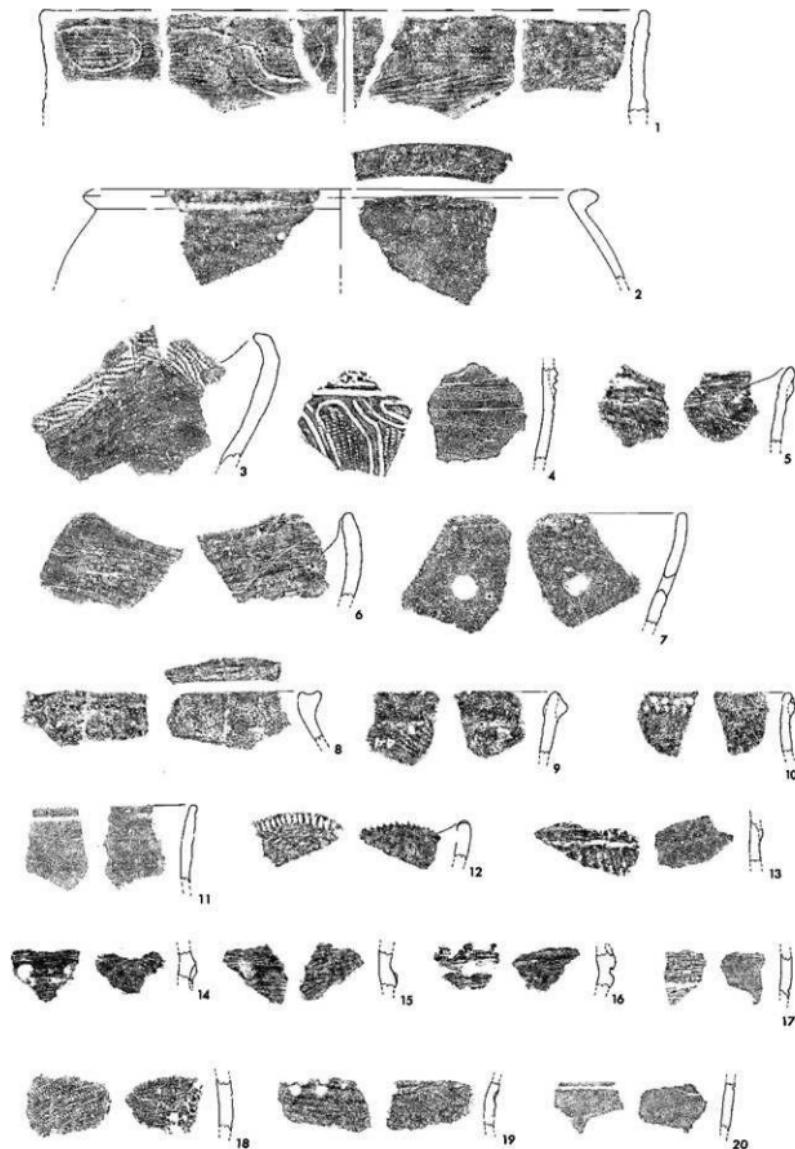
第38図 1区包含層出土遺物実測図14 (1 : 3)



第39圖 1區包含層出土遺物實測圖15 (1 : 3)



第40図 1区包含層出土遺物実測図16 (1 : 3)



第41圖 1區包含層出土遺物實測圖17 (1 : 3)

(2) 弥生土器 (第42~45図)

42-1~4、8、9は壺で、1は緩く外反する口縁を持ち胴部はやや張り出している。口縁端部外面に刺突文を施している。内外面ともにハケ調整しており、胴部外面にハケによる段がつけられている。2は外反する口縁を持ち、胴部は張り出していると思われる。口縁端部に刻み目を施し、頸部に1条の沈線を施している。3は緩く外反する口縁を持ち、胴部はわずかに張り出している。頸部外面に1条の沈線を施している。内外面ともにハケ調整している。4の胴部は緩く張っていると思われる。外面に2条の沈線を施し、沈線間に棒状工具の先端で刺突している。内外面ともにハケ調整している。8は胴部でやや張っており、外面に現状で7条の沈線を施している。内外面ともにハケ調整している。9は胴部でやや張り出している。5~7は壺で、5は頸部で、2条の沈線を施し、その間に列点文を施している。外部にミガキを入れている。6は肩部で、沈線で区画した部分に羽状文を施している。7は頸部で、2条の突帯を貼り付け、上下で互い違いになるように斜めに刻み目(刺突文)を施している。10~12は底部で、すべて平底である。1~12は弥生前期の土器である。

43-1~3、5は壺で、「く」の字状に鋭く屈曲する口縁を持ち、胴部が張り出している。3は口縁端部に貝殻による刻み目(刺突文)、胴部に貝殻による列点文を施している。4、6~8は壺で、4は「く」の字状に鋭く屈曲する口縁を持ち、端部は肥厚している。胴部は大きく張り出している。6は胴部で、上から列点文、2条の押し引き文、少し間をあけて刺突文を施している。7、8は頸部で上から押し引き文、列点文を施している。9、10は高環で、9は坏部に稜を持つ口縁で、口縁部外面に凹線文を施している。10は坏部に稜を持つ口縁で、口縁部外面に4条の凹線文を施している。凹線文の内部に1条おきに刻み目(刺突文)を施している。11~18は底部で、11~16は壺または壺で、すべて平底である。17は高環で脚部端外側に刻み目(刺突文)を施している。18は器種不明である。平底で内面はけずった後ナデている。1~18は弥生時代中期の上器である。

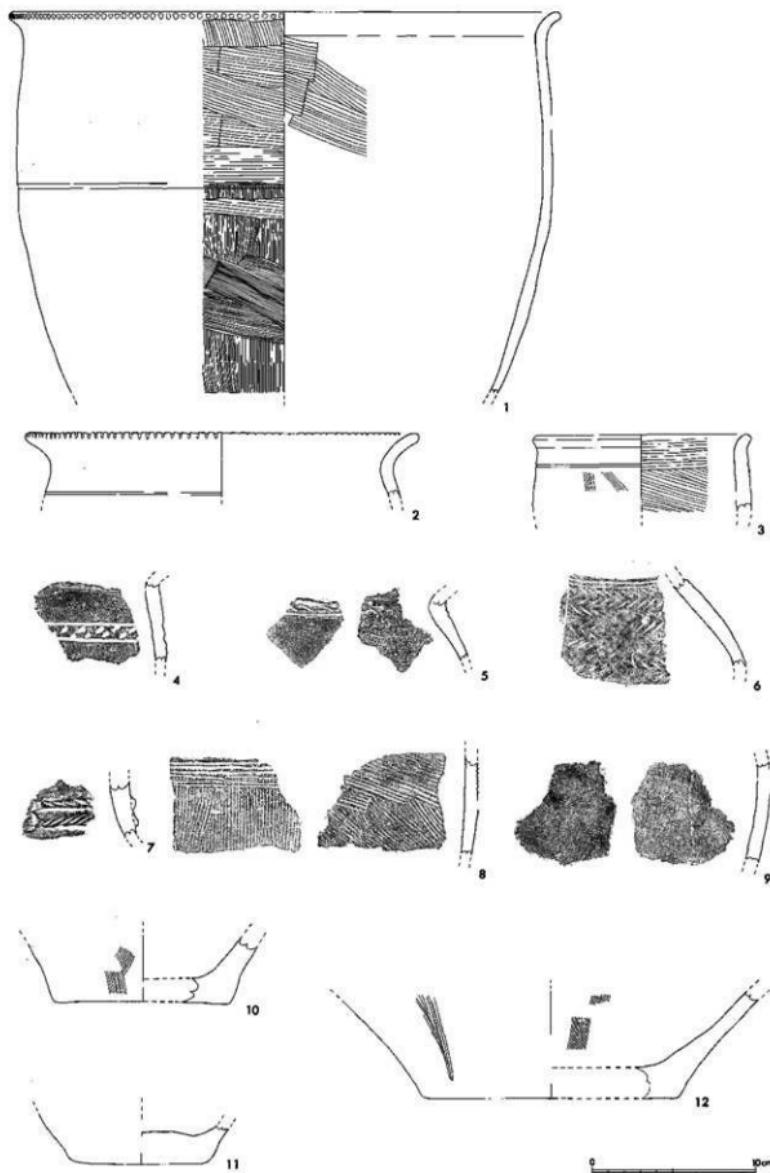
44-1、2、11~13、15、16は壺で、1は拡張した口縁端部を持ち、胴部は大きく張り出している。拡張した口縁端部に凹線文を施している。2は拡張した口縁端部を持ち、口縁端部に擬凹線文を施している。11は「く」の字状に鋭く屈曲する口縁を持ち、口縁部を肥厚させている。12は直線的に立ち上がる頸部から外側に鋭く屈曲する口縁を持ち、端部は上方にやや拡張している。13は外側に鋭く屈曲する口縁を持ち、端部は上方に拡張され擬凹線文を施している。15は上方に拡張した口縁端部を持ち胴部は大きく張り出している。端部は内傾し擬凹線文を施している。16は上方にかなり拡張した口縁端部を持ち、端部は直線的に立ち上がり擬凹線文を施している。口縁部内面にミガキが入っている。3、4、9、10は鉢で、3、4はやや内湾しながら立ち上がる頸部から外側に鋭く屈曲する口縁を持っている。9、10は直線的に立ち上がる頸部から緩く屈曲する口縁を持っている。口縁端部は上方に拡張している。5~8、14は壺で、5は上方に拡張した口縁端部を持ち、端部に擬凹線文を施している。6は頸部から外反しながら立ち上がる口縁を持ち、端部は上下に拡張し、内傾している。7は「く」の字状に凸出する口縁を持ち、口縁部は肥厚し端部は下方に少し拡張している。8は内傾している頸部から外側に緩く屈曲する口縁を持ち、端部は上方に少し拡張している。14は肥厚した口縁を持ち、端部は上方に拡張し外傾している。端部に擬凹線文を施している。1~16は弥生時代後期の土器である。

45 1は複合口縁を持つ壺で口縁端部は丸みをおびている。2～5、7は甌で複合口縁を持ち、2はやや外反する口縁部を持ち、端部は丸みをおびている。胴部の少し下方で胴部最大径をとっている。3は大きく外傾し、外反する口縁部を持ち、端部は丸みをおびている。4はやや外反する口縁を持ち、口縁部に擬凹線文を施している。5は外反する口縁を持ち、口縁部に擬凹線文を施している。7は胴部から底部にかけて残っており、わずかに平底のなごりを残している。6は鼓形器台で、外面に擬凹線文を施している。1～7は弥生時代後期後甌の土器である。

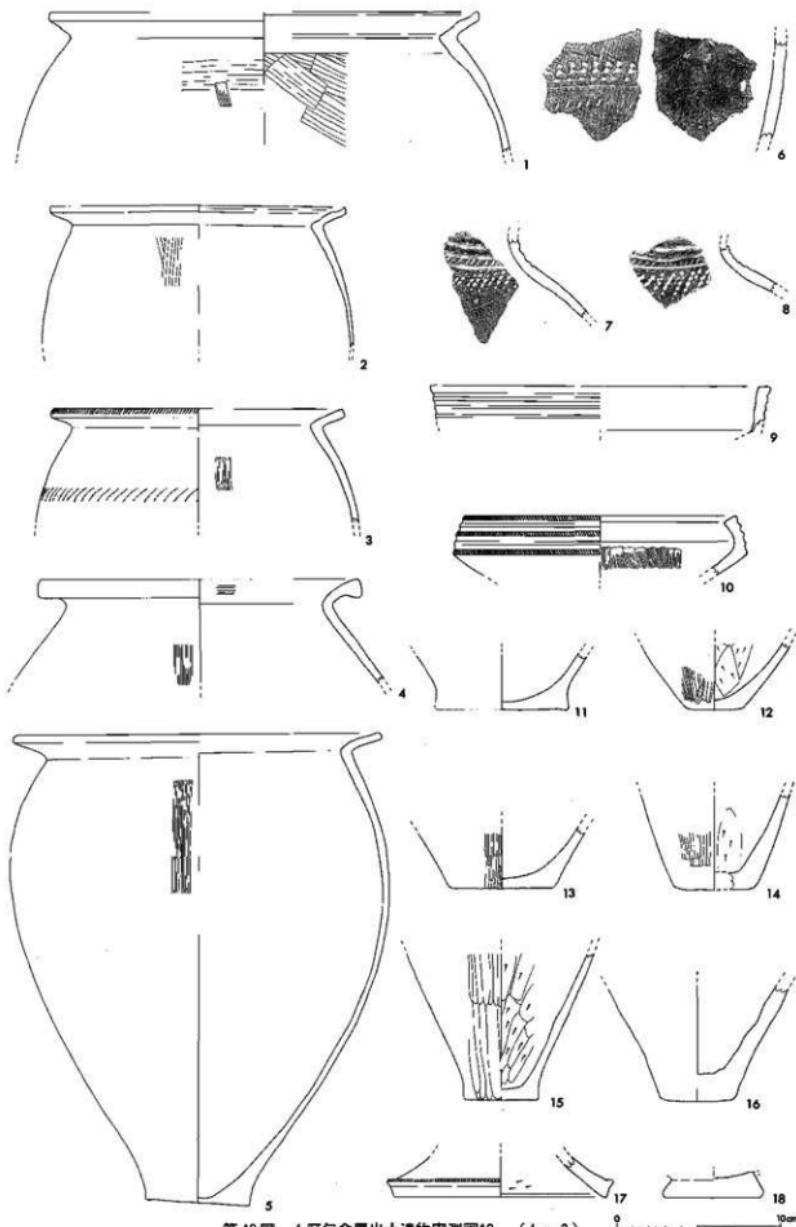
(3) 土師器（第46～47図）

46～1～5は複合口縁を持つ甌である。1の口縁端部に平坦面をつくり、複合口縁部の稜は水平方向よりやや下方に突出している。2は外傾する口縁を持ち、端部に外傾する平坦面をつくり、複合口縁の稜は水平方向よりやや下方に突出している。肩部に綾杉文を施している。また肩部に1ヵ所穿孔し、貫通させている。3の口縁端部はやや丸みを持たせ外方に張り出させている。複合口縁の稜は水平方向よりやや下方に突出している。肩部には綾杉文を施している。4の口縁端部は少し丸みをおびている平坦面をつくり、複合口縁の稜は水平方向に突出している。5の口縁端部は丸みを持たせ、外方に張り出させている。複合口縁の稜は水平方向に突出している。肩部に2列の刺突文を施している。6～8は甌で、6の口縁端部は平坦面をつくっており、また外方に折り曲げ張り出させてている。7の口縁端部は外傾する平坦面をつくっており、外方に張り出させてている。複合口縁の稜は水平方向よりやや下方に突出している。頸部に貝殻による綾杉文を施している。8の口縁端部はやや丸みを持たせ外方に張り出させている。複合口縁の稜は丸みを持ち水平方向に突出している。1～8は古墳時代前期の土器である。

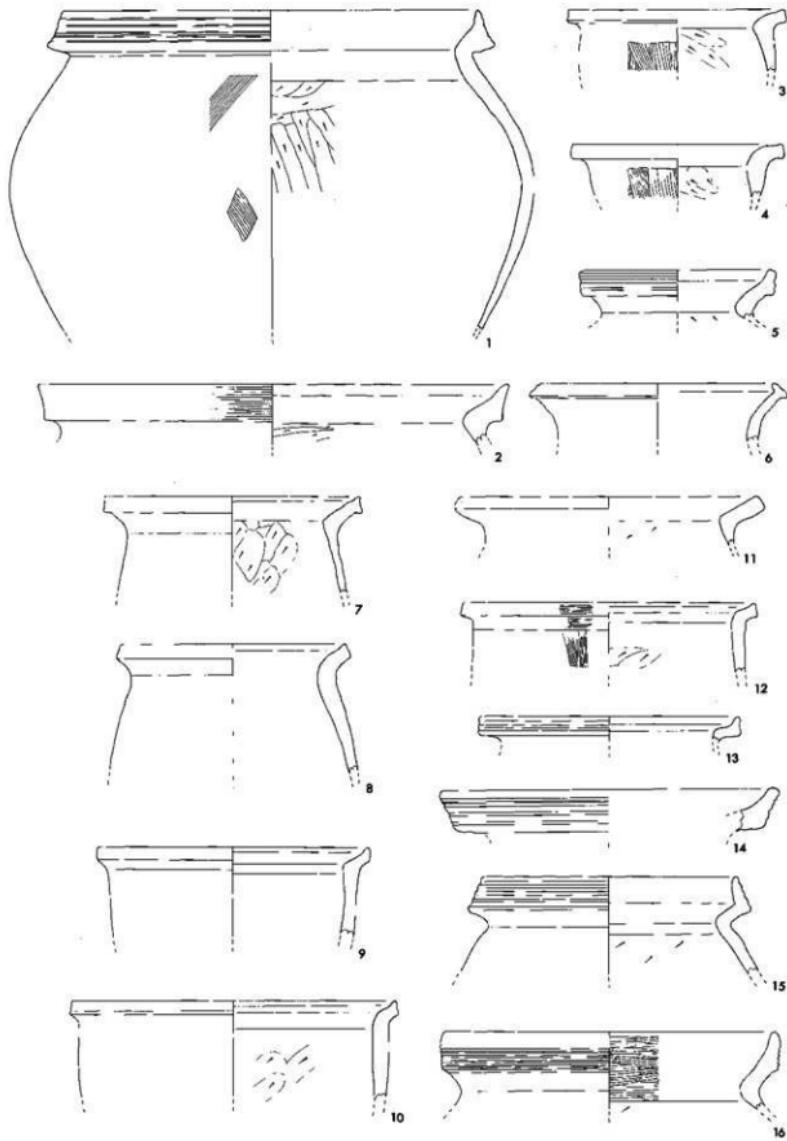
47～1、2は甌で共に外以する口縁を持っている。1の口縁端部は外方に折り曲げており、外傾している。複合口縁の稜は水平方向よりやや上方に張り出させてている。2の口縁端部は丸みをおびている。複合口縁の稜は水平方向に突出するが丸みをおびている。3は長頸甌で、外反する口縁を持ち、端部はやや丸みをおびた平坦面を作り少し外方に張り出させている。複合口縁の稜は水平方向に突出している。4は直口甌で、外反する口縁を持ち、端部は丸みをおびておらず、複合口縁の稜は水平方向に突出している。5は単純口縁の甌で、外傾し直線的にのびる口縁を持っている。6は須恵器で器種不明である。7は器台の脚部で、脚部の端にいくほど外反し肥厚している。8は高坏の脚部で、長い筒状の脚部を持ち端部は平坦面をつくっている。内面の下方はハケ調整している。9は甌で、口縁中程より少し下がった部分に稜を持っている。口縁端部はやや丸みを持った平坦面をつくっており、外傾している。10は甌で口縁中程より少し下がった部分に緩い稜を持っている。口縁端部はやや丸みをおびた平坦面をつくっている。11は単純口縁を持つ甌で、大きく外反する口縁を持っている。内面の口縁部と体部をつなぐ屈曲する部分に、縦1cm横3cmの指先またはヘラ状工具を使った圧痕が付いている。12は底の浅い高坏で外面に綾ハケ調整を施している。13は高坏で、底は平底をしている。外側が全体的に赤く、赤色顔料を塗布してあったと思われる。14は高坏の脚部で、坏部との接合部分から脚部端にかけて段をつくらず、緩やかに外反している。外面に綾ハケ調整を施している。15、16は土師質土器の坏と思われる。15、16の拓本はそれぞれ底部外面、底部内面である。1～8は古墳時代前期、9、10は古墳時代中期、11～14は古墳時代後期、15、16は中世以降の土器である。



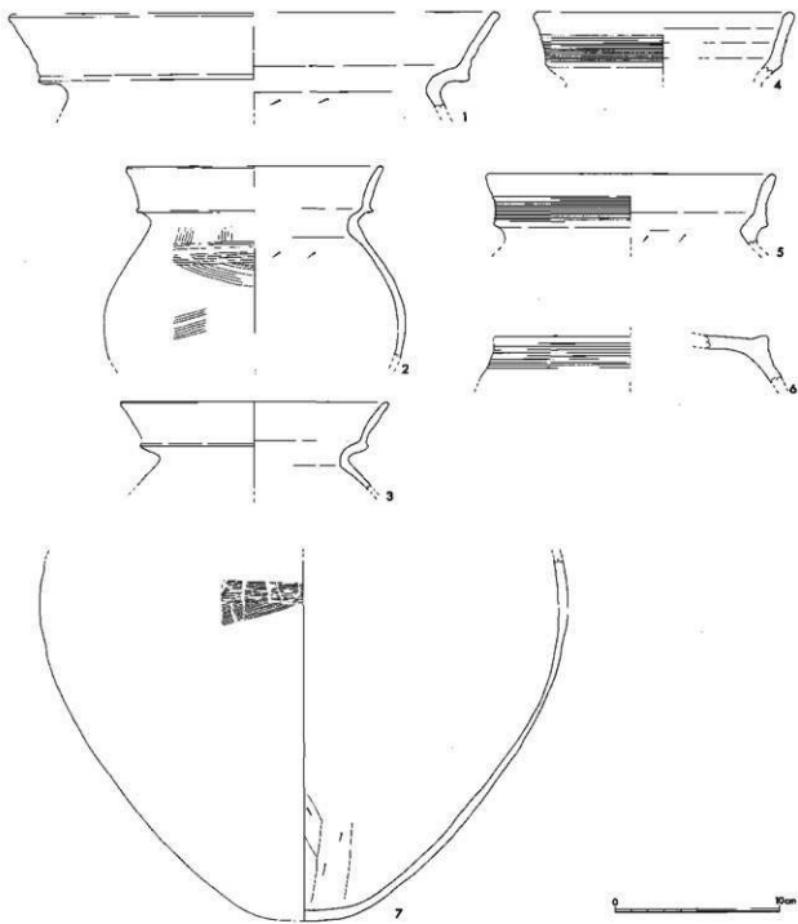
第42図 1区包含層出土遺物実測図18 (1 : 3)



第43図 1区包含層出土遺物実測図19 (1:3)



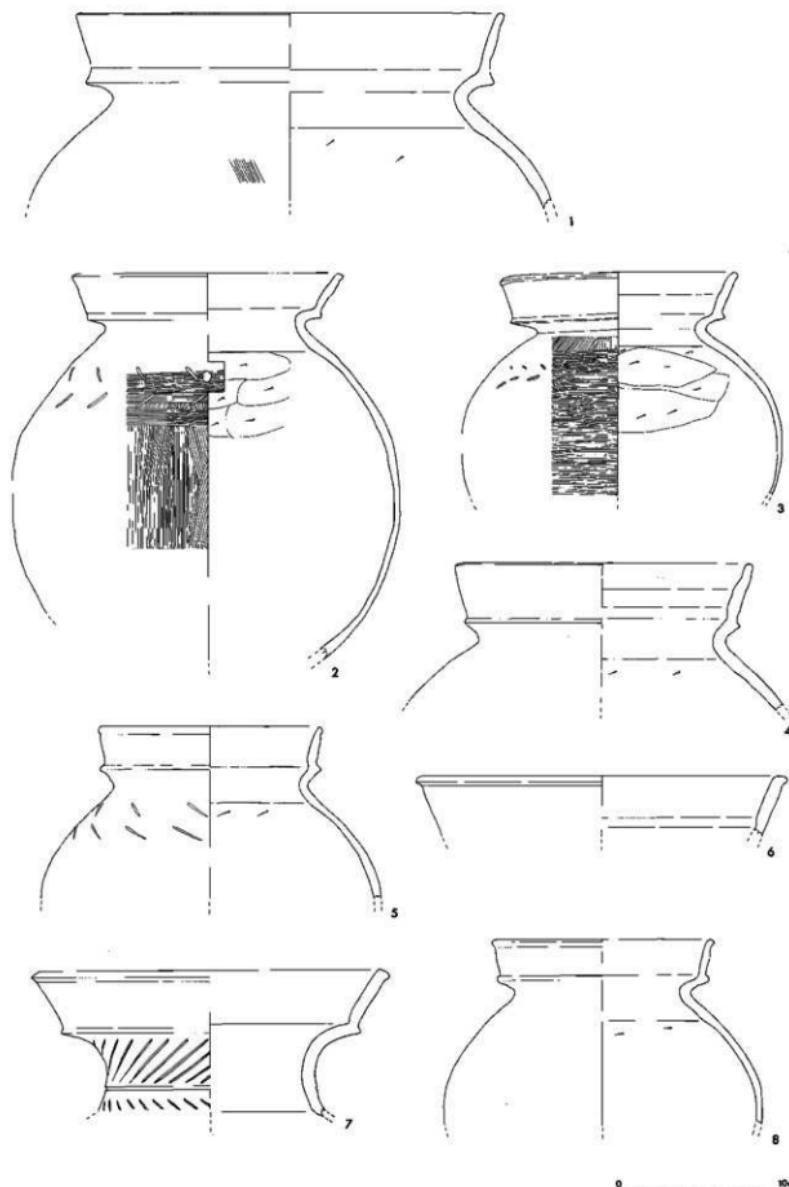
第44図 1区包含層出土遺物実測図20 (1~2、1:4/3~16、1:3)



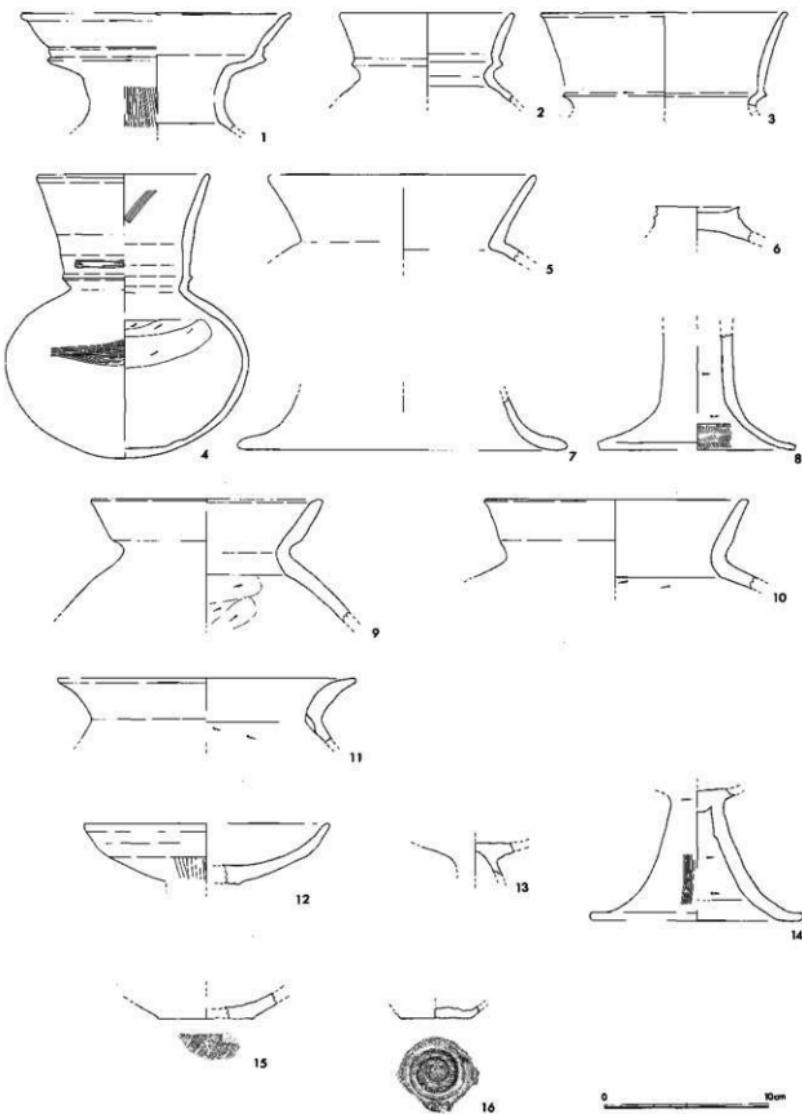
第45図 1区包含層出土遺物実測図21 (1:3)

(4) 石器 (第48図)

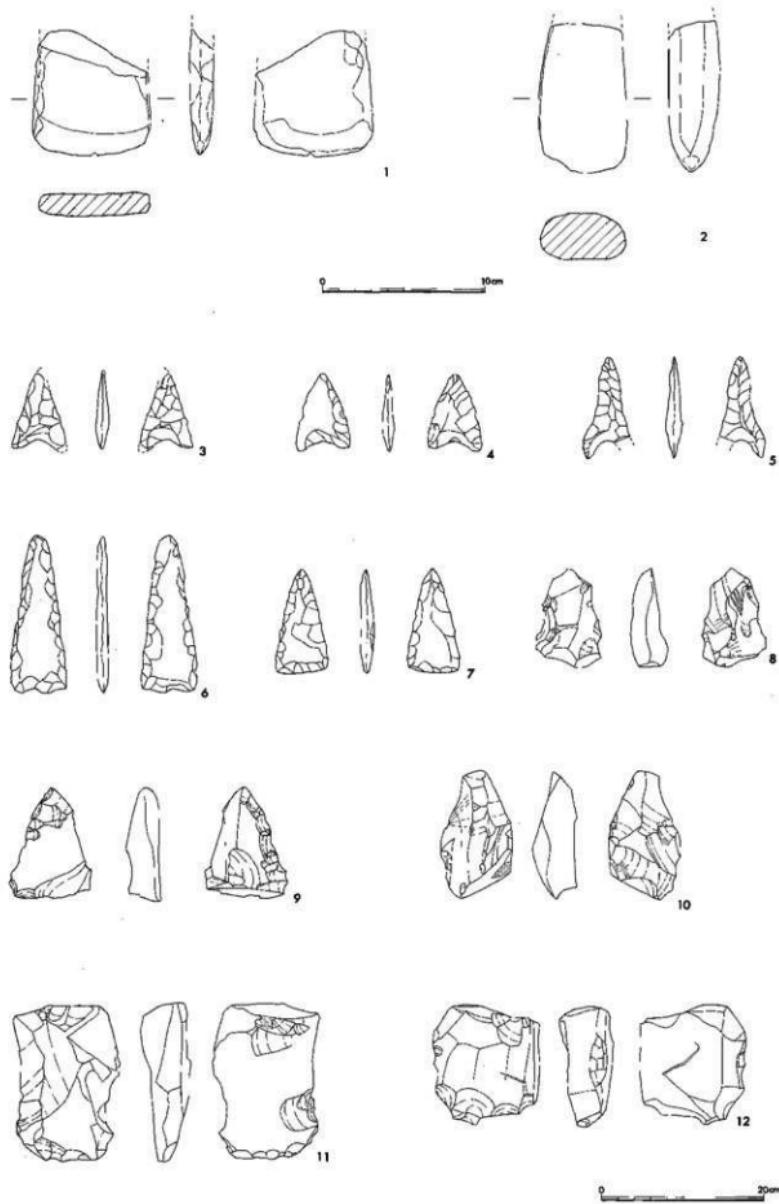
48-1、2は磨製石斧である。3～7は石鎌である。8～12は木製品だと思われる。8～10は黒曜石である。1は2区から、2～12は1区から出土している。



第46図 1区包含層出土遺物実測図22 (1 : 3)



第47図 1区包含層出土遺物実測図23 (1 : 3)



第48図 三田谷III遺跡出土石器実測図1 (1~2、1:3/3~12、2:3)

土 器 觀 察 表 (c : 口径 h : 器高 b : 底径)

図版番号	出土地点	種 別	法量	文 様	手 法	備 考
11-1	SX01	坏蓋 (須恵器)	c: 14.6 h: 4.0		外面 (天井部) (口縁部) 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ
2	SX01	坏蓋 (須恵器)	c: 13.0 h: 3.9		外面 (天井部) (口縁部) ヘラ切り後ナデ 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元
3	SX01	高坏 (須恵器)	c: 12.4 h: 10.7 b: 10.8		外面 回転ナデ	内面 (环底部) ナデ (その他) 回転ナデ 反転復元 透かし 1段 2方向
4	SX01	高坏 (須恵器)	c: 12.8 h: 10.6 b: 10.6		外面 (环底部) ヘラケズリ後回転ナデ (その他) 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元 透かし 1段 2方向
5	SX01	高坏 (須恵器)	c: 12.2 h: 11.0 b: 10.2		外面 回転ナデ (环底部) (その他)	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元 透かし 1段 2方向
6	SX01	高坏 (須恵器)	c: 11.4 h: 8.3 b: 9.2		外面 回転ナデ (环底部) (その他)	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元 透かし 1段 2方向 脚部外面ヘラ記号
7	SX01	高坏 (須恵器)	c: 10.4		外面 回転ナデ (环底部)	内面 ナデ 回転ナデ 透かし 1段 2方向
8	SX01	はそう (須恵器)	c: 5.2		外面 (底部) ヘラケズリ (頸部) (その他) 回転ナデ	内面 ナデ (その他) 回転ナデ 反転復元
12-1	SX01	坏身 (須恵器)	c: 12.4 h: 4.4		外面 回転ナデ (底部) (その他)	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元
2	SX01	はそう (須恵器)	b: 4.2		外面 (底部) (その他) ヘラケズリ 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元
3	SX01	坏蓋 (須恵器)	c: 13.4 h: 4.3		外面 (天井部) (口縁部) ヘラ切り 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元
4	SX01	高坏 (須恵器)	c: 11.8 h: 7.6 b: 8.5		外面 回転ナデ (环底部) (その他)	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元 透かし 1段 2方向 脚部外面ヘラ記号
5	SX01	高坏 (須恵器)	c: 11.5 h: 7.8 b: 9.0		外面 回転ナデ (环底部) (その他)	内面 ナデ 回転ナデ 透かし 1段 2方向 脚部外面ヘラ記号
13-2	SX01	坏蓋 (須恵器)	c: 13.0 h: 4.1		外面 回転ナデ (天井部) (口縁部)	内面 ナデ 回転ナデ 反転復元
3	SX01	低脚坏 (須恵器)	c: 12.0 h: 5.6 b: 8.2		外面 回転ナデ (底部) (その他)	内面 ナデ 回転ナデ
4	SX01	坏蓋 (須恵器)	c: 14.0 h: 3.9		外面 (天井部) (口縁部) 回転ナデ 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ
14-1	SX01	壺 (須恵器)	c: 8.6 h: 17.7 b: 6.0		外面 (口縁部) (肘部、脚部) カキ目、ヘラケズリ	内面 ナデ 回転ナデ
3	SX01	高坏 (須恵器)	c: 9.6 h: 6.4 b: 5.6		外面 回転ナデ (环底部) (その他)	内面 ナデ 回転ナデ
4	SX01	坏蓋 (須恵器)	c: 12.8 h: 3.7		外面 (天井部) ヘラケズリ後回転ナデ (口縁部) 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ

岡版番号	出土地点	種別	法量	文 様	手	法	備 考
5	SX01	環蓋 (須恵器)	c : 13.6 h : 4.2		外面 (天井部) ヘラケズリ後回転ナデ (口縁部) 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ	
6	SX01	環蓋 (須恵器)	c : 12.8 h : 4.1				
7	SX01	環蓋 (須恵器)	c : 12.0 h : 4.3		外山 (大井部) (口縁部) ヘラケズリ 同転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ	
19-1	SI01	低脚環 (土師器)	c : 14.5 h : 6.4		外面 (环部) ハケ日 (脚部) ナデ	内面 ハケ日、ナデ ナデ	
2	SI01	壺 (土師器)	c : 18.4	(肩部) ヘラ状工具によ る刺突の羽状文	外面 (口縁部) 同転ナデ (肩部) ナデ	内面 同転ナデ ケズリ	
3	SI01	壺 (土師器)	c : 16.7		肩部内面ケズリ		
4	SI01	壺 (土師器)	c : 16.6		外面 (口縁部) ナデ後ハケ日 (肩部) ナデ後ハケ日	内面 ナデ後ハケ日 ケズリ	
21-1		壺 (須恵器)	c : 35.0		外面 ナデ	内面 ナデ	反転復元
2		環蓋 (須恵器)	c : 14.6		外山 (口縁部) 回転ナデ	内面 回転ナデ	反転復元
3		高環 (須恵器)	c : 9.8 h : 10.5 b : 7.8	(环底部) (その他)	外面 回転ナデ	内面 ナデ 回転ナデ	反転復元 透かし1段3方向
4		(須恵器)			外山 回転ナデ	内面 ナデ	
5		環身 (須恵器)	c : 11.4 h : 3.8	(口縁部) (底部)	外面 回転ナデ ヘラケズリ	内面 回転ナデ ナデ	反転復元
6		環身 (須恵器)	c : 10.6	(口縁部)	外面 回転ナデ	内面 回転ナデ	反転復元
7		環身 (須恵器)	c : 10.2	(口縁部)	外面 回転ナデ	内面 回転ナデ	反転復元
8		環身 (須恵器)	c : 11.6	(口縁部)	外面 回転ナデ	内面 回転ナデ	反転復元
9		環身 (須恵器)	c : 14.4 h : 3.6	(口縁部) (底部)	外面 回転ナデ 回転ナデ	内面 回転ナデ ナデ	反転復元
10		環身 (須恵器)	c : 9.4 h : 3.8	(口縁部) (底部)	外面 回転ナデ	内面 回転ナデ ナデ	
11		壺 (土師器)	c : 16.7	(口縁部) (脚部)	外面 ナデ ナデ後ハケ日	内面 ナデ ケズリ	反転復元
12		壺 (土師器)	c : 16.6	(口縁部) (脚部)	外面 ナデ後ハケ日 ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
13		壺 (土師器)	c : 18.6	(口縁部) (脚部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	反転復元

回収番号	出土地点	種別	法量	文	様	手	法	備考
14		壺 (土瓶器)	c : 14.8	—	—	外側 (口縁部) (肩部)	内面 ナデ ナデ ケズリ	反転復元
15		壺蓋 (須恵器)	c : 13.8	—	—	外側 (口縁部) (底部)	内面 同転ナデ ヘラ切り後ナデ	反転復元
16		壺蓋 (須恵器)	c : 14.4	—	—	外側 (天井部) (口縁部)	内面 ナデ 同転ナデ	反転復元
17		壺蓋 (須恵器)	c : 13.9 h : 3.9	—	—	外側 (大井部) (口縁部)	内面 ナデ 同転ナデ	反転復元
18		壺身 (須恵器)	c : 10.6 h : 3.7	—	—	外側 (口縁部) (底部)	内面 同転ナデ ナデ	反転復元
19		壺身 (須恵器)	c : 11.0 h : 3.9	—	—	外側 (口縁部) (底部)	内面 同転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	反転復元
20		高台付壺 (須恵器)	b : 7.6	—	—	外側 (体部) (底部)	内面 ナデ 同転ナデ	反転復元
21		高台付壺 (須恵器)	b : 8.8	—	—	外側 (底部) (脚部)	内面 停止系切り後回転ナデ 回転ナデ	反転復元
22		高壺 (須恵器)	b : 7.8	—	—	外側 (口縁部) (脚部)	内面 回転ナデ (环底部) 回転ナデ (口縁部) 回転ナデ	反転復元
23		脚付壺 (須恵器)	—	—	—	外側 (体部) (底部)	内面 回転ナデ後カキ口 回転ナデ	反転復元 並底部に自然剥付 着
22-1		子持壺 (須恵器)	—	—	—	外側 (親壺胴部)	内面 タタキ	反転復元 親壺胴部
2		子持壺 (須恵器)	—	—	—	外側 (脚部)	内面 ナデ	反転復元 親壺脚部
3		子持壺 (須恵器)	—	—	—	外側 ナデ (子壺底部指頭片痕)	内面 ナデ	子壺
4		子持壺 (須恵器)	—	—	—	外側	内面 ナデ (子壺底部指頭片痕)	子壺
5		子持壺 (須恵器)	—	—	—	外側	内面 ナデ	子壺
6		子持壺 (須恵器)	—	—	—	—	—	子壺
7		子持壺 (須恵器)	—	—	—	—	—	子壺
8		子持壺 (須恵器)	—	—	—	—	—	親壺と子壺の接合 部分?

岡版番号	出土地点	種別	法量	文様	手	法	備考
25-1	I 2	深鉢 (縄文)	c : 26.6	縄文 沈線文	(胴部) (口縁部)	外面 縄文	内面 ナデ
2	J 2	深鉢 (縄文)	c : 16.0	縄文 沈線文	(口縁部)	外面 縄文	内面 ナデ 反転復元
3	I 3	深鉢 (縄文)		刺突文 沈線文	(口縁部・脇部) (頸部)	外面 縄文 ナデ	内面 ナデ ナデ
4	H 3	深鉢 (縄文)		刺突文 沈線文	(胴部)	外面 ナデ	内面 ナデ
5	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈線文	(胴部)	外面 縄文	内面 ナデ
6	H 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈線文	(胴部)	外面 縄文	内面 ナデ
7	H 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈線文	(胴部)	外面 ナデ	内面 ナデ
8	I 2	深鉢 (縄文)		縄文	(口縁部) (頸部)	外面 縄文 ナデ	内面 ナデ ナデ
9	I 2	深鉢 (縄文)	c : 25.4	縄文(口縁施部縄文)	(口縁地部) (口縁部)	外面 縄文 ナデ	内面 ナデ
10	I 2	深鉢 (縄文)		縄文	(口縁部)	外面 縄文	内面 ナデ
11	I 2	深鉢 (縄文)		縄文	(口縁部)	外面 縄文	内面 ナデ
12	I 2	深鉢 (縄文)		縄文	(胴部)	外面 縄文	内面 ナデ
13	I 2	深鉢 (縄文)		縄文(撚糸文)	(胴部)	外面 縄文	内面 ナデ
14	I 2	深鉢 (縄文)		縄文(撚糸文)	(頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
15	I 2	深鉢 (縄文)		縄文	(頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
16	I 2	深鉢 (縄文)		縄文(撚糸文)	(頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
17	F 3	深鉢 (縄文)		縄文	(頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
18	I 2	深鉢 (縄文)		縄文	(胴部)	外面 縄文	内面 ナデ
19	H 2	深鉢 (縄文)		縄文(撚糸文)	(頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
20	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈線文	(胴部)	外面 縄文	内面 2枚貝条縄文

図版番号	出土地点	種別	法量	文様	手法	備考
21	I 2	深鉢 (縄文)		縄文(撚糸文) (頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
22	H 2	深鉢 (縄文)		縄文 (頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
23	T 2	深鉢 (縄文)		縄文 (胸部)	外面 縄文 ナデ	内面 ナデ
26-1	I 2	深鉢 (縄文)	c : 23.2	磨消縄文 (口縁部・頸部) (胸部)	外面 磨消縄文 ナデ	内面 ナデ 反転復元
2	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈縄文 (口縁部) (頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
3	I 2	深鉢 (縄文)		磨消縄文 沈縄文 (口縁部)	外面 磨消縄文	内面 2枚貝条痕文 ナデ
4	I 2	深鉢 (縄文)	c : 22.0	磨消縄文 (口縁部)	外面 磨消縄文	内面 ナデ
5	G 2	深鉢 (縄文)		磨消縄文 (口縁部)	外面 磨消縄文	内面 ナデ
6	I 2	深鉢 (縄文)		磨消縄文 (頸部)	外面 磨消縄文	内面 2枚貝条痕文
7	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈縄文 (頸部)	外面 磨消縄文	内面 ナデ
8	T	深鉢 (縄文)		磨消縄文 (頸部)	外面 磨消縄文	内面 ナデ
9	G 2	深鉢 (縄文)		磨消縄文 (頸部)	外面 磨消縄文	内面 ナデ
10	F 3	深鉢 (縄文)		磨消縄文 (頸部)	外面 磨消縄文	内面 2枚貝条痕文
11	T 2	深鉢 (縄文)		磨消縄文 (頸部)	外面 磨消縄文	内面 2枚貝条痕文
12	I 2	深鉢 (縄文)		磨消縄文 (頸部)	外面 磨消縄文	内面 ナデ
13	H 3	深鉢 (縄文)		沈縄文 (口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
14	C 2	深鉢 (縄文)		凹縞文 (口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
15	G 2	深鉢 (縄文)		縄文 (口縁部)	外面 縄文	内面 ナデ
16	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 (頸部)	外面 縄文	内面 ナデ
17	I 2	深鉢 (縄文)		磨消縄文 (頸部)	外面 磨消縄文	内面 ナデ

図版番号	出土地点	種別	法量	文様	様	手	法	備考
18	H 2	深鉢 (縄文)		磨消繩文	(頸部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
19	I 2 ~ I 3	深鉢 (縄文)		沈線文	(胴部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
20	I 2	深鉢 (縄文)		沈線文	(頸部)	外面 ナデ	内面 ナデ	2枚貝条痕文
27-1		深鉢 (縄文)		磨消繩文	(頸部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
2		深鉢 (縄文)		口縁端彫沈線文 口縁端部外面沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
3	I 2	深鉢 (縄文)		沈線文	(頸部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
4	I 2	深鉢 (縄文)		磨消繩文	(頸部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
5	I 2	深鉢 (縄文)		磨消繩文	(頸部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
6	T 2	深鉢 (縄文)		磨消繩文	(頸部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
7	H 2 ~ T 3	深鉢 (縄文)		繩文 沈線文	(頸部)	外面 繩文 ナデ	内面 ナデ	
8	I 2	浅鉢 (縄文)		磨消繩文	(口縁部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
9	I 2	浅鉢 (縄文)		磨消繩文	(口縁部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
10	I 2	浅鉢 (縄文)		磨消繩文	(口縁部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
11	T 2	浅鉢 (縄文)		沈線文				
12	I 2	浅鉢 (縄文)		磨消繩文	(体部)	外面 磨消繩文	内面 ナデ	
13	I 2	浅鉢 (縄文)		沈線文	(体部)	外面 ミガキ	内面 ミガキ	
14	T 3	深鉢 (縄文)	b : 11, 2	沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
15	F 2	深鉢 (縄文)		沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
16	F 1	深鉢 (縄文)		沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
17		深鉢 (縄文)		凹線文				

閃版番号	出土地点	種別	法量	文様	様手	法	備考
18	I 2	深鉢 (縦文)		沈線文 (顎部)	外面ナデ	内面ナデ	
19	I 2	深鉢 (縦文)		沈線文			
20		深鉢 (縦文)		沈線文 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	春20,21,22は同一個体
21		深鉢 (縦文)		沈線文 (顎部)	外面ナデ	内面ナデ	春
22	G 2	深鉢 (縦文)		沈線文 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	春
23	H 2	深鉢 (縦文)		口縁端部彌文 口縁端部沈線文 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	
24	I 2	深鉢 (縦文)		口縁部外山貼付突唇 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	
25	H 2	浅鉢 (縦文)		口縁端部彌文 口縁端部沈線文 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	
26	H 2	浅鉢		沈線文 (体部)	外面ナデ	内面ナデ	
28-1	H 2	深鉢 (縦文)		口縁端部沈線文 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	
2		深鉢 (縦文)		口縁端部外山彌文 口縁端部外面沈線文 (口縁部) (顎部)	外面 御文 ナデ	内面 ナデ	
3	I 2～ I 3	深鉢 (縦文)		口縁端部外山沈線文 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	
4	G 2	深鉢 (縦文)	c : 16.0	沈線文 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	
5	T 2	浅鉢 (縦文)		腹部刺突文	外面ミガキ	内面ミガキ	反転復元
6	I 3	深鉢 (縦文)		磨消彌文 (口縁部)	外面密消彌文	内面ナデ	
7	T 2	深鉢 (縦文)		口縁端部沈線文			
8	I 2～ I 3	深鉢 (縦文)		口縁端部沈線文			
9	I 3	深鉢 (縦文)		口縁部外面刺突文 口縁部外面沈線文 口縫端部沈線文 (口縁部)	外面ナデ	内面ナデ	
10	G 2	深鉢 (縦文)	c : 21.4	口縫端部刺突文 (口縁部)	外面ナデ	内面ミガキ	反転復元
11	I 2	浅鉢 (縦文)	C : 18.8	縦文 沈線文 (口縁部)	外面御文	内面ナデ	反転復元

図版番号	出土地点	種別	法量	文様	手	法	備考
12	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 (腹部)	外面 縄文	内面 ナデ	
13	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 (口縁部)	外面 縄文	内面 ナデ	
14	G 2	深鉢 (縄文)		刺突文 沈線文 (頸部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
15	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈線文 刺突文(沈線内刺突)	(胸部)	外面 縄文	内面 ナデ
16	I 2	深鉢 (縄文)		沈線文 (腹部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
17	G 2	深鉢 (縄文)		沈線文 (腹部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
18	G 3	深鉢 (縄文)		沈線文 (腹部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
19		深鉢 (縄文)	c : 26.8	縄文 (口縁部)	外面 縄文 ナデ	内面 ナデ	
20-1	I 2	浅鉢 (縄文)		擬縄文 (口縁部)	外面 擬縄文 ミガキ	内面 ミガキ	反転復元
2	G 2	浅鉢 (縄文)	c : 17.6	沈線文	外面 ミガキ	内面 ミガキ	反転復元
3		浅鉢 (縄文)		口縁端部縄文 (口縁部)	外面 縄文 ナデ	内面 縄文 ナデ	
4	I 3	浅鉢 (縄文)		口縁部外山縄文 口縁部内面沈線文 刺突文(沈線内刺突)	(口縁部)	外面 縄文 ミガキ	内面 ミガキ
5		浅鉢 (縄文)		口縁端部縄文 (口縁部)	外面 縄文 ナデ	内面 縄文 ナデ	
6	I 3	浅鉢 (縄文)		口縁端部外山縄文 沈線文 (口縁部)	外面 縄文 ナデ	内面 ナデ	
7	H 2	浅鉢 (縄文)		口縁端部擬縄文 (口縁部)	外面 擬縄文 ナデ	内面 ナデ	
8	G 2	浅鉢 (縄文)		沈線文 (体部)	外面	内面 ミガキ	
9	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈線文 (腹部)	外面 縄文 ナデ	内面 ナデ	
10	I 3	深鉢 (縄文)		沈線文 (腹部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
11	G 2	深鉢 (縄文)		沈線文 (腹部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
12	G 2	深鉢 (縄文)		刺突文 沈線文 (口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	

図版番号	出土地点	種別	法量	文様	手	法	備考
13	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈線文	(側部)	外面 縦文 ナデ	内面 2枚貝条痕文
14	I 3	浅鉢 (縄文)		沈線文	(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
15	D 2	浅鉢 (縄文)		沈線文			
16	I 2	浅鉢 (縄文)		貝殻刺突文 沈線文	(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
17	I 2	浅鉢 (縄文)		縄文 沈線文	(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
18	II 2	浅鉢 (縄文)		磨消縄文	(体部)	外面 磨消縄文 ナデ	内面 ナデ
19		浅鉢 (縄文)		沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
20	I 3	深鉢 (縄文)		結節縄文	(口縁部・体部) (頸部)	外面 縦文 ナデ	内面 ナデ
30-1	I 3 ~ J 3	深鉢 (縄文)		沈線文		外面 ナデ	内面 ナデ
2	H 2	深鉢 (縄文)		縄文	(口縁部) (頸部)	外面 縦文 ナデ	内面 ナデ
3	G 3	注口上器 (縄文)		磨消縄文 (擬縄文、沈線内刺突)	(体部)	外面 磨消縄文	内面 ナデ
4	I 2	深鉢 (縄文)		縄文	(口縁部)	外面 縦文 ナデ	内面 縦文 ナデ
5	I 2	浅鉢 (縄文)		縄文 沈線文	(口縁部)	外面 縦文 ナデ	内面 ナデ
6	II 2 ~ II 3	浅鉢 (縄文)		沈線文			
7	H 2	浅鉢 (縄文)		縄文 沈線文	(体部)	外面 縦文 ナデ	内面 ナデ
8	I 2	深鉢 (縄文)		凹線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
9	I 2	深鉢 (縄文)		凹線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 2枚貝条痕文
10	I 2	深鉢 (縄文)		凹線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
11	H 3	深鉢 (縄文)		凹線文 沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
12		深鉢 (縄文)		沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ

閑版番号	出土地点	種別	法量	文様	様	手	法	備考
13	II 2	深鉢 (縦文)		凹線文		(山根部)	外面 ナデ	内面 ナデ
14	I 2	深鉢 (縦文)		凹線文		(山根部)	外面 ナデ	内面 ナデ
15	G 2 G 3	浅鉢 (縦文)	c : 26.4	凹線文 扁状压痕			外面 ミガキ	内面 ミガキ
16	II 2	浅鉢 (縦文)		凹線文		(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
17	H 2	浅鉢 (縦文)		凹線文 沈線文			外面 ナデ	内面 ナデ
18	I 2	浅鉢 (縦文)		凹線文		(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
19	II 3	浅鉢 (縦文)		凹線文		(山根部)	外面 ナデ	内面 ケズリ
20	I 2	浅鉢 (縦文)		凹線文		(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
21	H 2	浅鉢 (縦文)		凹線文		(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
22		浅鉢 (縦文)		凹線文		(山根部)	外面 ナデ	内面 ナデ
23	G 3	浅鉢 (縦文)		凹線文		(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
24	G 3	浅鉢 (縦文)		沈線文		(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
31-1	G 3	深鉢 (縦文)	c : 39.6	沈線文		(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
2	I 3	浅鉢 (縦文)	c : 40.0			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
3		浅鉢 (縦文)	c : 23.2					反転復元
4	G 3	浅鉢 (縦文)	c : 17.0			(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ナデ
5		浅鉢 (縦文)	c : 20.8			(口縁部)	外面 ナデ後ミガキ	内面 ナデ
6	I 2 ~ I 3	浅鉢 (縦文)		沈線文		(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
7	I 2	浅鉢 (縦文)				(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
8	G 3	浅鉢 (縦文)				(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ミガキ

区段番号	出土地点	種別	法量	文様	手法	機	考
9	I 2	浅鉢 (縦文)			(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ミガキ
10	H 2	浅鉢 (縦文)			(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ケズリ
11	II 2 ~ H 3	浅鉢 (縦文)		刺突文 沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ミガキ
12	H 2	浅鉢 (縦文)		沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
13	G 3	浅鉢 (縦文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
14	I 2	浅鉢 (縦文)	c : 25.2	沈線文 口縁部穿孔	(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ミガキ
15	I 1	浅鉢 (縦文)	c : 17.2	沈線文	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ミガキ
16	G 2	浅鉢 (縦文)	c : 24.4		(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ミガキ
17	G 3	浅鉢 (縦文)	c : 21.7		(口縁部)	外面 ナデ	内面 条痕文、ナデ
18	I 2	浅鉢 (縦文)			(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ミガキ
19	I 3	浅鉢 (縦文)		口縁部外山突帯			
20	E 3	深鉢 (縦文)		輪状浮文(円形突起)	(体部)	外面 ナデ	内面 ナデ
32-1	I 3	深鉢 (縦文)	c : 22.0	口縁部内面次帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
2	I 2	深鉢 (縦文)	c : 20.0	口縁部内面突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
3		深鉢 (縦文)	c : 21.0	口縁部内面突帯	(口縁部)	外面 条痕文	内面 ナデ
4	I 3	深鉢 (縦文)		口縁部内面突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
5	H 3	深鉢 (縦文)		口縁部内面突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
6	I 2	深鉢 (縦文)		口縁部内面突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
7	I 2	浅鉢 (縦文)	c : 28.6	口縁部内面突帯	(口縁部)	外面 条痕文、ナデ	内面 ナデ
8	I 2	浅鉢 (縦文)		口縁部内面次帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ

図版番号	出土地点	種別	法量	文様	手	法	備考
9	I 2	浅鉢 (縦文)	c : 17.6	口縁部内面突帯 口縁部内面指頭圧痕	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
10	I 2	浅鉢 (縦文)		口縁部内面突帯 口縁部内面指頭圧痕	(口縁部)	外前 条痕文、ナデ	内面 ナデ
11	G 3	深鉢 (縦文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
12	G 2	深鉢 (縦文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
13	G 3	浅鉢 (縦文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ ケズリ
33-1	G 2 F 2	深鉢 (縦文)	c : 31.4			外面 ナデ	内面 条痕文
2	I 3	深鉢 (縦文)	c : 30.0			外面 条痕文	内面 条痕文
3	I 3	深鉢 (縦文)	c : 29.2			外前 条痕文	内面 ナデ、ミガキ
4	I 3	深鉢 (縦文)	c : 26.0			外前 条痕文	内面 条痕文、ナデ
5	I 2	深鉢 (縦文)	c : 27.4			外前 条痕文、ナデ	内面 ナデ
6	H 3	深鉢 (縦文)	c : 30.4			外前 条痕文	内面 ナデ
7	I 2	深鉢 (縦文)	c : 34.0			外前 条痕文	内面 ナデ
8	I 2	深鉢 (縦文)	c : 28.6			外前 条痕文	内面 ケズリ、ナデ
9	I 3 ~ J 3	深鉢 (縦文)	c : 34.6			外前 条痕文、ナデ	内面 条痕文、ナデ
34-1	G 2 G 3	深鉢 (縦文)	c : 31.3			外前 ナデ	内面 ナデ
2	I 3	深鉢 (縦文)	c : 25.2			外前 ナデ	内面 2枚貝条痕文 ナデ
3	H 3	深鉢 (縦文)	c : 29.0			外前 ナデ	内面 ナデ
4	H 2	深鉢 (縦文)	c : 31.8			外前 ナデ	内面 ナデ
35-1	I 2	深鉢 (縦文)			(口縁部)	外前 2枚貝条痕文 ナデ	内面 ナデ
2	G 3	深鉢 (縦文)			(口縁部)	外前 ナデ	内面 ナデ

岡版番号	出土地点	種別	法量	文様	手法	備考
3	I 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
4	G 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) ミガキ 内面	
5	I 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
6	G 1	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
7	G 3	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
8	H 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
9	I 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) ナデ 内面	
10	I 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面 ナデ	
11	I 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
12	H 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 条痕文、ナデ 内面	
13		深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面 ナデ	
14	G 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) ナデ 内面	
15	G 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
16	H 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) ナデ 内面	
17	I 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
18	I 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
19	H 3	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) ナデ 内面	
20	G 2	深鉢 (縞文)			外面 (口縁部) 2枚貝条痕文 内面	
36-1	I 2	深鉢 (縞文)	c : 29.8		外面 (口縁部) ナデ 内面	反転復元
2	H 2	深鉢 (縞文)	c : 31.0		外面 (口縁部) ナデ 内面	反転復元

列版番号	出土地点	種別	法量	文様	様	手	法	備考
3	I 3	深鉢 (縞文)	c : 30.0		(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	反転復元
4	I 2	深鉢 (縞文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
5	I 2	深鉢 (縞文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
6	I 2	深鉢 (縞文)	c : 25.6		(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	反転復元
7	G 3	深鉢 (縞文)			(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ナデ	
8	H 3	深鉢 (縞文)	c : 23.6		(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	反転復元
9	I 3	深鉢 (縞文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
10	II 3	深鉢 (縞文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
11	G 3	深鉢 (縞文)			(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	
12	I 2	深鉢 (縞文)			(口縁部)	外面 条痕文、ナデ	内面 ナデ	
37-1	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	
2	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	
3	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	
4	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	
5	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	
6	H 3	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	
7	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文 ナデ	内面 2枚貝条痕文	
8	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	表面穿孔(未貫通)
9	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	
10	I 2	深鉢 (縞文)			(脚部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文	

図版番号	出土地点	種別	法量	文	様	手	法	備	考
11	I 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 ナデ	内面 2枚貝条痕文		
12	H 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 ナデ	内面 2枚貝条痕文		
13	I 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文		
14	I 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 ナデ	内面 2枚貝条痕文 ナデ		
38-1	I 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 ナデ	内面 ナデ		
2	I 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 ナデ	内面 巻貝条痕文		
3	I 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 巻貝条痕文	内面 巻貝条痕文		
4	H 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 ナデ	内面 巻貝条痕文		
5	I 2	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 ナデ	内面 巻貝条痕文		
6	G 1	深鉢 (縦文)			(胸部)	外面 粗いミガキ	内面 ナデ		
7	I 2	底部 (縦文)	b : 8.0		(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	底面部外面に棒状工具による圧痕 反転復元	
8	I 2	底部 (縦文)	b : 10.2		(胸部) (底部)	外面 2枚貝条痕文 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文 2枚貝条痕文	反転復元	
9	I 2	底部 (縦文)	b : 7.0		(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	反転復元	
10	G 3	底部 (縦文)	b : 5.5		(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ		
11	G 3	底部 (縦文)	b : 5.6		(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	反転復元	
12	G 3	底部 (縦文)	b : 4.8		(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	反転復元	
13	H 2	底部 (縦文)	b : 6.5		(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	反転復元	
14	G 2	底部 (縦文)	b : 8.6		(胸部) (底部)	外面 2枚貝条痕文 ナデ	内面 ナデ ナデ	反転復元	
15	G 2	底部 (縦文)	b : 9.0		(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	反転復元	
16	F 2	底部 (縦文)	b : 5.0			反転復元			

図版番号	出土地点	種別	法環	文様	手法	備考
17	G 3	底部 (縦文)	b : 6.0	(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ
18	I 3 ~ I 4	底部 (縦文)	b : 8.8	(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ
19	G 3	底部 (縦文)	b : 5.4	(胸部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ
39-1	I 2	深鉢 (縦文)		口縁部内面刺突文	(口縁部) 2枚貝条痕文	内面 ナデ
2	E 3	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部内面刺突文	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
3	I 2	深鉢 (縦文)		口縁部内面半段竹管による刺突	(口縁部) 条痕文	内面 ナデ ナデ
4	I 2	深鉢 (縦文)	c : 24.8	口縁端部刻目	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
5	I 2 G 1	深鉢 (縦文)		口縁端部内面及び外面刻突(2方向から刻突)	(口縁部) 巻貝条痕文	内面 ナデ ナデ
6	H 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目	(口縁部) 条痕文	内面 ナデ
7	F 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
8	G 1	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目	(口縁部) 条痕文	内面 ナデ
9	F 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
10	G 1	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目	(口縁部) 条痕文	内面 ナデ
11	I 1	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
12	H 3	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
13	H 3	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
14	H 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
15	G 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
16	G 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
17	F 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ

岡版番号	出土地点	種別	法量	文様	手	法	備考
18	I 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
19	G 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 2枚貝条痕文
20	G 2	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 2枚貝条痕文
21	G 1	深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
22		深鉢 (縦文)		口縁端部刻目 口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文
40-1	F 2	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
2	G 1	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
3	G 2	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
4	F 2	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 2枚貝条痕文	内面 2枚貝条痕文
5	II 3	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
6	G 1	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
7	II 2	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 条痕文	内面 ナデ
8	H 2	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
9	F 2	深鉢 (縦文)		口縁部外面突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
10	H 2	浅鉢 (縦文)	c : 25.6	口縁部外面突帯	(口縁部)	外面 ミガキ	内面 ミガキ
11	H 2	深鉢 (縦文)		口縁部外面突帯			
12	I 2 ~ I 3	深鉢 (縦文)		口縁部外面突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
13		深鉢 (縦文)		口縁部外面突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
14	I 2	深鉢 (縦文)		口縁部外面突帯	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ
15	H 1	深鉢 (縦文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部)	外面 条痕文	内面 ナデ

図版番号	山土地点	種別	法量	文様	手法	備考
16	G 2	深鉢 (縄文)		口縁部外面刻目突帯	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
17	F 2	深鉢 (縄文)		口縁部外面刻目突帯	(脚部) 外面 ナデ	内面 ナデ
18	I 2	深鉢 (縄文)		頸部外面刻目突帯	(頸部) 外面 ナデ	内面 ナデ
19	F 2	深鉢 (縄文)		脚部外面刻目突帯	(脚部) 外面 ナデ	内面 ナデ
41-1	I 2	深鉢 (縄文)	c : 37.0	沈線文	(口縁部) 外周 ナデ	2枚貝条痕文 ナデ
2	I 2	深鉢 (縄文)	c : 30.0	縄文	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
3	I 2	深鉢 (縄文)		縄文	(口縁部) (脚部) 外面 ナデ	内面 ナデ ナデ
4	I 2	深鉢 (縄文)		縄文 沈線文 刻目突帯文	(脚部) 外面 ナデ	内面 ナデ
5	H 2	深鉢 (縄文)		突帯文	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
6	G 2	深鉢 (縄文)			(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
7	I 3	深鉢 (縄文)			(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
8	I 2 I 3	深鉢 (縄文)				
9	G 3	深鉢 (縄文)		口縁部外面突帯 縄文	(口縁部) (脚部) 外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ
10		深鉢 (縄文)		口縁部外面刻突文 口縁部外面刻目突帯	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
11	F 2	深鉢 (縄文)		沈線文	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
12	G 2	深鉢 (縄文)		口縁端部刻目	(口縁部) 外面 ナデ	内面 ナデ
13	I 2	深鉢 (縄文)		頸部外面突帯 縄文	(頸部) 外面 ナデ	内面 ナデ
14	I 2	深鉢 (縄文)			(頸部) 外面 ナデ	内面 ナデ
15	I 2	深鉢 (縄文)			(頸部) 外面 ナデ	内面 ナデ
16		深鉢 (縄文)			(頸部) 外面 ナデ	内面 ナデ

図版番号	出土地点	種別	法量	文 様	手	法	備 考
17	I 2	深鉢 (縦文)			(頸部)	外面 条痕文	内面 ナデ
18	H 2	深鉢 (縦文)		縦文	(頸部)	外面 縦文	内面 ナデ
19	G 3	深鉢 (縦文)		外山刺突文	(頸部)	外面 ナデ	内面 ナデ
20	I 2	深鉢 (縦文)		沈線文	(頸部)	外面 ナデ	内面 ナデ
42-1	H 2 I 2	壺 (弥生)	c : 33.2	口縫端部刺突文	(口縫部・頸部) (制部)	外面 ハケ目 ハケ目	内面 ナデ、ハケ目 ナデ
2	H 3	壺 (弥生)	c : 23.8	口縫端部刺突文 沈線文			反転復元
3	I 2	壺 (弥生)	c : 12.8	沈線文	(口縫部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ハケ目
4	I 2	壺 (弥生)		列点文 沈線文	(頸部)	外面 ハケ目	内面 ハケ目
5	H 2	壺 (弥生)		沈線文 列点文	(頸部)	外面 ミガキ	内面 ナデ
6	G 2	壺 (弥生)		羽状文 沈線文	(肩部)	外面 羽状文	内面 ナデ
7	H 3	壺 (弥生)		刺目尖帶			
8	G 3	壺 (弥生)		沈線文	(頸部)	外面 ハケ目	内面 ハケ目
9	H 3	壺 (弥生)			(頸部)	外面 ナデ	内面 ハケ目
10	H 3	底部 (弥生)	b : 10.4		(頸部) (底部)	外面 ハケ目 ナデ	内面
11	I 2	底部 (弥生)	b : 9.0				反転復元
12	H 2	底窓 (弥生)	b : 15.8		(頸部) (底部)	外面 ミガキ ケズリ	内面 ハケ目 ナデ
43-1	E 3	壺 (弥生)	c : 26.0		(口縫部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ ハケ目
2	I 1	壺 (弥生)	c : 18.0		(口縫部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ
3	I 1	壺 (弥生)	c : 17.6	口縫端部刺目 頸部列点文(貝殻文)	(口縫部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ ハケ目
4	H 1	壺 (弥生)	c : 19.4		(口縫部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ハケ目 ナデ

回収番号	出土地点	種別	法量	文	様	手	法	備考
5	E 2 G 1 I 1	甕 (弥生)	c : 22.4 h : 28.8 b : 6.3		(口縁部) (胴部)	外面 ナデ ナデ、ハケ目	内面 ナデ ナデ	反転復元
6	H 1	甕 (弥生)		列点文 押引文	(肩部)	外面 ハケ目	内面 ハケ目 ケズリ	
7	I 3	甕 (弥生)		沈線文 押引文 列点文	(頸部)	外面 ナデ	内面 ナデ ハケ目	
8	H 3	甕 (弥生)		押引文 列点文				
9	H 3	高环 (弥生)	c : 26.0	口縁部四線文	(口縁部)	外面 凹線文	内面 ナデ ハケ口	反転復元
10	F 2	高环 (弥生)	c : 16.6	口縁部四線文(一条おき に刻目)	(口縁部)	外面 凹線文 ナデ	内面 ナデ ハケ目	反転復元
11	C 3	底部 (弥生)	b : 8.1		(胴部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
12	H 1	底部 (弥生)	b : 3.2		(肩部) (胴部)	外面 ミガキ ナデ	内面 ケズリ ケズリ	反転復元
13	I 1	底部 (弥生)	b : 6.4		(胴部) (底部)	外面 ミガキ ナデ	内面 ナデ ナデ	
14	E 2	底部 (弥生)	b : 4.8		(肩部) (底部)	外面 ハケ口 ナデ	内面 ケズリ	
15	H 1 C 1	底部 (弥生)	b : 4.4		(肩部) (底部)	外面 ミガキ ナデ	内面 ケズリ ナデ	
16	G 1	底部 (弥生)	b : 4.2		(胴部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	
17	G 2	高环 (弥生)	b : 13.0	脚端部外側刻目		外面 ナデ	内面 ケズリ	
18	F 3	底部 (不明)	b : 5.8		(底部)	外面 ナデ	内面 ケズリ、ナデ	
44-1	H 1 H 2 I 1	甕 (弥生)	c : 33.3	口縁部四線文	(口縁部) (胴部)	外面 凹線文 ハケ目	内面 ナデ ケズリ	反転復元
2	G 2	甕 (弥生)	c : 37.8	口縁部擬四線文	(口縁部) (胴部)	外面 擬四線文 ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
3	G 2	鉢 (弥生)	c : 13.2		(口縁部) (胴部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ ケズリ	反転復元
4	G 1	鉢 (弥生)	c : 14.8		(口縁部) (肩部)	外面 ナデ ハケ口	内面 ナデ ケズリ	反転復元
5	F 3	甕 (弥生)	c : 11.2	口縁部擬凹線文	(口縁部) (底部)	外面 擬凹線文 ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
6	H 1	甕 (弥生)	c : 14.2		(口縁部) (底部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ	反転復元

図版番号	出土地点	種別	法量	文様	手	法	備考	
7	I 2	壺 (弥生)	c: 15.4		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
8		壺 (弥生)	c: 13.6		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ ハケ目	反転復元
9	G 1 H 1 H 2	壺 (弥生)	c: 16.4		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ハケ目	反転復元
10	G 1	壺 (弥生)	c: 19.8		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
11	I 2	壺 (弥生)	c: 18.0		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
12	F 1	壺 (弥生)	c: 13.8		(口縁部) (頸部)	外面 ハケ目 ハケ目	内面 ナデ ケズリ	反転復元
13	F 1	壺 (弥生)	c: 15.6	擬凹線文	(口縁部)	外面 擬凹線文 ナデ	内面 ナデ	反転復元
14	H 2	壺 (弥生)	c: 20.0	擬凹線文	(口縁部)	外面 擬凹線文 ナデ	内面 ナデ	反転復元
15	E 2	壺 (弥生)	c: 15.4	擬凹線文	(口縁部) (頸部)	外面 擬凹線文 ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
16	F 1	壺 (弥生)	c: 20.0	擬凹線文	(口縁部) (頸部)	外面 擬凹線文 ナデ	内面 ミガキ ケズリ	反転復元
45-1	G 1	壺 (弥生)	c: 29.4		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
2	C 2	壺 (弥生)	c: 15.5		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ ケズリ、ナデ	反転復元
3	F 2	壺 (弥生)	c: 16.0		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ ケズリ	反転復元
4	H 2	壺 (弥生)	c: 15.4	擬凹線文	(口縁部) (頸部)	外面 擬凹線文 ナデ	内面 ナデ	反転復元
5	G 1	壺 (弥生)	c: 17.4	擬凹線文	(口縁部) (頸部)	外面 擬凹線文 ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
6	F 1	鼓形器台 (弥生)		擬凹線文	(脚部) (底部)	外面 ナデ 擬凹線文	内面 ケズリ	反転復元
7	G 1	壺 (弥生)	c: 5.8		(頸部)	外面 ハケ目	内面 ケズリ	反転復元
46-1	G 1	壺 (土師器)	c: 25.5		(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ ケズリ	反転復元
2	G 1	壺 (土師器)	c: 15.8	織杉文(頸部上方) 脚部穿孔	(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目	内面 ナデ ケズリ	
3	G 1	壺 (土師器)	c: 14.0	織杉文(頸部上方)	(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ハケ目、ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元

図版番号	出土地点	種別	法量	文様	手	法	備考
4	F 1	壺 (土師器)	c : 17.8	(山線部) (胸部)	外面 ナデ ハケ口	内面 ナデ ケズリ	反転復元
5	F 2	壺 (土師器)	c : 13.4	織杉文(胸部上方) (口縁部) (胸部)	外面 ナデ ハケ口	内面 ナデ ケズリ、ナデ	反転復元
6	E 2	壺 (土師器)	c : 22.8	(口縁部)	外面 ナデ	内面 ナデ	反転復元
7		壺 (土師器)	c : 20.6	織杉文(頸部) (山線部) (頸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ナデ、ケズリ	反転復元
8	G 1	壺 (土師器)	c : 13.0	(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ハケ口	内面 ナデ ケズリ	反転復元
47-1	E 2	壺 (土師器)	c : 16.4	(口縁部) (頸部)	外面 ハケ口	内面 ナデ ナデ	反転復元
2	F 2	壺 (土師器)	c : 10.6	(山線部) (胸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
3	F 2	長頸壺 (土師器)	c : 15.0	(口縁部) (頸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
4	G 1	直口壺 (土師器)	c : 10.2 h : 17.5	(口縁部) (頸部)	外面 ナデ、ハケ口 ナデ、ハケ口	内面 ナデ、ハケ口 ケズリ、ナデ	
5	C 2	壺 (土師器)	c : 16.6	(山線部) (胸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
6	G 1	低脚壺 (須磨器)					
7	G 2	低脚壺 (土師器)	b : 20.2				反転復元
8		高环 (土師器)	b : 12.0	(胸部) (底部)	外面 ハケ口 ハケ目	内面 ケズリ ハケ目	反転復元
9	C 3	壺 (土師器)	c : 14.0	(口縁部) (胸部)	外面 ナデ ナデ	内面 ナデ ケズリ	反転復元
10	C 3	壺 (土師器)	c : 16.0	(山線部) (胸部)	外面 ナデ ハケ口	内面 ナデ ケズリ	反転復元
11	I 3	壺 (土師器)	c : 18.4	(口縁部) (胸部)	外面 ナデ ハケ口	内面 ナデ ケズリ	反転復元 顎部内面にヘラ状 工具による切痕
12	F 2	高环 (土師器)	c : 15.0	(山線部) (口縁部)	外面 ナデ ハケ口	内面 ナデ ナデ	反転復元
13	F 3	高环 (土師器)		(环底部) (胸部)	外面 ハケ目 ナデ	内面 ナデ ナデ	
14	F 1	高环 (土師器)	b : 13.0	(环底部) (胸部)	外面 ハケ口	内面 ナデ ケズリ	
15		壺 (土師器)	b : 5.8	(体部) (胸部)	外面 四転ナデ 静止条切り	内面 四転ナデ	反転復元

石 器 計 測 表

図版番号	出土地点	種 別	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
49-1	2区	磨製石斧	7.8	7.2	1.3	112.6
49-2	1区	磨製石斧	9.1	5.3	3.1	228.2
49-3	1区F1	石 錄	3.2	1.6	0.4	1.1
49-4	1区	石 錄	2.3	1.6	0.35	1.0
49-5	1区I3	石 錄	3.1	-	0.5	1.3
49-6	1区F1	石 錄	4.8	1.7	0.35	3.4
49-7	1区C2	石 錄	3.2	1.6	0.4	1.8
49-8	1区	不 明	3.0	2.0	1.1	4.8
49-9	1区	不 明	3.4	2.5	1.0	7.2
49-10	1区	不 明	3.9	2.2	1.3	9.1
49-11	1区I3	不 明	4.8	3.0	1.3	23.3
49-12	1区I3	不 明	3.7	3.3	1.4	22.6

参考文献

- 島根県教育委員会 「三田谷Ⅰ遺跡」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書V」 1999
 島根県教育委員会 「古志本郷遺跡」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書VI」 1999
 島根県教育委員会 「森遺跡」「志津見ダム予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書2」 1994
 島根県教育委員会 「板屋Ⅲ遺跡」「志津見ダム予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5」 1995
 島根県教育委員会 「西川沖遺跡IV」「駒羽川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第11冊」 1999
 鹿島町教育委員会 「南講武草刈遺跡」「南講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書5」 1992
 正岡睦夫・松木岩雄編 「弥生土器の様式と編年-山陽・山陰編」 1992



2区調査前全景



三田谷4号填埋地状況

図版2



三田谷4号墳（南から）



三田谷4号墳（南西から）



三田谷4号墳横断土層（西側）



三田谷4号墳横断土層（東側）

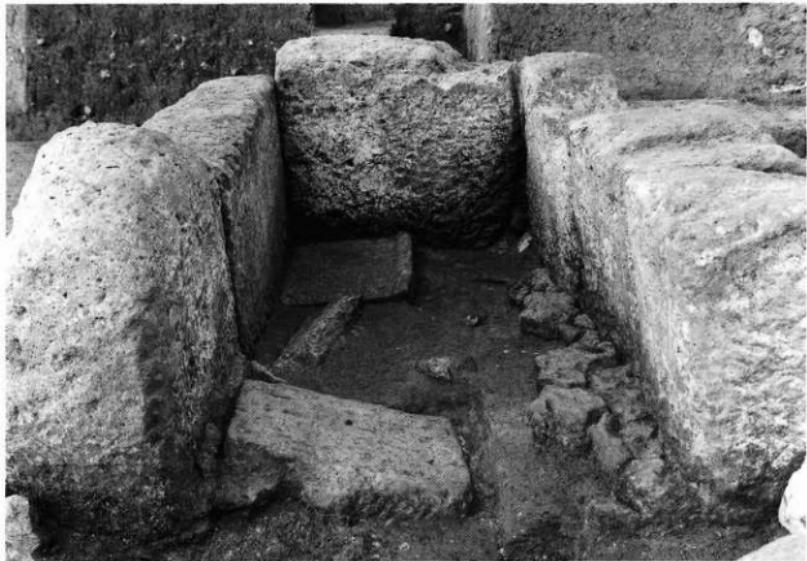
図版4



三田谷4号墳横断土層（南側）



三田谷4号墳縦断土層（北側）



三田谷4号墳玄室（南から）



三田谷4号墳玄室（東から）

図版6



三田谷4号墳石床



三田谷4号墳石室（南から）

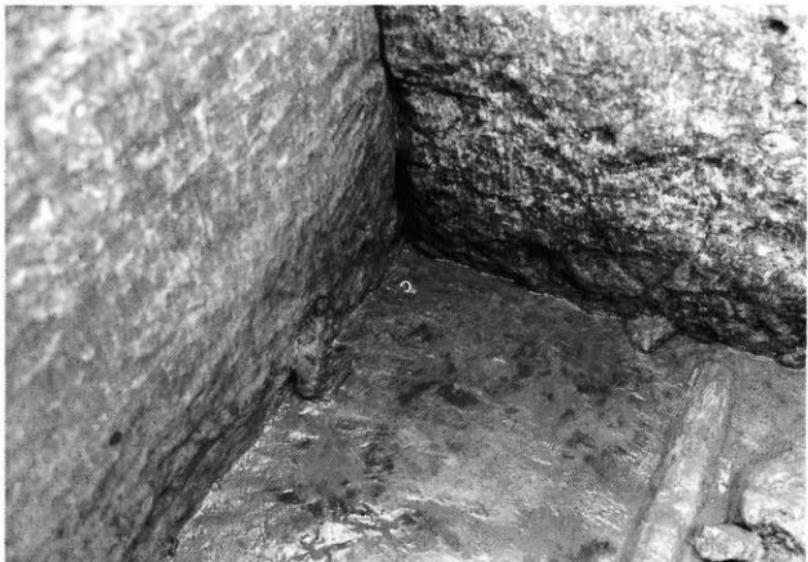


三田谷4号墳遺物出土状況（東から）



三田谷4号墳遺物出土状況

図版8



三田谷4号墳玄室内遺物出土状況1



三田谷4号墳玄室内遺物出土状況2

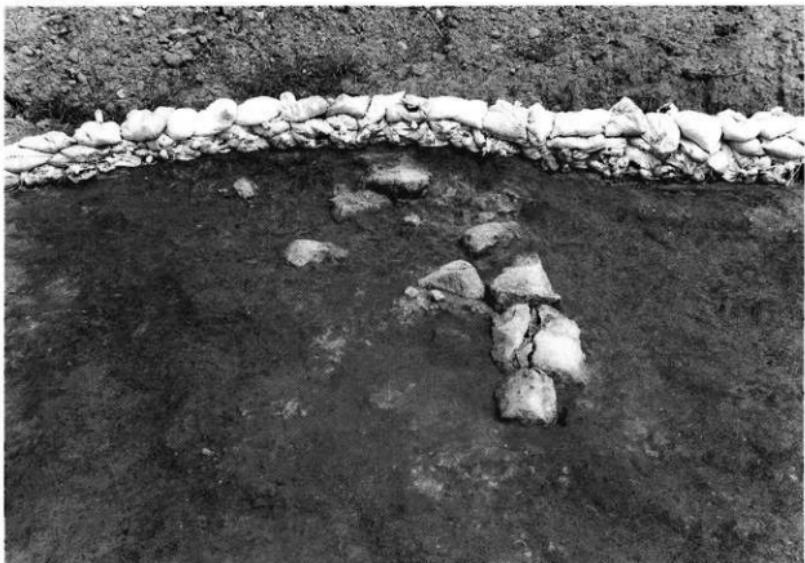


三田谷4号墳石室（北から）



三田谷4号墳石室除去後

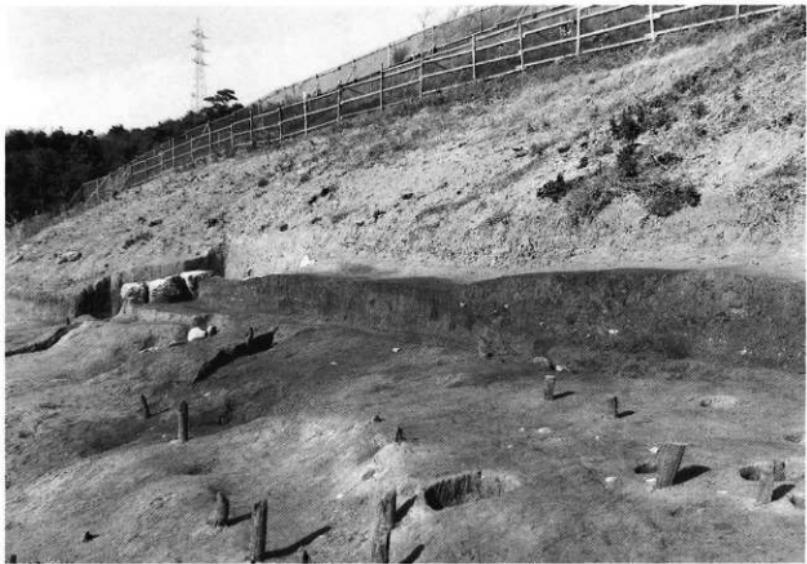
図版10



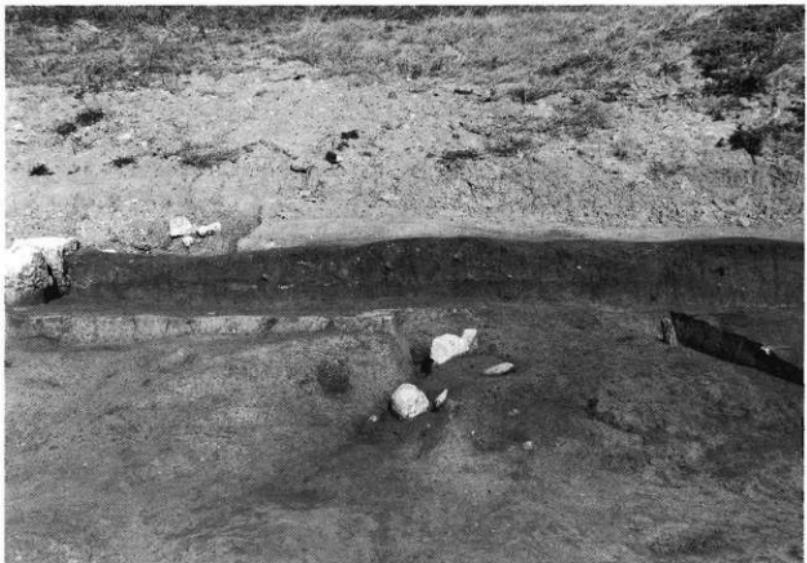
三田谷5号墳検出状況



三田谷5号墳縦断土層



三田谷5号墳横断土層（南東から）



三田谷5号墳横断土層（南から）

図版12



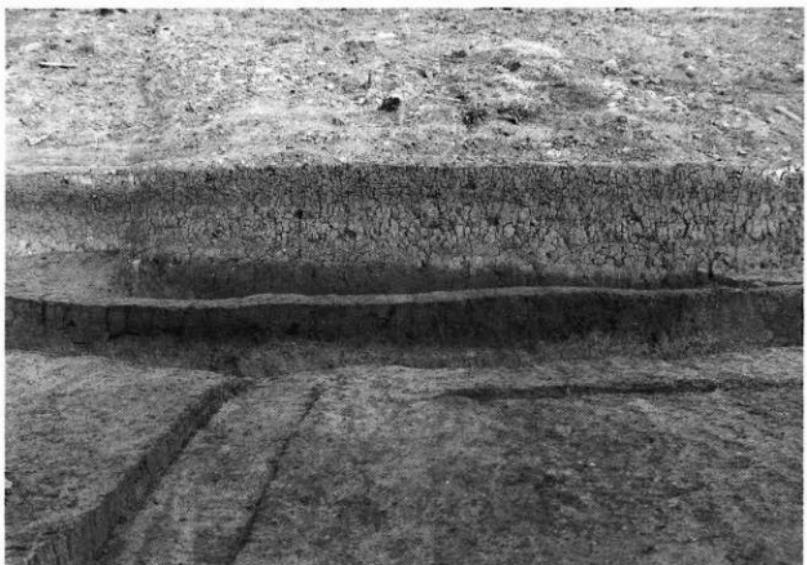
三田谷5号墳石室（南から）



三田谷5号墳石室（西から）



SI01土層（南東から）

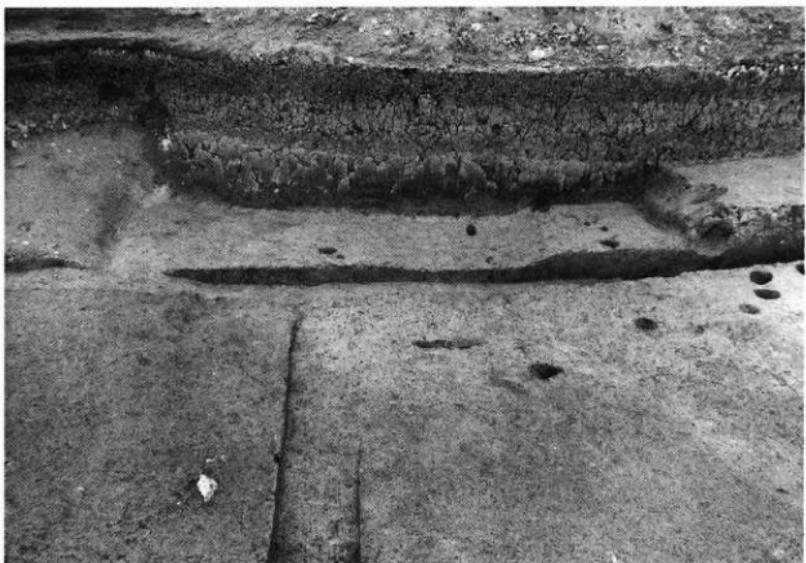


SI01土層（南から）

図版14



SI01貼り床検出状況



SI01調査終了後



2区調査終了後



三田谷4号墳（上空から）

図版16



1区調査風景（北東から）



1区南壁土層図（西から）